

- 特集** 2011年度・2012年度開設博物館情報
(開設博物館一覧表：245館掲載)
- 特集** 2011年度・2012年度リニューアル博物館情報
(リニューアル博物館一覧表：314館掲載)

特集：2011年度・2012年度開設博物館情報

丹青研究所調べによる、2011年度・2012年度(2011年4月～2013年3月)に開設した全国の博物館数は245館です。ここでは、各館からいただいた資料や当研究所が独自に収集したデータをもとに、2011・2012年度の開設博物館について傾向を示し、都道府県別の開設博物館リストを掲載します。

■ 2011・2012年度開設博物館の傾向

245館の内訳は、2011年度(2011年4月～2012年3月)開設博物館122館、2012年度(2012年4月～2013年3月)開設博物館123館です。この値には、設置場所(敷地)を換えて新たな施設を整備した「移転新築施設」や、建物の老朽化や機能の見直し・拡張などを理由に、旧施設を取り壊して新たに建設した「取り壊し新築施設」が含まれています。また、既存施設のリノベーションにより新たな施設として誕生したものや、寄贈・移管・移譲・売却により、設置・運営主体を替え、新たな施設となったものも含まれています。

2011年度開設博物館には、八戸市埋蔵文化財センター 是川縄文館(青森県)、もりおか歴史文化館(岩手県)、東洋文庫ミュージアム(東京都)、川崎市 藤子・F・不二雄ミュージアム(神奈川県)、飛騨高山まちの博物館(岐阜県)、石水博物館(三重県)、滋賀県平和祈念館、京都水族館(京都府)、龍谷ミュージアム(京都府)、高槻市立今城塚古代歴史館(大阪府)、東大寺ミュージアム(奈良県)、宮島水族館(広島県)、今治市伊東豊雄建築ミュージアム(愛媛県)などが見られます(後掲の「2011年度開設博物館一覧表」をご参照ください)。

一方、2012年度開設博物館には、弘前大学資料館(青森県)、製粉ミュージアム(群馬県)、すみだ水族館(東京都)、文京

区立森鷗外記念館(東京都)、原鉄道模型博物館(神奈川県)、高志の国文学館(富山県)、大垣市奥の細道むすびの地記念館(岐阜県)、式年遷宮記念 せんぐう館(三重県)、横尾忠則現代美術館(兵庫県)、田辺市立歴史民俗資料館(和歌山県)、北九州市漫画ミュージアム(福岡県)などが見られました(後掲の「2012年度開設博物館一覧表」をご参照ください)。

なお、今回の調査では、博物館に類する施設として、常設の展示空間を有して、資料を展示したり、普及啓発活動などを行っている施設も対象に含めています。

2011・2012年度の開設博物館を概観すると、近年の開設傾向と同様に、場所を移転して新たな施設を整備したケースや、全面的な建て替えを行い新たな施設を整備したケースがいくつも見られます。詳細は後述しますが、学校や図書館、役所、保育園、さらには閉館となった博物館や美術館を活用・転用したケースはどの地域でも確認することができます。また、郷土資料館、歴史民俗資料館といった地域の歴史や文化を広く扱う施設に比べて、特定のテーマを設定した施設が多く開館しています。歴史遺産や自然公園に関するガイダンス施設や、集客施設・観光施設内に設置された施設も各地で見られました。新たに開設した施設の中には、2004年10月23日の新潟県中越大地震を語り継ぐための拠点施設(「中越メモリアル回廊」)の3館も見られます。

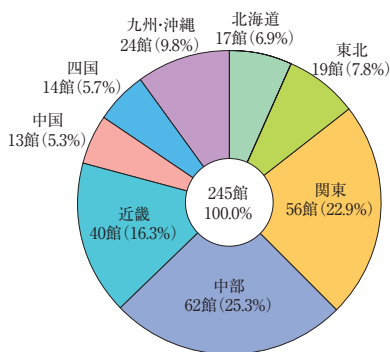
■ 地方別に見た開設傾向

合計245館を開設数の多い地方順に見ると、中部(62館/新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知)、関東(56館/茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川)、近畿(40館/三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山)、

九州・沖縄(24館/福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄)、東北(19館/青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島)、北海道(17館)、四国(14館/徳島、香川、愛媛、高知)、中国(13館/鳥取、島根、岡山、広島、山口)、となります。前回報告(2009・2010年度開設博物館)の結果と比較すると、中部の開設数の伸びが顕著でした。人口の多い地方でより多くの開設状況を確認することができました。

2011・2012年度の2カ年で10館以上の新たな施設を確認できたのは、東京都(23館)、北海道(17館)、新潟県、長野県、静岡県(以上3県は11館)でした。また、神奈川県、京都府、兵庫県では9館を数えました。この2カ年では、全国47都道府県のすべてで新たな開設を確認することができました。

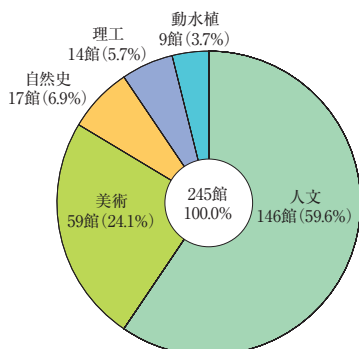
<図-1>地方別開設博物館数の比率



■館種別に見た開設傾向

これまでに行った年度別開設博物館に関する調査結果(結果は、全て本誌バックナンバーにおいて掲載)と同様、歴史博物館や考古博物館、郷土資料館、文学館、総合博物館などを含む「人文」系施設が最も多く、全体の6割近くを占めています。美術館や画家の記念館などを含む「美術」系施設も全体の4分の1近くを示しており、「人文」「美術」系施設で、全体の8割以上に達しています。今回の調査では、前回に比べて「動水植」系施設の開設数が増えています(1館→9館)。

<図-2>館種別開設博物館数の比率



■設立主体別に見た開設傾向

前回報告の結果と異なり、「法人」による施設が最も多く、全体の4割を数えました。「法人」による施設は前回に比べ、開設数の伸びが顕著でした(75館→98館)。また、これまでの報告同様、「市・区」による施設も多く見られ、全体の3割以上を占めました。「法人」「市・区」の施設で全体の7割

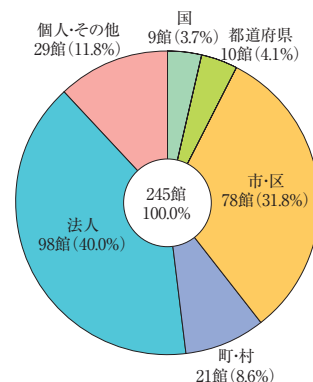
以上に達しています。「都道府県」「市・区」「町・村」を合わせた公立の施設は、全体の44.5%を占めています。

「法人」の内訳に目を転じると、株式会社(48館)、財団法人(14館)、宗教法人(10館)、NPO法人(9館)、学校法人(8館)、社団法人(4館)、有限会社(3館)、社会福祉法人(2館)で構成されています。前回に比べ、「株式会社」(38館→48館)、「宗教法人」(3館→10館)による施設の開設数の伸びが顕著でした。また、「NPO法人」による施設の開設数も調査のたびに徐々に増えています。

前回報告同様、「法人」で最も目立つのは企業による施設です。この期間には、北海道空港株式会社、株式会社日清製粉グループ本社、第一三共株式会社、日本郵便株式会社、株式会社LIXIL、東日本旅客鉄道株式会社(JR東日本)、株式会社北陸銀行、株式会社小松製作所、大日本印章株式会社、ヤンマー株式会社、アサヒ飲料株式会社、株式会社神戸新聞社、花王株式会社、日本水産株式会社、株式会社親和銀行などの施設が新たに開設しました。「財団法人」の施設には、公益財団法人福武財団の2施設なども含まれています。

「国」による施設には、環境省、海上保安庁、国立大学法人の施設が、「その他」には、有志団体、商工会、自治会による施設や、長岡市、小千谷市、公益社団法人中越防災安全推進機構による「中越メモリアル回廊推進協議会」が設立した施設などが含まれています。

<図-3>設立主体別開設博物館数の比率



■指定管理者について

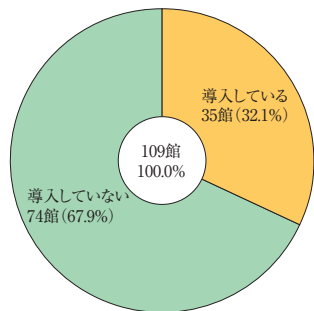
2003年9月に施行された地方自治法の改正を受けて導入された「公立施設における指定管理者制度」について調査した結果、2011・2012年度開設博物館(公立)の3割以上の施設で同制度を導入していることがわかりました。前回報告より導入状況が少し増えている結果となりました。なお、「導入していない」施設のうち、2館は「指定管理者制度の導入を検討中」と回答しています。

指定管理者には、公益財団法人、株式会社(共同企業体を含む)をはじめ、一般社団法人、NPO法人、有限会社、組合、地元の委員会や協議会、自治会が見られます。また、「公益財団法人・株式会社」のように、異なる法人格を持つ複数の事業者による共同事業体が指定管理者となっているケースも見られます。

施設の運営については、運営委託を行っているケースや共

同運営を行っているケースなど、調査を行うたびに運営方法が多様化しています。

<図-4>指定管理者制度の導入状況



■施設の形態について

博物館を単独の建物として設置しているか、それとも建物内に博物館を複合・併設する形態で設置しているかについて調査した結果、「単独の建物である」館は全体の半数強となりました。一方、「他施設との複合・併設である」館は、前回調査の結果を上回り(95館→109館/40.9%→44.5%)、「複合・併設」型の施設整備が増えていることを示しています。

「複合・併設」の形態(回答)に目を転じると、「他の博物館との複合・併設」が3館(記念館と資料館の組み合わせなど)、「博物館以外の社会教育施設・文化施設との複合・併設」が28館(図書館、公民館、文化会館、ホール、交流館、生涯学習センター、ギャラリー、集会施設などとの組み合わせ)、「学校との複合・併設」が8館(大学の校舎内に設置など)、「企業、官公庁との複合・併設」が23館(企業博物館以外は、庁舎、支所、事務所、医師会館、オフィスビルなどとの組み合わせ)、「研究施設との複合・併設」が2館(研究所などとの組み合わせ)、「商工施設との複合・併設」が14館(複合商業施設、ファッションビル、工場、本店などとの組み合わせ)、「観光施設との複合・併設」が9館(道の駅、渚の駅、ホテル、レストハウス、キャンプ場、観光案内所などとの組み合わせ)、「住宅との複合・併設」が8館(マンションとの組み合わせ)、「その他の施設との複合・併設」が14館(空港や駅のターミナルビル、発電所、健康増進施設、神社の建物などとの組み合わせ)であることがわかります。

前回報告でも触れたように、近年の新設館ではこうした複合・併設形態のバリエーションは、ますます多様化しています。今回の開設博物館には空港や駅(のターミナルビル)内に設けられた施設が複数含まれています。施設によって利用する人や集う人は異なってくると思いますが、こうした異なる施設や機能の組み合わせによって、博物館の特性や魅力を発揮できる展開(博物館に関心のない人を引き込む仕掛けづくりなど)が図れると望ましいと考えます。複合・併設する施設同士が強みを活かせるよう、互いにとってプラスとなる連携が必要だと考えます。

博物館の設置にあたって、既存の建物や歴史的建造物を活用・転用して行っているかについて調査した結果、全体の半数以上が、こうした建物を活用・転用して博物館を設置していることがわかりました。新たに施設を建設したのは全体

の4割強でした。調査のたびに少しずつ「活用・転用」型の施設整備の比率が高くなってはいますが、前回報告と大きな傾向の差は見られませんでした。

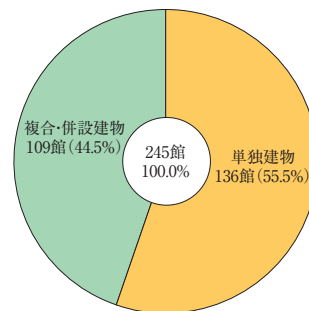
「活用・転用」の形態(回答)に目を転じると、「既存の建物」として、(旧)庁舎(支所や役所の一部を含む)、(旧)校舎(廃校となった小学校の校舎が多い)、大学の建物(校舎・研究室・図書館・ホール)、(旧)宿泊施設、図書館、商業ビル、空き店舗、オフィス、工場、倉庫、民家、(旧)知事公館、(旧)銀行、(旧)郵便局舎、(旧)福祉センター、(旧)保育園・保育所、(旧)加工施設などとともに、(旧)博物館・美術館・資料館・記念館・水族館が挙げられています。この中には、菊池寛実記念高萩炭礦資料館(旧大心苑の小さな美術館)、今泉記念館 アートステーション(旧南魚沼市立今泉博物館)、横尾忠則現代美術館(旧兵庫県立近代美術館)なども含まれています。

「歴史的建造物」は、江戸時代の鯨組主の屋敷、明治・大正期の町家、江戸・明治・大正・昭和期の土蔵(酒蔵・米蔵・文庫蔵・繭蔵・醤油蔵など)、大正時代の役場庁舎、大正時代の作家のアトリエ、旧陸軍の司令部、旧宝塚音楽学校本校舎、元首相の生家、旧知事公館、登録有形文化財や産業遺産の建物などが挙げられています。

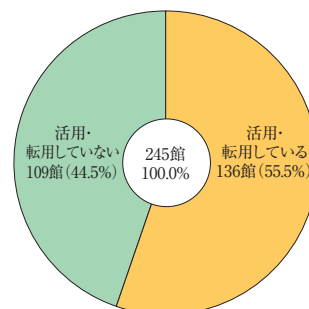
前回も報告したように、既存の建物や歴史的建造物の活用・転用傾向は、近年の施設整備において既に定着しています。新たに開設した施設を見ると、施設や空間の再利用・有効利用だけを目的にするのではなく、旧施設の特色や長所を活かしたリノベーションの好例をいくつか確認することができました。

少子化による人口減や市街地における空き店舗の増加などの傾向は地方を中心にますます深刻化しています。地域の観光や交流の核となる施設づくりに向けて、高い魅力や価値を有している歴史的建造物や、利用しやすい好立地にあり十分な空間や設備を有している既存の建物を上手に再生させる取り組みに今後も注目していきたいと思えます。

<図-5>施設の形態(単独/複合・併設)



<図-6>施設の形態(既存施設や歴史的建造物の活用・転用)



■施設規模について

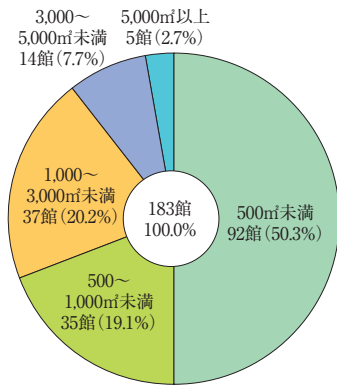
有効データ数：183館 2011・2012年度開設博物館の延床面積を集計した結果、最大値は10,974㎡、最小値は30㎡、平均値は1,145㎡、中央値は480㎡でした。最大値、最小値、平均値は前回報告の値を下回っています。施設の中・小規模化の傾向は続いています。

規模（延床面積）別開設博物館数の比率を示したグラフを見ると、1,000㎡未満の施設の占める割合が69.4%を数え、大半の施設がこの区分に属していることがわかります。一方、前回報告に比べ、3,000～5,000㎡未満の施設の実数・比率がともに増えていることが特徴的でした。

館種別の延床面積を見ると、「理工」「動水植」が平均値、中央値ともに全体の数値を大きく上回っています。一方、「人文」は平均値、中央値が全体の数値を下回っています。

設立主体別の延床面積を見ると、「都道府県」「市・区」が平均値、中央値ともに全体の数値を大きく上回っています。

<図-7>規模（延床面積）別開設博物館数の比率

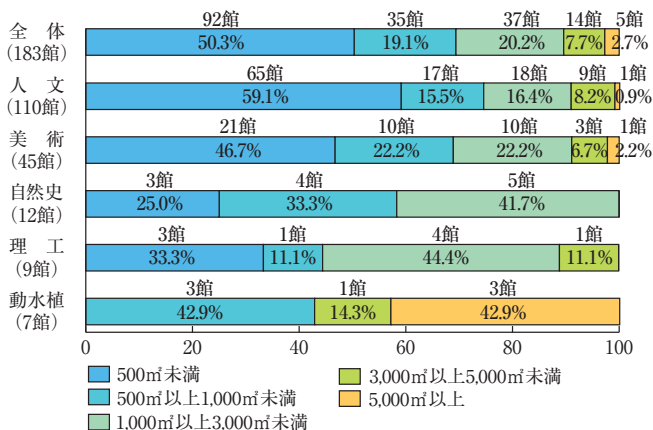


<表-1>館種別の延床面積（最大値、最小値、平均値、中央値）

	最大値	最小値	平均値	中央値
全体 (183館)	10,974	30	1,145	480
人文 (110館)	9,882	34	955	419
美術 (45館)	6,903	30	1,091	552
自然史 (12館)	2,996	40	1,129	750
理工 (9館)	3,000	100	1,353	1,000
動水植 (7館)	10,974	538	4,258	3,039

※ () 内は有効データ館数 ※ 単位は㎡

<図-8>館種で見える規模（延床面積）別開設博物館数の比率



<表-2>設立主体別の延床面積（最大値、最小値、平均値、中央値）

	最大値	最小値	平均値	中央値
全体 (183館)	10,974	30	1,145	480
国 (7館)	1,356	194	730	616
都道府県 (9館)	3,115	317	2,092	2,820
市・区 (63館)	6,903	50	1,416	625
町・村 (14館)	1,255	120	387	234
法人 (70館)	10,974	30	1,229	470
個人・その他 (20館)	691	40	253	175

※ () 内は有効データ館数 ※ 単位は㎡

■総工事費について

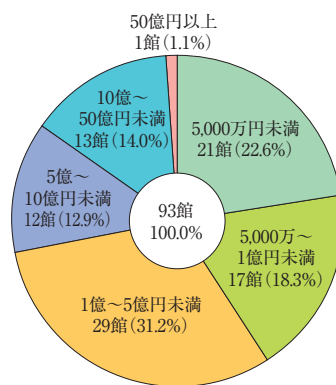
有効データ数：93館 総工事費を集計した結果、最大値は6,000,000千円、最小値は1,200千円、平均値は517,675千円、中央値は149,431千円でした。最小値、平均値、中央値が前回報告の値を下回っています。このデータからも中・小規模（総工事費）化の傾向がさらに進んでいることがわかります。

総工事費別開設博物館数の比率を示したグラフを見ると、「1億～5億円未満」の施設の占める割合が全体の3割以上と、最も多いことがわかります。前回報告より、「5,000万～1億円未満」「1億～5億円未満」「5億～10億円未満」の施設の比率が高くなっています。

館種別の総工事費を見ると、サンプル数の少ない「理工」以外に「自然史」が平均値、中央値ともに全体の数値を上回っています。一方、「美術」は平均値、中央値ともに全体の数値を下回っています。

設立主体別の総工事費を見ると、サンプル数の少ない「国」以外に「都道府県」「市・区」が平均値、中央値ともに全体の数値を上回っています。一方、「町・村」「法人」の平均値、中央値は前回報告の値を下回りました。

<図-9>総工事費別開設博物館数の比率

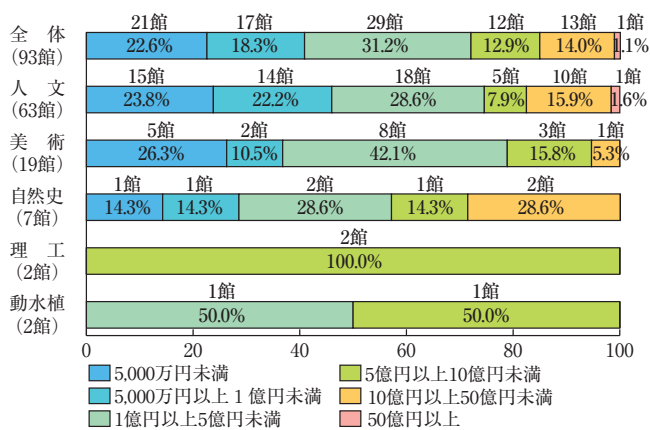


<表-3>館種別の総工事費（最大値、最小値、平均値、中央値）

	最大値	最小値	平均値	中央値
全体 (93館)	6,000,000	1,200	517,675	149,431
人文 (63館)	6,000,000	1,200	556,124	127,000
美術 (19館)	1,200,000	2,000	282,763	138,000
自然史 (7館)	2,570,861	10,000	730,243	318,000
理工 (2館)	893,812	780,000	836,906	836,906
動水植 (2館)	600,000	350,000	475,000	475,000

※ () 内は有効データ館数 ※ 単位は千円

<図-10>館種で見る総工事費別開設博物館数の比率



<表-4>設立主体別の総工事費 (最大値、最小値、平均値、中央値)

	最大値	最小値	平均値	中央値
全体 (93館)	6,000,000	1,200	517,675	149,431
国 (3館)	1,090,000	318,000	769,333	900,000
都道府県 (6館)	1,947,135	26,610	748,296	660,000
市・区 (44館)	2,570,861	10,000	566,956	203,023
町・村 (10館)	369,309	23,900	122,017	107,900
法人 (22館)	6,000,000	8,000	673,281	80,000
個人・その他 (8館)	149,431	1,200	45,951	28,500

※ () 内は有効データ館数 ※ 単位は千円

■ 2011・2012年度開設博物館の運営状況について

ここでは、職員の配置状況 (総職員数、研究・学芸系職員数、事務・管理系職員数、常勤職員数、非常勤職員数) について集計した結果を報告します。

総職員数の比率を見ると、5人以下の施設が全体の55.9%を占めています。そのうち、3人以下の施設は全体の3分の1以上(36.3%)に該当します。ともに前回調査の比率を上回っています。一方、10人以上の職員を有する施設は全体の5分の1以上(22.6%)を示しています。総職員数の最大値は50人、最小値は1人、平均値は7.1人、中央値は5人でした。

研究・学芸系職員数の比率を見ると、1人もしくは2人の施設が全体の約3割(29.9%)を占めています。また、研究・学芸系職員を配置していない施設は全体の半数近く(48.5%)を示しています。一方、10人以上の研究・学芸系職員を有する施設は全体の7.2%に該当しました。研究・学芸系職員数の最大値は45人、最小値は0人、平均値は2.4人、中央値は1人でした。

事務・管理系職員数の比率を見ると、1人、2人、3人の施設が全体の4割以上(44.3%)を占めています。事務・管理系職員を配置していない施設は全体の4.1%でした。一方、10人以上の事務・管理系職員を有する施設は全体の12.4%を示しています。事務・管理系職員数の最大値は20人、最小値は0人、平均値は4.8人、中央値は4人でした。平均値、中央値ともに研究・学芸系職員の値を上回っています。

常勤職員数の比率を見ると、1人もしくは2人の施設が全体の約3割(29.0%)を占めています。常勤職員を配置していない施設の比率も同じく全体の29.0%でした。一方、10人以上の常勤職員を有する施設は全体の5.0%に過ぎません。常勤職員数の最大値は15人、最小値は0人、平均値は2.9人、中央値は2人でした。

非常勤職員数(嘱託、臨時職員を含む)の比率を見ると、1人、2人、3人の施設が全体の41.0%を占めています。非常勤職員を配置していない施設は全体の15.0%でした。一方、10人以上の非常勤職員を有する施設は全体の11.0%を示しました。非常勤職員数の最大値は37人、最小値は0人、平均値は4.3人、中央値は3人でした。前回報告より、総職員数、研究・学芸系職員数、常勤職員数、非常勤職員数の平均値が下がっています。

<表-5>総職員数の比率

総職員数	回答館	構成比
1人	11館	10.8%
2~3人	26館	25.5%
4~5人	20館	19.6%
6~7人	14館	13.7%
8~9人	8館	7.8%
10~15人	12館	11.8%
16~20人	7館	6.9%
21人以上	4館	3.9%
全体	102館	100.0%

<表-6>研究・学芸系職員数の比率

研究・学芸系職員数	回答館	構成比
0人	47館	48.5%
1人	18館	18.6%
2人	11館	11.3%
3人	3館	3.1%
4人	3館	3.1%
5~9人	8館	8.2%
10~20人	6館	6.2%
21人以上	1館	1.0%
全体	97館	100.0%

<表-7>事務・管理系職員数の比率

事務・管理系職員数	回答館	構成比
0人	4館	4.1%
1人	11館	11.3%
2人	18館	18.6%
3人	14館	14.4%
4人	10館	10.3%
5~9人	28館	28.9%
10~20人	12館	12.4%
全体	97館	100.0%

<表-8>常勤職員数の比率

常勤職員数	回答館	構成比
0人	29館	29.0%
1人	18館	18.0%
2人	11館	11.0%
3人	11館	11.0%
4人	5館	5.0%
5~9人	21館	21.0%
10~20人	5館	5.0%
全体	100館	100.0%

<表-9>非常勤職員数の比率

非常勤職員数	回答館	構成比
0人	15館	15.0%
1人	14館	14.0%
2人	15館	15.0%
3人	12館	12.0%
4人	14館	14.0%
5~9人	19館	19.0%
10~20人	8館	8.0%
21人以上	3館	3.0%
全体	100館	100.0%

2011・2012年度開設博物館一覧表

丹青研究所調べによる2011・2012年度(2011年4月～2013年3月)の主な開設博物館リストです。この中には、旧施設を発展的に解消して移転新築、取り壊し新築した館も含まれています。

●2011年度開設博物館(2011年4月～2012年3月)

館名	開設年月	所在地
遠軽町埋蔵文化財センター	2011.07	北海道紋別郡遠軽町白滝138-1 遠軽町役場白滝総合支所2階
北の映像ミュージアム	2011.09	北海道札幌市中央区北1条西12 さっぽろ芸術文化の館1階
サロベツ湿原センター	2011.04	北海道天塩郡豊富町上サロベツ8662
シュタイフネイチャーワールド	2011.07	北海道千歳市美々 987-22 新千歳空港ターミナルビル 連絡施設3階スマイルロード
善光寺宝物館	2011.04	北海道伊達市有珠町124
函館市縄文文化交流センター	2011.10	北海道函館市白尻町551-1
優駿記念館	2011.07	北海道新冠郡新冠町朝日 優駿メモリアルパーク内
羅臼町郷土資料館	2011.12	北海道目梨郡羅臼町峯浜町307
ロイズチョコレートワールド	2011.07	北海道千歳市美々 987-22 新千歳空港ターミナルビル 連絡施設3階スマイルロード
阿光坊てづくり古墳館	2011.04	青森県上北郡おいらせ町阿光坊106-13
八戸市埋蔵文化財センター 是川縄文館	2011.07	青森県八戸市是川横山1
花巻市総合文化財センター	2011.05	岩手県花巻市大迫町大迫3-39-1
もぐらびあ・まちなか水族館	2011.08	岩手県久慈市中央2-9
もりおか歴史文化館	2011.07	岩手県盛岡市内丸1-50
仙臺箏笛歴史工芸館	2011.09	宮城県仙台市青葉区本町2-7-3 本町家具の街 ユノメ家具本店4階
母と子に贈る日本の未来館	2012.03	山形県山形市蔵王松ヶ丘2-1-3
尾瀬書美術館「思郷館」	2011.05	福島県南会津郡檜枝岐村左通124-6 ミニ尾瀬公園内
真壁伝承館・歴史資料館	2011.09	茨城県桜川市真壁町真壁198-1
那須高原ビジターセンター	2011.11	栃木県那須郡那須町湯本207-2
那須平成の森 フィールドセンター	2011.05	栃木県那須郡那須町高久丙3254
前橋市児童文化センター	2012.01	群馬県前橋市西片貝町5-8 前橋こども公園内
城西大学 水田美術館	2011.12	埼玉県坂戸市けやき台1-1
ヤオコー川越美術館 (三栖右副記念館)	2012.03	埼玉県川越市氷川町109-1
我孫子市杉村楚人冠記念館	2011.11	千葉県我孫子市緑2-5-5
市川市芳澤ガーデンギャラリー	2012.03	千葉県市川市真間5-1-18
キッコーマン 御用蔵 (御用醤油醸造所)	2011.04	千葉県野田市野田110 キッコーマン食品野田工場内
白井そろばん博物館	2011.05	千葉県白井市復1459-12
“渚の駅”たてやま「海辺の広場」	2012.03	千葉県館山市館山1564-1
成田空港 空と大地の歴史館	2011.06	千葉県山武郡芝山町岩山113-2
海上保安庁 海洋情報資料館	2012.01	東京都江東区青海2-5-18 国土交通省青海総合庁舎
国史跡武蔵府中熊野神社古墳 展示館	2011.09	東京都府中市西府町2-9
錯覚と数理の融合研究拠点 「錯覚美術館」	2011.05	東京都千代田区神田淡路町1-1 神田クレストビル2階
郷さくら美術館 東京	2012.03	東京都目黒区上目黒1-7-13
泉龍寺仏教文庫	2011.11	東京都狛江市元和泉1-6-1 泉龍寺本院内
Daiichi Sankyo くすりミュージアム	2012.02	東京都中央区日本橋本町3-5-1
千代田区立日比谷図書文化館	2011.11	東京都千代田区日比谷公園1-4
東京獅子博物館	2011.04	東京都西多摩郡檜原村植里8707-1
東京トリックアート迷宮館	2011.07	東京都港区台場1-6-1 デックス東京ビーチ アイランドモール 4階
東洋文庫ミュージアム	2011.10	東京都文京区本駒込2-28-21
府中市立ふるさと府中歴史館	2011.04	東京都府中市宮町3-1
明治大学阿久悠記念館	2011.10	東京都千代田区神田駿河台1-1 明治大学アカデミー・コモン地階
安藤百福発明記念館 (カップヌードルミュージアム)	2011.09	神奈川県横浜市中区新港2-3-4
海老名市立郷土資料館 「海老名市温故館」	2011.04	神奈川県海老名市国分南1-6-36
かわさきエコ暮らし未来館	2011.08	神奈川県川崎市川崎区浮島町509-1 浮島処理センター内
川崎市 藤子・F・不二雄ミュージアム	2011.09	神奈川県川崎市多摩区長尾2-8-1

二宮町ふたみ記念館	2011.10	神奈川県中郡二宮町山西1953-1
YNUミュージアム	2011.12	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79-1 横浜国立大学 教育文化ホール内
川口ぎざな館	2011.10	新潟県長岡市川口中山1441 川口運動公園内
きおくみらい 長岡震災アーカイブセンター	2011.10	新潟県長岡市大手通2-6 フェニックス大手イースト2階
そなえ館 おぢや震災ミュージアム	2011.10	新潟県小千谷市上ノ山4-4-2 小千谷市学習センター「楽集館」2階
長岡市トキと自然の学習館	2012.03	新潟県長岡市寺泊夏戸2829
新潟市文化財センター (まいぶんポート)	2011.07	新潟県新潟市西区木場2748-1
南砺パットミュージアム	2012.02	富山県南砺市福光(東町)6754 東町商店会東会館2、3階
楽翠亭美術館	2011.05	富山県富山市奥田新町2-27
こまつの杜 わくわくコマツ館	2011.05	石川県小松市こまつの杜1
鈴木大拙館	2011.10	石川県金沢市本多町3-4-20
八十山雅子・和代美術館	2011.11	石川県小松市村松町153
藤野巖九郎記念館	2011.11	福井県あわら市温泉1-1 あわら温泉湯のまち広場内
葺崎市ふるさと偉人資料館	2011.09	山梨県韮崎市若宮1-2-50 韮崎市民交流センター NICORI-ニコリ-1階
光の美術館 クラブ・ギャラリー	2011.04	山梨県北杜市長坂町中丸2072
赤松小三郎記念館	2012.03	長野県上田市常磐城3-7-37
おぶせ藤岡牧夫美術館	2012.03	長野県上高井郡小布施町雁田1171
軽井沢千住博美術館	2011.10	長野県北佐久郡軽井沢町長倉815
蓼科ティンバー美術館	2011.07	長野県北佐久郡立科町芦田ハケ野1522 白樺湖畔
戸隠神社 宝物館	2011.04	長野県長野市戸隠3690 中社 青龍殿
飛騨高山まちの博物館	2011.04	岐阜県高山市上一之町75
ミュージアム飛騨	2011.06	岐阜県高山市千島町900-1 飛騨・世界生活文化センター内
天城ミュージアム	2012.01	静岡県伊豆市湯ヶ島176-2 天城会館内
御殿場市富士山交流センター (富士山樹空の森) ビジターセンター	2011.04	静岡県御殿場市印野1380-15
スズキ化石資料館	2012.03	静岡県袋井市国本2949-5
沼津港深海水族館 シーラカンス・ミュージアム	2011.12	静岡県沼津市千本港町83
浜松ジオラマファクトリー	2012.03	静岡県浜松市中区鍛冶町100-1 ザザシティ浜松 中央館3階
袋井市歴史文化館	2011.11	静岡県袋井市浅名1028 浅羽支所2階・3階
印章歴史館	2011.05	愛知県名古屋市中区松原3-16-11 大日本印章株式会社 本社南隣
中部大学民族資料博物館	2011.04	愛知県春日井市松本町1200
うつべ町かど博物館	2012.02	三重県四日市市采女町3473
ORIBE美術館	2011.07	三重県四日市市安島2-4-18
石水博物館	2011.05	三重県津市垂水3032-18
今重屋敷 能舞館	2011.07	滋賀県長浜市元浜町23-17
滋賀県平和祈念館	2012.03	滋賀県東近江市下中野町431
松尾寺資料館	2011.05	滋賀県米原市上丹生2007
守山市歴史文化まちづくり館 「守山宿・町家 うの家」	2012.01	滋賀県守山市守山1-10-2
京都教育大学 教育資料館 (まなびの森ミュージアム)	2011.11	京都府京都市伏見区深草藤森町1
京都水族館	2012.03	京都府京都市下京区観音寺町35-1 梅小路公園内
高田クリスタルミュージアム	2012.02	京都府京都市西京区大原野灰方町456
竹取翁博物館	2012.02	京都府京田辺市三山木直田10
龍谷ミュージアム	2011.04	京都府京都市下京区西中筋通正面上丸屋町117
ルイ・イカール美術館 KYOTO	2011.11	京都府京都市左京区上高野東山71-21
堺市立町家歴史館 清学院	2011.10	大阪府堺市堺区北旗籠町西1-3-13
堺伝統産業会館 匠のひろば・堺刃物ミュージアム	2011.10	大阪府堺市堺区材木町西1-1-30
高槻市立今城塚古代歴史館	2011.04	大阪府高槻市郡家新町48-8
赤穂市立有年考古館	2011.11	兵庫県赤穂市有年厩原1164-1
雲火焼展示館 桃井ミュージアム	2011.05	兵庫県赤穂市御崎634
神戸新聞報道展示室 (ニュースポート)	2011.04	兵庫県神戸市中央区東川崎町1-5-7 神戸ハーバーランド神戸新聞本社ビル内 商業施設「カルメニ」2階
すみれミュージアム	2011.07	兵庫県宝塚市武庫川町6-12 宝塚文化創造館(宝塚音楽学校旧校舎)内
東大寺ミュージアム	2011.10	奈良県奈良市水門町100 東大寺総合文化センター

平城京歴史館	2011.04	奈良県奈良市二条大路南4-6-1
花王エコラボミュージアム	2011.07	和歌山県和歌山市湊1334 花王株式会社 和歌山工場内
わかやまスポーツ伝承館	2011.04	和歌山県和歌山市本町2-1 フォルテワジマ 3Fフロア
昭とおもちゃ館	2012.03	鳥取県八頭郡若桜町若桜430
東粟倉おもちゃ村	2012.03	岡山県美作市後山1707-11
宮島水族館(みやじマリン)	2011.08	広島県廿日市市宮島町10-3
空海の曼荼羅 風之櫻美術館	2011.06	徳島県吉野川市川島町川島154
今治市伊東豊雄建築ミュージアム	2011.07	愛媛県今治市大三島町浦戸2418
今治市岩田健母と子のミュージアム	2011.08	愛媛県今治市大三島町宗方5208-2
今治タオル歴史資料室	2012.03	愛媛県今治市東門町5-14-3 テクスポート(TEXPORT)今治1階
坂村真民記念館	2012.03	愛媛県伊予郡砥部町大南705
瓶泥合びいどろ・ぎやまん・ガラス美術館	2011.04	愛媛県松山市道後緑台7-21
海洋堂ホビー館 四万十	2011.07	高知県高岡郡四万十町打井川1458-1
葺工ミュージアム	2011.12	高知県高知市南金田28 葺工倉庫
ニSSIPパイオニア館	2011.08	福岡県北九州市戸畑区銀座2-6-27 ニSSIP戸畑ビル1階
はかた伝統工芸館	2011.04	福岡県福岡市博多区上川端町6-1
唐津市鯨組主中尾家屋敷	2011.04	佐賀県唐津市呼子町呼子3750-3
平戸オランダ商館	2011.09	長崎県平戸市大久保町2477
九州学院100周年記念 歴史資料・情報センター	2011.11	熊本県熊本市中央区大江5-2-1
熊本県文化財資料室 展示体験学習棟	2011.11	熊本県熊本市南区城南町沈目1667
国見郷愛記念館	2012.03	大分県国東市国見町伊美2599-1
天領日田洋酒博物館	2011.04	大分県日田市本庄町3-4
始良市蒲生ふるさと交流館 板橋一步展示室・ふるさと資料室	2011.04	鹿児島県始良市蒲生町上久徳2241
西郷南洲記念館	2011.07	鹿児島県大島郡泊町泊587-3
島あしび館(ビクターセンター)	2011.06	沖縄県島尻郡粟国村東1142
宮古島海中公園	2011.07	沖縄県宮古島市平良狩俣2511-1

●2012年度開設博物館(2012年4月～2013年3月)

館 園 名	開設年月	所在地
エアポートヒストリーミュージアム	2013.03	北海道千歳市美々 987-22 新千歳空港 国内線ターミナルビル3階
遠軽町白滝ジオパーク交流センター	2012.04	北海道紋別郡遠軽町白滝138-1 遠軽町役場白滝総合支所1階
大空ミュージアム	2012.07	北海道千歳市美々 987-22 新千歳空港 国内線ターミナルビル3階
置戸ばっば絵画館	2012.10	北海道常呂郡置戸町置戸456-1
層雲峡・大雪山写真ミュージアム 市根井孝悦の世界	2012.05	北海道上川郡上川町層雲峡 旧層雲峡小学校跡
清湯湖水鳥・湿地センター	2012.05	北海道網走市北浜203-3 白鳥公園隣り
中原二郎記念旭川市彫刻美術館 ステーションギャラリー	2012.04	北海道旭川市宮前通西4153-1 JR旭川駅東口
山の水族館	2012.07	北海道北見市留辺蘂町松山1-4
奥日屋風土回廊	2012.04	青森県中津軽郡西目屋村田代福元143 西目屋村中央公民館
八戸クリニック街かどミュージアム	2012.04	青森県八戸市柏崎1-8-29
弘前大学資料館	2012.10	青森県弘前市文京町1
さくらなみき自閉症美術館	2012.09	岩手県一関市中央町1-1-4
石巻ニューゼ	2012.11	宮城県石巻市中央2-8-2 ホシノボックスピア駅の駅内
気仙沼市鹿折金山資料館	2012.10	宮城県気仙沼市上東側根14
大仙市総合民俗資料交流館 くらしの歴史館	2012.04	秋田県大仙市協和峰吉川南明谷地1
能代バスケットボール・ ライブラリー&ミュージアム (能代バスケミュージアム)	2012.05	秋田県能代市畠町11-23
東北自然史博物館 ビクターセンター	2012.05	山形県最上郡鮭川村川口4890 鮭川村エコパーク 木の子館内
山形市市民防災センター	2012.10	山形県山形市西崎9-1
檜枝岐歌舞伎伝承館「千葉之家」	2012.09	福島県南会津郡檜枝岐村居平664
菊池寛実記念高萩炭礦資料館	2012.05	茨城県高萩市高萩624
水戸城跡 二の丸展示館	2012.09	茨城県水戸市三の丸2-9-22 水戸市立第二中学校
大田原市なす風土記の丘湯津上 資料館	2012.04	栃木県大田原市湯津上192
矢板市立郷土資料館	2012.04	栃木県矢板市上伊佐野761-2
あたご歴史資料館	2012.11	群馬県前橋市住吉町2-5-4

板倉町文化財資料館	2012.04	群馬県邑楽郡板倉町海老瀬5955
太田市立大隅俊平美術館	2012.11	群馬県太田市由良町3051
製粉ミュージアム	2012.11	群馬県館林市栄町6-1
わくわく自販機ミュージアム	2012.04	群馬県前橋市柏川町中之内7 サンデンフォレスト内
おごせ昆虫と自然の館	2012.04	埼玉県入間郡越生町小杉547 梅園コミュニティホール内
グリコピア・イースト	2012.10	埼玉県北本市中丸9-55
日本万華鏡博物館	2012.09	埼玉県川口市幸町2-1-18-101
JPタワー学術文化総合ミュージアム 「インターメディアテック」	2013.03	東京都千代田区丸の内2-7-2 JPタワー・2・3階
女子美術大学歴史資料室	2012.05	東京都杉並区和田1-49-8 女子美術大学杉並キャンパス1号館1階
新宿区立中村耕アトリエ記念館	2013.03	東京都新宿区下落合3-5-7
すみだ水族館	2012.05	東京都墨田区押上1-1-2 東京スカイツリータウン・ソラマチ5F・6F
東京ステーションギャラリー	2012.10	東京都千代田区丸の内1-9-1 東京駅丸の内北口
八王子城跡ガイダンス施設	2012.10	東京都八王子市元八王子町3-2664-2
文京区立森鷗外記念館	2012.11	東京都文京区千駄木1-23-4
山田洋次ミュージアム	2012.12	東京都葛飾区柴又6-22-19 葛飾区観光文化センターB棟2階
友愛労働歴史館	2012.08	東京都港区芝2-20-12 友愛会館8階
容器文化ミュージアム	2012.04	東京都品川区東五反田2-18-1 大崎フォレストビルディング1階
LIXIL資料館	2012.10	東京都江東区大島2-1-1 LIXIL WINGビル
おおい自然園資料展示室	2012.08	神奈川県足柄上郡大井町金子1995 大井町生涯学習センター内
NEXCO中日本 コミュニケーション・プラザ川崎	2012.04	神奈川県川崎市宮前区南平台1-1
原鉄道模型博物館	2012.07	神奈川県横浜市西区高島1-1-2 横浜三井ビルディング2階
今泉記念館 アートステーション	2012.07	新潟県南魚沼市下一日市855 道の駅 南魚沼
越後妻有里山現代美術館 [キナーレ]	2012.07	新潟県十日町市本町6
史跡古津八幡山 弥生の丘展示館	2012.04	新潟県新潟市秋葉区蒲ヶ沢264
長岡市北越辰戦争伝承館	2012.05	新潟県長岡市大黒町39-2
新潟市江南区郷土資料館	2012.10	新潟県新潟市江南区茅野山3-1-14 新潟市江南区文化会館内
新潟市マンガの家	2013.03	新潟県新潟市中央区古町通6-971-7 新古町版画通 GEO古町通 6番町1・2階
ギャルリ・ミレー (ほくぎんギャルリ・ミレー)	2012.09	富山県富山市中央通り2-1-20
高志の国文学館	2012.07	富山県富山市舟橋南町2-22
四季防災館	2012.04	富山県富山市惣在寺1090-1 富山県広域消防防災センター内
田村萬盛堂「木型館」	2012.08	富山県南砺市城端175
富山県立イタイタイ病資料館	2012.04	富山県富山市友杉151 とやま健康パーク内
白山平泉寺歴史探遊館 まほろば	2012.10	福井県勝山市平泉寺町平泉寺66-2-12
ブータンミュージアム	2012.11	福井県福井市大手3-15-12
甲州夢小路 小さな蔵の美術館	2013.03	山梨県甲府市丸の内1-1-25
青木村民俗資料館	2013.03	長野県小県郡青木村田沢3270-1
軽井沢ニューアートミュージアム	2012.04	長野県北佐久郡軽井沢町軽井沢1151-5
信州大学自然科学館	2012.08	長野県松本市旭3-1-1 信州大学松本キャンパス内
須坂市立博物館分館 ふれあい館まゆぐら	2012.04	長野県須坂市東横町387-2
日本ラジオ博物館	2012.05	長野県松本市中央2-4-9
康花美術館	2012.09	長野県松本市北深志2-1-27
大垣市奥の細道むすびの地記念館	2012.04	岐阜県大垣市船町2-26-1
岐阜市長良川鶴飼伝承館 (長良川うかいミュージアム)	2012.08	岐阜県岐阜市長良51-2
多治見市美濃焼ミュージアム	2012.04	岐阜県多治見市東町1-9-27
田代神社 資料館	2012.04	岐阜県養老郡養老町高田259-1
伊豆ならんだの里 河津平安の仏像展示館	2013.02	静岡県賀茂郡河津町谷津138
かんなみ仏の里美術館	2012.04	静岡県田方郡函南町桑原89-1
聖隷歴史資料館	2013.03	静岡県浜松市北区三方原町3453 聖隷クリストファー大学5号館1階
体感型動物園Zoo(イズー)	2012.12	静岡県賀茂郡河津町浜406-2
NEXCO中日本 コミュニケーション・プラザ富士	2012.04	静岡県富士市厚原1738-4
ギャラリーMenio(メニオ)	2012.07	愛知県名古屋市中区葵3-21-19 メニオANNEX

建築陶器のはじまり館 (INAXライブミュージアム)	2012.04	愛知県常滑市奥栄町1-130
淳和記念館 メモリアルギャラリー	2012.10	愛知県名古屋千種区若水3-2-12 愛知工業大学名電高等学校
歯の博物館 ～歯と口の健康ミュージアム～	2012.10	愛知県名古屋市中区丸の内3-5-18 愛知県歯科医師会館1階 あいち口腔保健センター内
めんたいミュージアム	2012.12	愛知県常滑市りんくう町1-25-4 かねふくめんたいパークとこなめ
式年遷宮記念 せんぐう館	2012.04	三重県伊勢市豊川町前野126-1
志摩市歴史民俗資料館	2012.07	三重県志摩市磯部町迫間878-9
藤原岳自然科学館	2012.04	三重県いなべ市藤原町市場493-1 いなべ市藤原文化センター内
三重県立看護大学附属看護博物館	2012.05	三重県津市夢が丘1-1-1 三重県立看護大学附属図書館2階
ヤンマーミュージアム	2013.03	滋賀県長浜市三和町6-50
京都佛立ミュージアム	2012.07	京都府京都市上京区御前通一条上る東堅町110
福知山市防災センター	2012.05	京都府福知山市東羽合町46-1 福知山市消防防災センター 2階
みずのき美術館	2012.10	京都府亀岡市北町18
大東市立歴史民俗資料館	2012.04	大阪府大東市野崎3-6-1 来ぶらり四条 大東市立歴史とスポーツふれあいセンター2階
鶴林寺 宝物館	2012.10	兵庫県加古川市加古川町北在家424
兵庫県立ものづくり大学校 ものづくり体験館	2013.01	兵庫県姫路市市之郷1001-1
ミツ矢サイダーミュージアム	2013.03	兵庫県明石市二見町南二見1-33 アサヒ飲料株式会社 明石工場
民音音楽博物館 西日本館	2012.04	兵庫県神戸市中央区浜辺通6-3-16 関西国際文化センター 3F
横尾忠則現代美術館	2012.11	兵庫県神戸市灘区原田通3-8-30
奈良町からくりおもちゃ館	2012.04	奈良県奈良市陰陽町7
田辺市立歴史民俗資料館	2012.12	和歌山県田辺市東陽31-1 田辺市文化交流センター たなべる内
第五十三代横綱 琴櫻記念館	2012.07	鳥取県倉吉市魚町2518
鳥取砂丘 砂の美術館	2012.04	鳥取県鳥取市福部町湯山2083-17
ごうぎんカラコ口美術館	2012.09	鳥根県松江市殿町412

中村元記念館	2012.10	鳥根県松江市八束町波入2060 松江市役所八束支所2階
松江ホーランエンヤ伝承館	2012.10	鳥根県松江市殿町250
犬島精錬所美術館	2013.03	岡山県岡山市東区犬島327-5
狸庵文庫美術館	2012.11	岡山県岡山市北区雷町2-13-14
鞆の津ミュージアム	2012.05	広島県福山市鞆町鞆271-1
広島平和記念資料館シュモアハウス	2012.11	広島県広島市中区江波二本松1-2-43
下松市市民交流拠点施設 「ほしらんどくだまつ」 歴史民俗資料展示コーナー 「くだまつふるさと広場」	2012.05	山口県下松市大手町2-3-1
キネマミュージアム	2012.08	徳島県鳴門市瀬戸町明神張45-1
ANDO MUSEUM	2013.03	香川県香川郡直島町736-2
池戸公民館 郷土資料展示室	2013.03	香川県木田郡三木町池戸2340-1
海洋堂かっぱ館	2012.07	高知県高岡郡四万十町打井川685
高知新聞ふれあいミュージアム	2012.10	高知県南国市蛸が丘1-2-3 高知新聞まほろばセンター 1階
土佐町郷土学習センター 青木幹勇記念館・土佐町民具資料館	2012.04	高知県土佐郡土佐町土居437
北九州市漫画ミュージアム	2012.08	福岡県北九州市小倉北区浅野2-14-5 あるあるCity5階・6階
福岡城むかし探訪館	2012.04	福岡県福岡市中央区城内1-4
宗像市郷土文化学習交流館 (海の道むなかた館)	2012.04	福岡県宗像市深田588
親和アートギャラリー	2012.04	長崎県佐世保市島瀬町4-24 親和銀行島瀬ビル1階
大津町歴史文化伝承館	2012.04	熊本県菊池郡大津町大津1109
サンタマリア館	2012.08	熊本県天草市有明町上津浦美ノ越1940-1
佐藤深美術館	2013.01	大分県別府市青山町9-45 聴潮閣
日田市立小鹿田焼陶芸館	2012.04	大分県日田市鶴内(源栄町)138-1
中島記念館	2012.09	宮崎県日向市東郷町山陰乙505-6
重富民俗資料館	2012.07	鹿児島県始良市平松5284
名和昆虫博物館はいむるぶし分室	2012.07	沖縄県八重山郡竹富町小浜2930 はいむるぶし内
不屈館 瀬長亀次郎と民衆資料	2013.03	沖縄県那覇市若狹2-21-5

特集：2011年度・2012年度リニューアル博物館情報

丹青研究所調べによる、2011年度・2012年度(2011年4月～2013年3月)にリニューアルを実施した全国の博物館数は314館です(本報告では、2011年度と2012年度の両年度ともにリニューアルを実施した館は2館で集計しています：33館が該当します)。

ここでは、各館からいただいた資料や当研究所が独自に収集したデータをもとに、2011・2012年度のリニューアル博物館について傾向を示し、都道府県別のリニューアル博物館リストを掲載します。

■ 2011・2012年度リニューアル博物館の傾向

314館の内訳は、2011年度リニューアル博物館155館、2012年度リニューアル博物館159館です。

施設・設備の老朽化や新たな機能・役割への対応、開館後の資料・情報・研究成果の蓄積に基づいた更新、時代に即した展示内容・手法の採用、周年事業や記念年にあわせた取り組みなど、その内容や要因は様々です。また、東日本大震災で大きな被害を受けた博物館が修復を経て、再開した時期でもありました。

2011年度リニューアル博物館には、札幌市円山動物園(北海道)、鉄道博物館(埼玉県)、世田谷美術館(東京都)、越

前松島水族館(福井県)、岐阜県美術館、京都府京都文化博物館、県立童謡館・鳥取世界おもちゃ館くわらべ館(鳥取県)、山口県立山口博物館、愛媛県総合科学博物館、福澤諭吉旧居・福澤記念館(大分県)などが見られます(後掲の「2011年度リニューアル博物館一覧表」をご参照ください)。

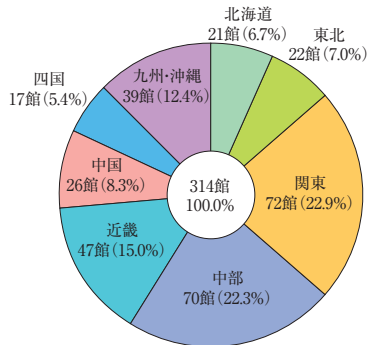
一方、2012年度リニューアル博物館には、石ノ森萬画館(宮城県)、五島美術館(東京都)、東京国立博物館(東京都)、東京都美術館、川崎市青少年科学館くかわさき宙と緑の科学館(神奈川県)、魚津水族館(富山県)、飯田市立動物園(長野県)、新美南吉記念館(愛知県)、大津市科学館(滋賀県)、山口県立美術館、鹿児島市立科学館(鹿児島県)などが見られました(後掲の「2012年度リニューアル博物館一覧表」をご参照ください)。

各館のリニューアル内容は、後掲の一覧表に記載しています。

■ 地方別に見たリニューアルの傾向

新設の博物館と同様、関東、中部が多いことがわかります。近畿を含めた3つの地方で全体の6割以上に達します。前回報告と比べると、関東、九州・沖縄の数値が増えています。なお、今回の調査では、香川県の博物館におけるリニューアル状況を確認することはできませんでした。

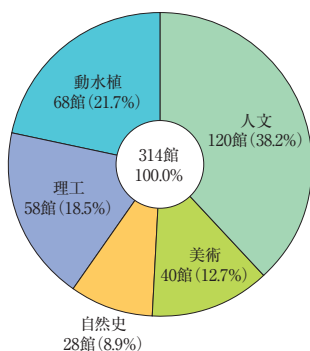
<図-1> 地方別リニューアル博物館数の比率



■館種別に見たリニューアルの傾向

全国に施設数の多い「人文」が、ここでも全体の約4割を占めています。次に動物園、水族館などの「動水植」が多く、全体の2割以上を示しています。前回報告と比べると、「人文」「美術」の数値が大きく増えています。なお、2011年度と2012年度の両年度ともにリニューアルを実施した館(33館)を見ると、動物園が15園、水族館が3館、科学館などの理工系施設が8館を数え、全体の4分の3以上に該当します。

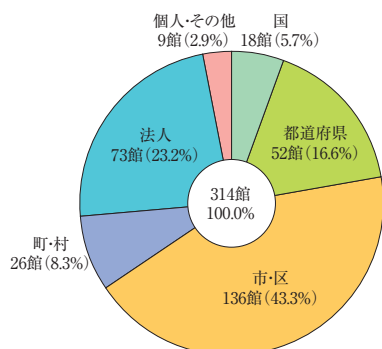
<図-2> 館種別リニューアル博物館数の比率



■設立主体別に見たリニューアルの傾向

新設の博物館と同様、「市・区」「法人」の比率は高いのですが、次いで「都道府県」の比率が高いのが特徴的です。前回報告と比べると、「町・村」の数値が大きく増えています。

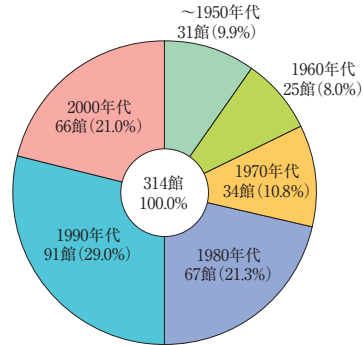
<図-3> 設立主体別リニューアル博物館数の比率



■開館年代別に見たリニューアルの傾向

図-4でわかるように「1990年代」「2000年代」開館の博物館で全体の半数を示しています。特に「1990年代」開館の博物館は全体の約3割を占めています。前回調査の結果と比較しても、「1990年代」「2000年代」開館の博物館が実数・比率ともにその数を大きく増やしています。この傾向は、一層高まっていくと考えています。

<図-4> 開館年別リニューアル博物館数の比率



■リニューアルの形態について

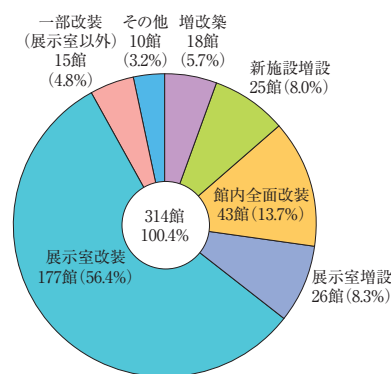
各館のリニューアル内容をもとに、「増改築」「新施設増設」「館内全面改装」「展示室増設」「展示室改装」「一部改装(展示室以外)」「その他」に分けて分析を試みました。なお、同一年度に複数のリニューアル(取り組み)を実施した館については、主要な内容を基に振り分けています。

集計した結果、「展示室改装」が最も多く、全体の半数以上を示しています。展示の改装が含まれている「館内全面改装」「展示室増設」を合わせると、全体の約8割に該当することから、リニューアルの大半が展示の改装に関するものであることがわかります。

前回報告と比べると、「増改築」「館内全面改装」「展示室改装」の数値が増えています。本報告では、「移転新築施設」や「取り壊し新築施設」を新たな開設として扱っています。リニューアルの中で増改築や館内全面改装を行っている施設が増えていることは、近年の顕著な傾向と考えています。

なお、「その他」には、施設の補修や設備の改修に関する事例を含めています。

<図-5> リニューアルの形態の比率



2014年4月に、総務省から全国に向けて「公共施設等総合管理計画の策定要請」が行われました。今後は、同総合管理計画の検討・策定に基づいて、公共施設の統合や再編が一気に進むのではないかと思います。博物館も集約が図られたり、既存の施設の分館化が進むかもしれません。一方で、資料数の増加や機能・役割の拡張などに伴い、収蔵庫をはじめとした空間や設備の不足が以前から指摘されています。それぞれの地域において、将来に文化資産を継承する重要な役割を担う博物館という機関が今後も有効に機能するよう、中長期的観点に立った革新が必要となっていると感じています。

2011・2012年度リニューアル博物館一覧表

● 2011年度リニューアル博物館（2011年4月～2012年3月）

旭川市旭山動物園【北海道旭川市】2011.04
「タンチョウ舎」「両生類・は虫類舎」がオープン。「タンチョウ舎」は高さ8.5mの大きなケージ。ケージ上部の柱の形は翼を広げたタンチョウをイメージ。最大の特徴は、タンチョウが生息する湿地を再現した「ビオトープ」。地面には水辺に生えるアシとガマを植え、ドジョウや小魚、カエル、昆虫などが生息できる小さな池を造った。池の観察窓からは、タンチョウが池の中をついばむ姿を間近で見る事ができる。「両生類・は虫類舎」は、旧施設が手狭になったため、全面改修。展示スペースにはエゾアマガエリやエゾサンショウウオ、ニホンマムシ、イシガサなど、常時10種類を配置。アオダイショウは筒状の金網を移動したり、飼育ケース内のヤナギの枝にぶら下がったりする様子が見られる
浦幌町立博物館【北海道浦幌町】2012.01
1999年の開館以来初めて常設展示室の改装を実施。「アロデスムス」の化石レプリカを壁面に展示するとともに、それまで分散していた貝類の化石資料の展示場所を集約した。新たに解説用の映像や浦幌・十勝の自然史に関する年表を加えることで、視覚的に理解できるように工夫を図った
札幌市青少年科学館【北海道札幌市】2012.03
「雪・水コーナー」が改装オープン。北国ならではの施設を充実させるため、以前からあった人工降雪装置や低温展示室に加え、「雪の天空工場」を開設。画面上で気温や水蒸気の設定を変えて、様々な雪の結晶を作ることができるコーナーや、雪崩が起きる仕組みを紹介する模型、体験型の展示装置「アイスラボ」「ナカヤデスク」などを設置
札幌市円山動物園【北海道札幌市】2011.04・2011.11・2012.01
2011年4月、「は虫類・両生類館」がオープン。老朽化のため2011年3月末で閉館した旧は虫類館を引き継ぎ新施設としてリニューアル。イグアナやカメレオンなど、従来の4倍以上の60種120点を、熱帯や温帯など各地の生息環境を再現して展示。展示スペースの1階は、動物の大きさに応じて、カエルやヘビなどの中小型展示ゾーンとワニなどの大型展示ゾーンで構成。太陽熱による自然暖房や季節風を利用した高窓換気など省資源・省エネルギー技術を多数採用することで生息地の気候を再現し、ふ化の様子など種本来の生態を見ることができ。デザインは札幌市立大学デザイン学部が提案・監修。2011年11月、「次世代エネルギーパーク」として園内の施設を改修。経済産業省から認定を受けた札幌市が補助金などを活用して整備。メーンの施設である動物科学館（ビジターセンター）では、館内に展示していた動物の複製などを整理し、新たにデジタル画像が映し出される直径1.28mの地球儀「触れる地球」などを展示。この地球儀全体が映像装置となっており、地球温暖化を予測するシミュレーション画像や、森林伐採が進む地域の映像などが上映される。館内には太陽光や風力発電の仕組みや、地球温暖化が動物に与える影響などを記したパネルも展示。エソシカ・オオカミ舎などに太陽光発電を導入したり、は虫類・両生類館の暖房には、木質ペレットストーブを設置。2012年1月、こども動物園内に、新しいアヒル・ガチョウ小屋が完成。屋内にもプールを設けるとともに、暖房を設置することで越冬も可能となっている
士別市立博物館・士別市公会堂展示館【北海道士別市】2011.04
1981年の開館以来初となる常設展示スペースの全面改修を実施。2月に仮オープンして来館者の意見を取り入れ、見やすくなるように展示構成を改善してリニューアルオープン。新しい展示テーマを「天塩川流域の自然と歴史」として、1階の常設展示室を中心に改修。エントランスホールでは照明を明るくするとともに、「学芸員の相談カウンター」を新たに設置
斜里町立知床博物館・姉妹町友好都市交流記念館【北海道斜里町】2012.01
1978年の開館以来初めて、本館1・2階の常設展示をリニューアル。「子どもミュージアム」を新設するとともに、展示コーナーに多機能携帯端末iPad（アイパッド）を計10台設置して映像や動画などを見られるようにした。考古学コーナーでは時代ごとの土器が壁一面に並び、展示方法を工夫した。携帯音楽プレーヤーiPod（アイポッド）の貸し出しによる音声解説も実施
市立小樽美術館【北海道小樽市】2011.04
「一原有徳記念ホール」を3階に開設。小樽市分庁舎を美術館・文学館専用として改装したのを機に整備された。版画家・一原有徳の作品を常設展示。同市潮見台にあったアトリエ「一原有徳実験工場」も再現されている
美幌博物館【北海道美幌町】2011.04
第二展示室を新たにオープン。（旧）農業館1階の常設展示室の修繕・更新を行い、新しい展示室として開設。展示のテーマは「美幌の農業と身近な自然」。トラクター、ジャガイモ形蒸機、作物の加工の仕組みなどを、実物資料、解説パネル、写真パネル、模型などで展示。また、「美幌温湯たぬ池」周辺の自然をテーマに据え、「温湯たぬ池の役割」「ホテル類やトンボ類などの水生昆虫の生活」「ヤチウガイなどの魚類の生活」「カエル類などの両生類・ハル類の生活」「水草などの植物の生活」のコーナーを設置。「体験学習」コーナーは、昆虫やエゾリスなどの生きものの学習ができる空間に整備
三笠市立博物館【北海道三笠市】2011.04
「古生物・地質展示室」をリニューアルオープン。展示室全体を太古の青い海に演出。青色を基調とした展示を行うことで、約1億年前（白亜紀）の海中をイメージした空間に整備。展示室中央では、発光ダイオード（LED）で青く照らされながら、直径約50cmから130cmあまりのアンモナイトの化石26点が並んでいる。展示室内には、アンモナイトや恐竜の映像が楽しめる大型モニターなどを配置。情報コーナーでは、iPad（アイパッド）で情報が検索できるようにしている。新設したスコープ2台をのぞくと、アンモナイトの化石に足が生えて泳ぎ出したり、恐竜の骨格標本が動き出すコンピューターグラフィックス（CG）を見ることができ。同館は、2009年度から2010年度にかけて「博物館機能拡充整備事業」を実施したが、同展示室のオープンで事業を完了
八雲町郷土資料館【北海道八雲町】2011.11
収蔵庫が新たに完成。同資料館の資料（舟や農機具類などの大型資料、復元した器などの考古学資料など）を収蔵するとともに、発掘調査の整理事務室や陶芸室を設置した作業室を備える
白神山地ビジターセンター【青森県西目屋村】2012.03
映像体験ホールにデジタルプロジェクターを導入。白神山地を上空から撮影した臨場感のある映像や、山と共生してきたマタギの行動の一端に迫る映像などを縦10m、横18.6mの大型スクリーンに上映（スクリーンも横長のデジタルサイズに一新）
ツカハラミュージアム【青森県八戸市】2011.06
新たに2号館を増設。開館後にレストアが完了した車両が増えるとともに、来場者のニーズが多かった1960～1970年代の国産車展示を増やす必要などから、新たな展示館を設けた（購入車両は、ミュージアムを設置・運営しているトヨタカーラ八戸など、塚原企業グループのメカニックがレストアし、入手でできない部品については図面などを手掛かりに自社で制作）
中泊町博物館【青森県中泊町】2012.03
津軽鉄道の名物「ストーブ列車」を再現した展示コーナーを設置。1927（昭和2）年に製造され、1960～1983年まで運行していた車両「オハ31」の車内の一部を再現。実際に座席に座ることもできる。木製のボックス席の中央にはだるまストーブを配置。車窓のスクリーンには、再現車両が運行していた当時の沿線風景を取った映像が流れる

大船渡市立博物館【岩手県大船渡市】2012.03
考古・民俗展示室に「三陸海岸の磯舟」と「海と造形」のコーナーを新設。「三陸海岸の磯舟」では、青森、岩手、宮城県の沿岸で実際に使われていた小型の木造船10隻の10分の1模型を展示。同市赤崎町でノリ養殖に使われていた「ノリトリカコ」や、国指定重要有形民俗文化財の丸木舟「大船渡のまるた」などもあり、地域や漁の形態によって舟の大きさや形が違ふことを理解することができる。「海をめぐるとは」コーナーの移設なども実施。地質展示室の古生復元図の更新やシアターの改修も行った
東北大学史料館【宮城県仙台市】2011.07
中国の文豪・魯迅（本名・周樹人）の仙台留學時代の資料などを紹介する魯迅記念展示室を開設。展示室は1階に設置。周樹人に対する入學許可書や成績表の複製などを展示。また、魯迅が終生大切にしていたとされる「借別 藤野 謹呈 周君」との裏書きのある藤野厳九郎教授の写真や、作家になってから魯迅が書いた掛け軸なども紹介。展示物には中国語の解説もついている
秋田市大森山動物園【秋田県秋田市】2011.09・2011.10
2011年9月、マールコルの「空中回廊」と「天空の食卓」がオープン。小屋の屋上を利用して、高さ約2mの檜を立て、地上高約6mの頂上に餌場を設置（天空の食卓）。また、地上から約5mの高さの位置に、幅が0.45m・長さ約7mの棧橋を設置（空中回廊）。2011年10月、「クジャクのくに」「キリンの窓」がオープン。「クジャクのくに」は、クジャク展示場前に木製の2重扉を設置し、観覧者が自由に展示場内に入出りできるように工夫。「キリンの窓」は、キリンをガラス越しに見ながらエサを与えたり、食べる様子を観察することができる
秋田大学国際資源学部附属鉱業博物館【秋田県秋田市】2011.10
秋田大学工学部（2014年4月に理工学部が設置され、鉱学資源学部は理工学部内に改組）の創立100周年に合わせて、リニューアルオープン。1階は「鉱物と鉱石」、2階は「地球の構成と歴史」、3階は「資源開発」にテーマを設定するなど、テーマ別に展示を再編。世界的に重要性が高まっている資源開発関連の資料を集約して展示の充実を図った。1階では、国内外から集めた鉱石と鉱物を展示。2階は岩石や地質、化石をテーマに設定。モニターでは、化石などのCTスキャン画像を見ることができ。3階は、鉱物や石油など資源開発関連の資料を展示。資源探査から採鉱、製錬までの流れを、実際に使う機器や模型を使って説明。また、特別展示室を新設した。全体のレイアウトや説明パネルのデザインは、同大教育文化学部の教員が担当
日立市かみね動物園【茨城県日立市】2011.04
新サル舎「サル楽園」がオープン。動物園リニューアル第4弾の新施設で、約1,260㎡の敷地に、人工島に放し飼いにしたりスズル、空中回廊を歩くマンドリルやブラザーゴエノン、つり橋を渡るクモザルなど、新しい展示方法で世界のサルらの行動を観察することができる。同楽園には、新規に導入されたクモザルとマンドリル、フサオカミキザルのほか、サバンナモンキーなど8種20頭の子と、ビルマニシキヘビ1種2匹が飼育されている
日立シビックセンター科学館【茨城県日立市】2011.07
「天球劇場」が全面改修してオープン。最新の映像・音響システムを導入して、光学式とデジタル映像を組み合わせた新プラネタリウムで壮大な宇宙の姿を再現。「天球劇場」に導入された新プラネタリウムシステムは、投影される星の数が従来の2万3千個から一気に1500個に増加。さらにデジタル映像で宇宙の果てまで飛行し、壮大な宇宙を体感することができる。照明システムのLED（発光ダイオード）照明化、ドームスクリーンの全面塗り替えとともに、座席間隔の拡大と再配置を行い、ゆったりと楽しむことができるように整備。科学館も展示物の一部入れ替え、4年前から取り組んできた全面リニューアルが完了
足利織物伝承館【栃木県足利市】2011.05
大規模改修を終えてリニューアルオープン。昭和初期に生産高を伸ばした絹織物「足利本銘仙」の着物や、美人画の大家・伊東深水や北野恒富などが描いた宣伝用ポスター、職人による手織り機の実演などが見られる。皇太子時代の大正天皇や、昭和天皇が行啓した旧織物会館の貴賓室も再現
宇都宮美術館【栃木県宇都宮市】2012.03
空調機器更新・収蔵庫増築工事を終えてリニューアルオープン。絵画など約6,500点の作品を新たに収蔵することができ収蔵庫を増設したほか、空調設備を取り換え、節電対策にも取り組んだ。また、大谷石造りの照明装置と同館周辺の地面など大震災による被災箇所も修復を終えた
さくら市ミュージアム・荒井寛方記念館 - 【栃木県さくら市】2012.03
雨情生誕130年を記念して「さくら市ゆかりの詩人 野口雨情コーナー」を新設。野口雨情の最初の妻ヒロは同市喜連川地区の出身。ヒロが守り伝えた資料やミュージアムで収集した資料を公開。雨情の原稿や書、楽譜などの展示をはじめ、同市と雨情の関係を映像で紹介したり、タブレットによる情報検索を行うことができる
壬生町おもちゃ博物館【栃木県壬生町】2012.03
大規模改修を終えてリニューアルオープン。1階に高さ約7mの大型遊具「キングとクイーン」を設置したほか、2階では展示品を3,000点から9,000点に大幅増加。館内は、壁や階段などを塗り替え、明るくカラフルにイメージチェンジ。ボールプールや体を使って遊べる多彩な遊具を増設したり、保護者などが活用できる休憩スペースを増設。3階には、主に就学前の子どもたちが遊べる遊具として「飛行船 みらいごう」を設置
伊香保おもちゃと人形自動車博物館【群馬県吉岡町】2011.09
「農業・林業王国」を新たにオープン。屋外約1,500㎡の敷地に畑や遊歩道を整備。「農業体験エリア」、「林業体験エリア」、「森の大工さん」といったコーナーを新たに設置。農作物の種まきや収穫、丸太の皮むきや木材の枝打ち、釘打ちやカンナ削りなどがそれぞれ体験できるようにした
碓氷峠鉄道文化むら（碓氷峠ポットタウン）【群馬県安中市】2011.04
鉄道展示館の「西展示館」が完成。旧西館は、旧国鉄が大正時代に機関車として建造した建物を活用していたほか、展示館で倒壊の恐れがあると指摘されたため、新館建設に着手した。新館は415m。粘着運転のEF63形電気機関車が登場するまで碓氷線の運行を支えたED42形電気機関車の屋根や、アプト式のラックレールにかみ合うユニオン（歯車）などを間近で見ることができ
埼玉県こども動物自然公園【埼玉県東松山市】2011.04
ペンゴトベンギンを間近で観察できる「ペンギンヒルズ」をオープン。生息空間に入って間近に観察できる展示手法を採用。生息地の南米太平洋沿岸の環境に近づけたため、人工波が起るプールのように果穴のある丘を造成。丘の斜面には縦横各40cm、奥行き約60cmの果穴25個を並べ、プールの側面ガラスから水中を飛びように泳ぐ姿を見ることができ、ペンギンが生活する様子を欄の中に入って間近で見ることができ
鉄道博物館【埼玉県さいたま市】2011.04
プロムナード、エントランスホール、ヒストリーゾーンの展示や設備をリニューアル。来館者の五感に訴える新たな手法を導入。音響効果も、来館者の目の前を鉄道が通り過ぎる感覚を得られるようにしたほか、展示車両の車内販売ワゴンから実際のコーヒの香りを感じられるようにした。プロムナードの蒸気機関車D51カットモデルは蒸気が実際に吹き出すように改修。メインエントランス床面には蒸気機関車のナンバープレートの展示ケースを新設した。博物館南側の屋外には「てっぺんひろば」をオープン。食事やイベントに使える多目的スペースの芝生広場、新幹線「はやぶさ」をデザインした滑り台などの子ども向け公園遊具、5インチの線路、車両出張展示スペースを整備

<p>所沢航空発祥記念館 [埼玉県所沢市] 2011.04</p> <p>所沢航空発祥100周年を記念して、展示をリニューアル。1993年の開館以来、初めて展示の一部をリニューアルを実施。月や惑星の重力の違いを疑似体験できる「スペースウォーカー」「地球脱出」「月面探検」「宇宙探検」の3コースを設定、100年前の所沢上空を飛ぶことができる「フライトシミュレーター」(「初級」「中級」「上級」の3コースを設定)、「飛行の原理」をわかりやすく演説解説する実験ショーや工作教室を展開する「ワークショップ」の3つの体験型展示を新たに設置。エントランスの改修も実施</p>	<p>目黒寄生虫館 [東京都目黒区] 2011.09・2011.12</p> <p>2011年9月、1階展示室に展示パネル「人の寄生虫」を設置。耐震対策を兼ねて、標本瓶をはじめ込んだ新たな展示パネルを作成。2011年12月、1階展示室に展示パネル「寄生虫の多様性」を設置。従来のパネル「寄生生活をする動物たち」に代わり、近年の研究成果に基づいて新しい情報を取り入れた寄生虫の系統樹を展示</p>
<p>航空科学博物館 [千葉県芝山町] 2011.08</p> <p>「ジャンボジェット」の愛称で親しまれている大型旅客機ボーイング747の実物を用いて、機首部分ごと紹介する新展示を公開。全長約70mのうち、機首と機首につながる一部客室部分約13mを購入。客室は左半分の壁と天井の内装を取り外しているため、酸素マスクや空調の仕組み、機体の骨組みがわかる。機首部分では飛行機を制御する計算機や無線機の格納場所を紹介</p>	<p>リスピア [東京都江東区] 2012.02</p> <p>「パナソニックセンター東京」の改装にあわせて、同施設もセンターの1階から2階に移設。移設を機に、2階「クエストギャラリー」に新展示「ケプラーの法則」を設置。ロケットの穴が開いた盤面上に転がしたボールの軌跡を確認することで、惑星の楕円軌道を体験的に学習することができる。「クエストライブラリー」では、インクタイプ映像ライブラリーに「加速する地球温暖化」「小惑星探査機・はやぶさ」など、環境・テクノロジーのコンテンツ(10種類)を追加</p>
<p>千葉市動物公園 [千葉県千葉市] 2011.04</p> <p>新しいレッサーパンダ舎を公開。立ち姿で人気を博したレッサーパンダ風太の息子「クウタ」と嫁入りしてきた「メイメイ」の繁殖用獣舎として建設。クウタの両親である風太、チチイ夫妻も一緒に公開</p>	<p>相模原市立博物館 [神奈川県相模原市] 2011.04</p> <p>「宇宙とつながる」をテーマに天文展示室をリニューアル。JAXA(独立行政法人宇宙航空研究開発機構)との連携により、実物の天体観測機器などの展示を実現。小惑星探査機「はやぶさ」に搭載されたイオンエンジンの開発初号機や実際に宇宙空間で観測をして地球に戻ってきた宇宙赤外線望遠鏡(IRTS:アーツ)などの貴重な資料を借出して展示。そのほか、本物の隕石の展示など、宇宙とのつながりを考えるヒントが詰まった展示で構成</p>
<p>池袋都民防災教育センター(池袋防災館) [東京都豊島区] 2012.03</p> <p>地震の時に高層ビルなどで起きる長周期地震動の大きな揺れを体験できる装置を導入。長周期地震動の揺れの体験施設は全国初。装置は約10mのフロアにテーブルと椅子、キッチンを配置し、5人まで体験可能。ビルの10〜20階で起きると想定される長周期地震動の揺れを再現して、床が水平方向に1m動く仕組み</p>	<p>平塚市博物館 [神奈川県平塚市] 2011.05</p> <p>プラネタリウム室を改修。スクリーンパネルの新装、新しい座席の設置、投影機の更新を実施。新投影機は、4千個以上の星を投影(それまでの投影機は6,500個の星を投影)。高解像度ビデオプロジェクター2台が、ドームスクリーン全体に鮮烈な宇宙の姿を描写する。座席は70席に絞り、大人でもゆったりと座れる環境を整備。通路幅を広げ、車椅子にも配慮した。同館のプラネタリウムは3代目</p>
<p>奥多摩水と緑のふれあい館 [東京都奥多摩町] 2012.03</p> <p>1階「水が生まれる」コーナーのリニューアルを実施。「水が生まれる」場所である水道水源林について、「体験」しながら楽しく学べるコーナーに整備</p>	<p>三菱みなとみらい技術館 [神奈川県横浜市] 2012.02</p> <p>「交通・輸送ゾーン」と「くらしの発見ゾーン」をリニューアル。発電と電力供給のバランスや交通管理、生活スタイルなど、全てのシステムが最適化された社会「スマートコミュニティ」を統一テーマに、両ゾーンでそれぞれの切り口による展示を実施。災害に強く持続可能な低炭素社会の実現に向け、スマートコミュニティを支える高度な技術についてわかりやすく紹介。子どもから大人まで、より快適で便利な未来に「びっぴり」のエコな社会が体感できる</p>
<p>科学技術館 [東京都千代田区] 2011.08</p> <p>多目的ホール「実験スタジアム」がオープン。多くの来館者に最先端の科学技術の素晴らしさや驚き、不思議な世界を提供する。実験ショーや講演会に最適な「スタジアムR」と工作や科学実験教室が可能な「スタジアムL」で構成</p>	<p>遠藤実記念館「実唱館」 [新潟県新潟市] 2011.06</p> <p>映像コーナーや展示・視聴コーナーを新たに設置するなど、内装を一新。戦後歌謡界を代表する作曲家・遠藤実の生前の姿や時代を彩った名曲に身近に触れることができる展示に改装。映像コーナーでは、新潟での疎開生活や上京後の修業時代など、遠藤実の足跡を辿ることができる。タッチパネル式の展示・視聴コーナーでは、代表曲など約250曲を視聴することができる</p>
<p>がすてなーに ガスの科学館 [東京都江東区] 2012.03</p> <p>1階の展示をリニューアル。LNG(液化天然ガス)を貯蔵する工場の模型、金属メンブレンを使った実物大のLNGタンクの模型(部分)や、LNGを気化する仕組みの模型、ガス田で掘るドリルビットなどを紹介</p>	<p>地すべり資料館 [新潟県上越市] 2011.11</p> <p>小学生にもわかりやすいよう、展示内容を刷新。自然災害・防災を学ぶ拠点として模型展示を増やし、パネルを多くするなどの工夫を図る。模型や実験装置を通じて、地震で見られる液状化現象や地層の変化、山ができる仕組みなどを学ぶことができる。地元の板倉区に残り人柱伝説など、三つの伝承についても人形や映像で紹介</p>
<p>サンシャイン水族館(旧:サンシャイン国際水族館) [東京都豊島区] 2011.08</p> <p>1978年の開館以来初となる大規模改修を約1年かけて実施し、オープン。新たなコンセプト「天空のオアシス」に設定。南国リゾート風の屋外エリアには、直径8mのドーナツ型水槽「サンシャインアクアリウム」を新設。都会の空を飛ぶように泳ぐアシカの姿を見ることができ。館内では、多様な生物が生息するサコウ礁の海「ラグーン」を再現(水量約240トンのフロッグシップ水槽「サンシャインラグーン」)したり、クラゲが幻想的に浮遊する「ふわうらむ」などを設置。施設名は「サンシャイン水族館」に改称</p>	<p>長岡戦災資料館 [新潟県長岡市] 2011.05</p> <p>太平洋戦争当時の茶の間を再現するなど、展示をリニューアル。交流のある米国ハワイ州ホノルル市のアリソン記念館から贈られた資料も展示に加え、真珠湾攻撃と長岡空襲の歴史を同時に展示することで、戦争の愚かしさを伝えている</p>
<p>世田谷美術館 [東京都世田谷区] 2012.03</p> <p>約9か月間の大規模改修工事を終えてリニューアルオープン。老朽化に伴う改修、ユニバーサルデザインのための改修、魅力向上のための改修を実施。耐震工事や館内の空調設備やトイレなどの改修のほか、ユニバーサルデザインを取り入れてスロープを長くしたり、段差の解消、屋上防水、内外装の劣化部の改修、授乳室の設置などを実施。地下には、フランスの郷土料理であるガレットなどが楽しめる開放的なカフェ「カフェ・ボーション」が開店</p>	<p>黒部川電気記念館 [富山県黒部市] 2012.03</p> <p>1996年以降のリニューアルを実施。黒部川第四発電所(黒四)で使われている発電用車の実物大模型を展示。トロッコ電車の客車模型に乗って峡谷の景色を楽しんだり、再現した登山道を歩行するなど、体験型の内容を充実。入口付近に設置した巨大な水槽では、水槽内部に作り出した泡と水槽に流れ落ちる水をスクリーンにして、黒部川の流れやダム、発電所の様子を映像で紹介。映像終了後には、泡が取り除かれ、水槽内に設置された直径約3.3mの黒四の実物大水車が現れる仕掛け</p>
<p>東京おもちゃ美術館 [東京都新宿区] 2011.10</p> <p>木のおもちゃがあふれる3歳未満児とその保護者の専用スペース「赤ちゃん木育広場」をオープン。移をふんだんに使った約125㎡のスペースを整備。木製のすべり台、積み木や木馬などを約200点を設置</p>	<p>高岡古城公園動物園 [富山県高岡市] 2011.04</p> <p>赤ちゃんの授乳やおむつ交換ができるスペースを新たに設置。来園者の要望を受け、自然資料館の一部を改装。授乳やおむつ交換ができる台、荷物の置けるテーブル、小さいソファを配置</p>
<p>東京都江戸東京博物館分館「江戸東京たてもの園」 [東京都小金井市] 2011.09</p> <p>幕末頃に建てられた旅館と昭和初期建築の乾物屋を移築・復元。復元されたのは、江戸時代末から明治初期に建築されたと推定される「万徳旅館」(旧所在地・青梅市)、1928(昭和3)年建築の乾物屋「大和屋本店」(旧・港区白金台)の2棟。いずれも現存していた建物や移築・復元した。万徳旅館は青梅街道沿いになり、1990年代前半まで営業。大和屋本店は木造3階建てで、海産物の手入れが困難になった昭和10年代後半以降は主にお茶と海苔を販売していた</p>	<p>富山市ファミリーパーク [富山県富山市] 2012.03</p> <p>園内の郷土動物館前に、野生のムササビを観察できる「ムササビ村」を開設。内部にカメラを取り付けた巣箱を近くのスキの木に5つ設置。自然の姿をモニターで観察することができる。職員が野生のムササビを目撃し、スキに巣箱を取り付けたところ、ムササビが寝床に使い始めたのが、新たに4つもの巣箱を追加して「ムササビ村」として整備</p>
<p>東京都恩賜上野動物園 [東京都台東区] 2011.04・2011.10</p> <p>2011年4月、ジャイアントパンダの「リーリー」と「シンシン」の来園に伴い、パンダ舎をリニューアル。パンダの部屋(室内)には木製のベッドやプール、水暖房を完備。室内の床を従来のタイルから土に変更するとともに、屋外の運動場の来園者との間にあった植え込みを撤去した。2011年10月、極地の動物をまとめて飼育展示する新施設「ホッキョクグマとアザラシの海」がオープン。ホッキョクグマ2頭の「ホッキョクグマの海」、アザラシ2頭とアシカ5頭の「アザラシの海」、世界最北端に生息する純白の鳥・シロフクロウとスバルハライチョウを展示する「小動物舎」、観察窓と解説施設がある「水と水の回廊」の4つのスペースで構成。動物たちの姿を様々な角度から見ることができ立体的な構造が特徴で、透明なプール壁を通して水中のダイナミックな動きを間近に観察することができる</p>	<p>伏木ふるさと博物館 [富山県高岡市] 2012.02</p> <p>高岡市立伏木小学校に地元の歴史や文化を伝える資料を展示した「伏木ふるさと博物館」を整備。明治から昭和にかけての生活用具や祭具など、約2千点を展示。博物館は同小学校の1階に整備。「産業」「くらしと文化」「歴史」をテーマにした展示室と、伏木小学校の創設者で伏木港整備などに尽くした実業家・藤井龍三を紹介する「龍三さんのお部屋」の4室で構成。1986年に開設した「ふるさと学習室」は1階と3階に分かれていたため、展示を1カ所に集約させた</p>
<p>東京富士美術館 [東京都八王子市] 2012.03</p> <p>開館30周年を間近に控えて、本館がリニューアルオープン。改修工事とともに新しい照明システムを採用。ベース照明すべてをLED照明に変更。細かく区切られたエリア単位で個別に照明を操作できるようにして、展示する作品に合わせた微妙なライティングが設定できるようにした</p>	<p>いしかわ動物園 [石川県能美市] 2011.04・2012.03</p> <p>2011年4月、絶滅が危惧されるニホンライチョウの近縁種スバルハライチョウを飼育・展示する「ライチョウの峰」がオープン。雄4羽、雌1羽を飼育し、繁殖技術の習得に取り組み。ガラス張りのトンネルやのぞき窓から生態を間近に観察でき、館内は20度以上保たれ、ハイマツなどの高山植物を植えることで白山の生息環境に近づけた。入口では人工雪が舞う演出を設け、屋根の太陽光パネルで施設内の電力を賄うようにしている。2012年3月、「サルたちの森」のシロテナガザル展示場をリニューアル。前面の金網を強化ガラスに変更することで、より間近にシロテナガザルの家族を観察することができるように整備</p>
<p>日本科学未来館 [東京都江東区] 2011.06・2011.08・2011.12</p> <p>2011年6月、東日本大震災の影響に伴う改修を終えてオープン。展示替えの目玉は、新素材の有機ELを光源にした球体ディスプレイ「ジオ・コスモス」。発光ダイオード(LED)の大型化に比べて、1千円未満以上となり画質が大幅に向上。直径約6mの球面に約200万点の1サイズの地球をリアルに再現。新規常設展示として13台の情報端末「ジオ・スコープ」を設置。オンラインサービス「ジオ・パレット」を含む3つのツールが連動して、宇宙と地球、生命、人類の結びつきを示す「つながり」プロジェクトを開始。気温や雨量、生物分布、津波の広がりなど、内外の研究機関が提供する約30種のデータを活用。震災によって崩壊したエントランス部分の天井は、新しい発想による「膜天井」に改修。2011年8月、3階に常設展示「2050年くらしのかたち」と「アナグラのうた〜消えた博士と残された装置〜」を設置。前者は架空都市「いとおか市」での人々のくらしをAR(拡張現実)技術を用いた端末で体験、後者は空間情報科学をテーマにした体験型展示として整備。2011年12月、大型映像作品「ちゅーむをつまぐ」を公開。「地球環境」をテーマにしたファミリー向けのアニメーション作品</p>	<p>金沢市キョ山天体観望センター [石川県金沢市] 2012.03</p> <p>展示を一新。壁面展示中心だった内容を見直し、体験型展示を多く採用することで、子どもたちが見たり、触れたりしながら宇宙の不思議と魅力を感じられる空間に整備。観察センター入口に位置する2階展示ホールでは、四季の移り変わりや天体の動きの関連性や地球の成り立ちなどを紹介。「宇宙をめぐろう」のコーナーでは、声を光に変えて送る「光糸でんわ」で光通信の原理を体験することができる。1階展示ホール「宇宙にふれよう」には、星座や月の満ち欠け、無重力、大気力を学ぶ装置を配置</p>
<p>武蔵野美術大学 美術館・図書館 [東京都小平市] 2011.06</p> <p>新図書館棟の完成を受け、従来の「美術資料図書館」を美術館棟に改装して新たに開館。美術館では美術工芸品に偏らず、デザインの世界も重視している。収蔵品は絵画や彫刻から美術工芸品、民芸品まで4万点以上。3万点に及ぶポスターと約350点の近代椅子も含まれている。分室の民俗資料室には9万点の生活造形資料を有しており、日本の伝統文様の入った織物などテキスタイル3万点も収蔵している。美術館は改修の際に増室して展示面積が倍となり、空間演出のホールや講義室も併設。広さや天井の高さが異なる5つの展示室と、図書館棟との接続部などを使って展示している</p>	<p>坪野哲久文学記念館 [石川県志賀町] 2012.03</p> <p>増築工事が完了しリニューアルオープン。増築部分の展示スペースには、弟子で甥の若狭鉄介の歌集や隨筆などの遺物コレクションや写真を展示。展示スペースのほかに、大きな窓を設けた休憩室や屋上には展望テラスがあり、四季の花を咲かせる木々を植えた敷地を見渡すことができる</p>
	<p>柳田屋の観察館「満天星」 [石川県能登町] 2011.07</p> <p>1993年の開館以来初となるプラネタリウムのリニューアルを実施。使用していた機器の老朽化に伴い、最新機器「パンドラ」を新たに導入。それまでの機器では約6千個の恒星の投影までであったが、今回の機器では約4千個の投影が可能となった。高輝度発光ダイオード(LED)で星の色も正確に表現することができる</p>

<p>越前島水族館 [福井県坂井市] 2011.07・2012.03</p> <p>2011年7月、3種類のペンギンを展示する新たな「ペンギん館」がオープン。旧館の老朽化に伴い、水中トンネルのある水槽を備えた2階建ての新館を建設。2階には旧館の5倍以上にあたる広さ130㎡の陸地を設置。水深3.5m、水量80トンのプールがあり、泳ぐペンギンを真下から見られるように、アクリルガラス製のトンネル水槽を整備。2012年3月、本館建物を改修し「おさかな館」がオープン。新たにクラゲなどの展示コーナーを設置。本館の2階部分を取り壊し、1階部分を拡張して整備。水槽が列車の窓のように並ぶ開館当時から展示ゾーンは残し、新たにクラゲとコンベイトウ（カサゴ目ダンゴオ科の深海水生魚）、タツノオシゴキやナミノミなど人気の高い生き物を集めた「アイルフィッシュ」の3コーナーを設置。クラゲコーナーは、大小10個の水槽を壁や天井に配置。ミズクラゲやアカクラゲ、タコクラゲなど、5種類の展示し、ふわふわと漂う姿を照明を使って強調。コンベイトウは、同館が全国で初めて繁殖に成功</p>
<p>大野市歴史博物館 [福井県大野市] 2011.04</p> <p>隣接する市産業文化展示館の廃止・統合に合わせて展示スペースを拡大し、内容を充実。中世以前は越前国の学芸文化の中心だった大野郡の特色を、それまでの約1.3倍の史料でよりわかりやすく紹介。同館は、2008年から市産業文化展示館を併用し、第1展示室としてきた。産業文化館の廃止に伴い、壁面型の展示ケースを導入し、これまで公開できなかった所蔵品を新たに追加した。第1展示室は、戦国武将・金森長近の登場から、土井大野藩の改革までを政治・経済・文化の側面から紹介。第2展示室では、縄文時代から朝倉時代の史料を展示</p>
<p>北アルプス展望美術館 [池田町立美術館] [長野県池田町] 2011.07</p> <p>展示スペースの配置替えなどの改装を実施。美しい眺望を生かした美術館として、スケッチ専用の場所を設けたほか、自由に利用できるスペースと入館料が必要なスペースの区分けを明確にし、入館者が分りやすく整備した。「小島孝子記念館」を多目的に利用できる貸し展示室「安曇野ギャラリー」としたほか、「安曇野原風景館」と「小島孝子親子ふれあい館」を2階に新設</p>
<p>信濃デッサン館 [長野県上田市] 2012.02</p> <p>新たに立原道造記念展示室をオープン。詩人、画家、建築家として活動し、24歳で夭折した立原道造の油彩やパステル画などを展示。同展示室は、東京にあった立原道造記念館が閉館し、所蔵作品などが同館に託されることになったため、同館の一部を改修して開設</p>
<p>須坂市動物園 [長野県須坂市] 2012.03</p> <p>来園者が中に入っって様々な鳥を間近に見ることができるよう新たな飼育舎（バードケージ）を完成。2013年度に迎える開園50周年記念事業の一環として、ジャクワや七面鳥の旧飼育舎を改修。新飼育舎は、幅約20m、奥行き約8m、高さ約5m。飼育舎の内部には植栽が施され、水場や止まり木も整備されている</p>
<p>諏訪市原田泰治美術館 [長野県諏訪市] 2011.12</p> <p>ギャラリースペース「ギャラリーさざなみ」を新設。地域住民や多くの作家の作品発表の場として利用。2階の第2展示室の一部を改修。ピクチャーレールを付けており、大きな作品を展示することもできる</p>
<p>小さな絵本美術館 [長野県岡谷市] 2012.03</p> <p>新館を増設。同美術館は本館と新館で構成されている。市道の拡幅工事に伴い、取り壊された新館を本館南隣に移転新築。完成した新館は木造2階建てで六角形のユニークな外観。1階に展示室、2階にアトリエ・図書室を配置</p>
<p>岐阜県博物館 [岐阜県関市] 2012.02</p> <p>本館展示室をリニューアル。4階特別展示室と3階自然展示室を中心に、「見やすさ」と「分りやすさ」をテーマに、展示資料や案内パネルなどを変更。特別展示室では、展示ケースをLED照明で照らすほか、調湿機やフィルターなどを採用し、管理の難しい国宝や重要文化財の展示が可能となった。自然展示室では、植物や動物などの写真を連続でモニターに映す方式を採り入れ、改装前より10倍以上の写真資料を閲覧できるように整備した</p>
<p>岐阜県美術館 [岐阜県岐阜市] 2012.01</p> <p>1982年の開館以来初となる大規模改修工事を実施。同館の収蔵品は開館当時600点だったが、寄贈などで4,000点以上となり、従来のスペースでは全作品を展示できなくなったほか、一部作品は他の美術館で保管していたため、改修工事を実施することにした。展示室は従来の1.3倍に、収蔵庫も1.5倍に拡張された</p>
<p>下呂ふるさと歴史記念館 [岐阜県下呂市] 2012.03</p> <p>開館40周年を迎えるのを機に、常設展示を全面リニューアル。それまで下呂市全域を対象にした施設がなく、「市域全体を対象とした博物館」としての機能を保有させるため、全面リニューアルを実施した。旧石器・縄文時代から現代までの、下呂市及び飛騨地方の注目すべき歴史的な事件や、出土品や古文書資料で解説。下呂市の歴史をより深く理解するために、飛騨地方の歴史との関わり、日本列島の歴史との関わりを重視。学校教育・生涯学習・観光のいづれにも活用しやすい展示内容にするを意識した。観光客が下呂市の歴史を1カ所で理解できるように「歴史の拠点」としての機能を向上させた。リニューアル後の展示数は考古資料約300点、古文書などの歴史資料約50点の合計約350点</p>
<p>奇石博物館 [静岡県富士宮市] 2011.04</p> <p>新しい展示室「地球の宝石」を開設。エメラルドやルビーをはじめとした誕生石や大型標本など約50種類を揃えている。造形作家の水越亘将氏が展示室のデザインに全面的に協力。実物の測量器具を組み合わせ、底を掘り進む潜水艇のラボをイメージした展示室に仕上げている。自然確實やオパールなど、色鮮やかな石を数多く展示したほか、一部の標本は実際に触って楽しむことができるようにしている</p>
<p>静岡県立日本平動物園 [静岡県静岡市] 2011.05・2012.03</p> <p>2011年5月、国内最大級の鳥類展示施設「フライングメガドーム」と世界各地に生息するは虫類、両生類を集めた「は虫類館」をオープン。「フライングメガドーム」は広さ約3,300㎡、最も高いところは1.5mある巨大なケージで、フライングジョウビロキなどの大型鳥類を含む約20種160羽を水辺に放し飼いにしている。内部の観察デッキを通して観賞ができるように整備。園内の旧施設を移転新築した「は虫類館」では、日本一の大蛇オオアナコンダや、天然記念物のオオサンショウウオなど、46種105匹を生息環境ごとに分けて展示している。両施設ともに動物本来の生態を間近に感じられる展示となるように工夫している。2012年3月、「ふれあい動物園」がオープン。総面積4,800㎡の敷地内に、ヤギやウサギなどの16種類が飼われ、時間帯や曜日を限定して、餌やり、抱っこ、ボニー乗馬などを体験することができる。ふれあい館や池なども整備している</p>
<p>シルクロード・ミュージアム [静岡県磐田市] 2011.05</p> <p>硯を紹介する常設ギャラリー「古和硯（こわけん）」をオープン。同ミュージアムの一角に開設。同ギャラリーでは、中国硯や朝鮮硯にない日本独自の感性に満ちた造形の門司硯（福岡県）を中心に作品を入れ替えながら展示</p>
<p>富士宮市立郷土資料館 [静岡県富士宮市] 2011.10</p> <p>展示スペースを拡充。同市ゆかりの和紙工芸家・後藤清吉郎の展示コーナーを新設。展示面積を従来の1.5倍に当たる約150㎡に拡大。それまで市民文化会館となっていた部屋の配置だったが、仕切りを設けて個別に施設管理を行うようにした。同市所有の資料を中心に順次、企画展を開催</p>
<p>愛知県陶磁美術館 (旧：愛知県陶磁資料館) [愛知県瀬戸市] 2011.08</p> <p>陶芸家の焼き物や書籍を販売するミュージアムショップをリニューアルオープン。来館者増に向けた活性化策の一環として実施。それまでショップは地階にあったが、玄関ロビーを活用して整備した。本館入口から至近のスペース50㎡を使って、白を基調とした陳列棚を設置。織部や黄瀬戸といった伝統系作品だけでなく、食卓で使うことができる白磁の置物や明るい色絵が施された食器、切りガラスなど現代作品を多く取り扱っている</p>

<p>蒲郡情報ネットワークセンター 生命の海科学館 [愛知県蒲郡市] 2012.03</p> <p>1階部分の改修工事を完了してリニューアルオープン。1階ロビーを2つのゾーンに分け、それぞれ恐竜にちなんで命名した「プレシオ広場」「イクチオ広場」を開設。プレシオ広場では、それまでであった首長竜の化石の近くに、画面前に立つと首長竜のコンピュータグラフィックス（CG）映像が動き出すモニターを設置。海中の映像をおおむねに寝そべて見ることで「ミニネウシアター」や、生き物のマグネットを年代順に並べて遊ぶコーナーなども設置。恐竜化石の複製レプリカを置いたイクチオ広場には、保護用マットを敷いて、幼児も楽しめるように整備</p>
<p>窯のある広場・資料館 (INAXライブミュージアム) [愛知県常滑市] 2011.11</p> <p>INAXライブミュージアムの一つである同館がリニューアルオープン。昭和30年代まで常滑市で盛んに生産された土管の生産設備などを展示し、日本の近代化を地下で支えた技術を紹介。1階では、土管を連結して地下に埋設する様子を再現。最も大きい「三尺土管」は内径90cmあり、子どもが中をくぐることができる。土管の生産設備を見学できるのも特徴の一つ。材料の土をこねる土練機や、筒状の形を成形する機械、重い土管を軽々と運べる運搬車なども展示</p>
<p>刈谷市郷土資料館 [愛知県刈谷市] 2011.04</p> <p>老朽化に伴う耐震補強工事を終えてリニューアルオープン。同館は、1928年建設の旧亀城小学校本館で、国の登録文化財。鉄筋コンクリート2階建てだが、屋根や内部の床は木造で昭和初期の趣が漂う空間。天井と床を筋交いの鉄筋で補強し、廊下を塩化ビニール張りから建設当時に近い板張りに変えた。昭和30年代の一般家庭の部屋や小学校の教室の再現コーナーを新設するとともに、同館職員の川口孝嗣氏が収集したおもちゃのコーナーも常設化した</p>
<p>豊橋市自然史博物館 [愛知県豊橋市] 2011.09</p> <p>大型映像の映像機器をリニューアル。映写機をフィルム式から高精細（4K）のデジタル式に更新</p>
<p>名古屋科学館 [愛知県名古屋市] 2011.11・2012.03</p> <p>屋外展示がリニューアルオープン。国産最大のロケット「H2B」と、国際宇宙ステーション（ISS）の日本実験棟「きぼう」の試作機を展示。機体の展示はどちらも国内初。H2Bは、国産最新のロケットで全長約57m、直径5.2mあるが、展示されるのは一部を除いた約46m。先端のカバーの部分や、燃料の液体水素をためるタンク、エンジンを支える部分など、多くは開発のための実験で使われた実物。液体水素タンクは切断されていて中を見ることができ。ISSの「きぼう」は、宇宙飛行士が滞在する中核部分の船内実験室（全長約11m、直径4.4m）を展示。「きぼう」はJAXA（独立行政法人宇宙航空研究開発機構）の筑波宇宙センターに保管されていたものを譲り受けた。2012年3月、生命館5階「ワンダーゲム」[生きものラボ]がリニューアルオープン。「ワンダーゲム」は、コンピュータとセンサーを使ったインターラクティブなゲームで、地球上の生物の共通性と多様性に関心を持ってもらうことを狙っている。「生きものラボ」は、モデル生物や発光生物の生体展示「生きものギャラリー」、遺伝子組換え体GFPマカロの生体展示「遺伝子ミニラボ」、実験体験コーナー「生命ラボ」で構成</p>
<p>名古屋市東山動物園 [愛知県名古屋市] 2012.02・2012.03</p> <p>2012年2月、開園以来75年ぶりにペンギン舎をリニューアル。新舎は広さ230㎡。生息する南米の海岸に似せて、モルタル製の岩場を整備し、岩場の周りはブルが囲むようにした。高さ2mの見物台からは、ペンギンが水中を泳ぎ、陸を歩く姿を見ることができ。足元を通る場面も楽しめるように、ブルの上には一部強化ガラスを整備。霧を広角や下方に噴霧する装置を設け、水しぶきが舞う波打ち際の光景を再現。1937（昭和12）年の開園以来、ペンギンを飼育してきたが、アジアゾウの獣舎の拡張工事のため、ペンギンを旧舎から、かつてゴマファザランがブルの場所に移した。2012年3月、フクロテナガザルの新しい獣舎がオープン。全長36mの巨大雲梯を設置。観客手前側には休憩場所を整備した。カリフォルニアアシカの獣舎もリニューアル。泳ぐ姿が見えやすいよう、ブルの壁や底を濃い青色にした。また、ゴマファザランの獣舎をリニューアルして「流水」を茶から白色にして生息地に近づけた。暖かい海に生息するアシカと寒冷地に暮らすアザランを見比べることができるように獣舎を整備した</p>
<p>ノリタケミュージアム [愛知県名古屋市] 2011.10</p> <p>ミュージアムの一部改装と新コーナーを設置してリニューアルオープン。クラフトセンターの3・4階にあるミュージアムのうち、3階の展示室に新コーナー「デザイナーⅢで迎えるノリタケデザインの変遷」を設置。ノリタケが大正期から現在まで製造してきたデザイナーⅢの中から200枚を厳選して展示</p>
<p>門野幾之進記念館 [三重県鳥羽市] 2011.11</p> <p>展示内容を全面的にリニューアル。門野家から鳥羽市に寄贈された3,200点余の資料をもとに、門野幾之進の足跡を辿る6部構成の展示に大幅改装。塾生時代の成績表の複製を慶応義塾福沢研究センターから取り寄せするなど、展示内容も充実させた。時代パノルの漢字には読み仮名を入れるなど、子どもに配慮した展示に変更。照明や壁紙の一部も更新</p>
<p>猿田彦神社 小坡美術館 [三重県伊勢市] 2011.04</p> <p>施設の改装工事を終えてリニューアルオープン。ロビーを展示空間に改装して、新収蔵品の大作「幻想」をはじめ、四季折々の風情あふれる作品を展示。展示点数はそれまでの約2倍に拡大。事務室を改装して学習室を新設。憩いの空間、語りあいの場として利用することができる空間を整備した。収集した図書約500冊の閲覧や映像資料を楽しむとして機能</p>
<p>大津市科学館 [滋賀県大津市] 2012.03</p> <p>プラネタリウムがリニューアルオープン。投影可能な星の数が8,700個から11万8千個に増えて、より鮮明で立体的な夜空を再現することができる。新たなプラネタリウムは、同市内の37小学校周辺の風景を映し出し、各地域の子どもが見慣れた夜空で星の動きを学ぶことができる。雷雨や雪、オーロラなどの自然現象も再現可能。大津の四季や宇宙空間などを紹介する立体的なイメージ映像も投影。新たに「赤外線聴聴システム」を取り入れ、聴覚障がい者も楽しめるように整備した。座席は125席から95席となり、1席あたりのスペースが拡張</p>
<p>大津祭天山展示館 [滋賀県大津市] 2011.04</p> <p>1991年の開館以来初となる映像設備や展示の大規模改修を実施。くじ取り式や曳山巡行などの祭りの流れを説明した写真パネルや、動画を上映する大型スクリーンを新設。写真パネルは、くじ取り式から宵宮、本祭、みこし洗いで、それぞれの神事を順を追って紹介。花の中から現れた仙人が西行法師と問答するからくり仕掛けの「西行探桜山」をはじめ、曳山全13基の由緒や歴史を学ぶ映像を流すモニターも併設</p>
<p>長浜鉄道スクエア (旧長浜駅舎・長浜鉄道文化館・北陸線電化記念館) [滋賀県長浜市] 2011.06</p> <p>長浜鉄道スクエアの長浜鉄道文化館2階がリニューアルオープン。鉄道模型運転コーナーを新設。それまでは、同館2階の高さに全長66mの線路を設置して2時間ごとに鉄道模型を走らせていたが、掃除や修理のしにくさなどから、館内中央に設置。1周約20mで軌道幅16.5mのHOゲージ線路を設置。現在の長浜駅周辺の様子を模したジオラマを整備</p>
<p>小倉百人一首殿堂 時雨殿 [京都府京都市] 2012.03</p> <p>約1年をかけた改装工事を終えてリニューアルオープン。百人一首の歌をより深く理解するため、和歌が詠まれた当時の平安貴族の衣装や調度品などを4分の1サイズで再現したジオラマを展示。内裏（天皇の日常の生活スペース）のうち、執務や住まいに使われた清涼殿で行われた歌合の場面のほか、四季折々の光景を、それぞれに応じた装いとともに入れ替えて展示。また、江戸時代前期の絵師・狩野探幽が描いた「百人一首画帳」などをもとに作った歌人100人のミニチュア人形を並べたコーナーも設置。2階の広間には、伝統衣装の袴や袴姿をまわって写真撮影できる体験コーナーも設置</p>
<p>京都国際マンガミュージアム [京都府京都市] 2011.08</p> <p>カフェ「えむえむ」がリニューアルオープン。それまで手狭だった店舗面積を広げて、従来の店舗とカフェ専用のスペースを新設。席数は2倍以上に増加した。メニューも一新して来館者以外も利用できるようにしている</p>

<p>京都市動物園【京都府京都市】2011.04</p> <p>動物と直接ふれあうことができる人気ゾーン「おとぎの国」がリニューアルオープン。同園は100年以上の歴史があり、老朽化のため、2009年から大規模リニューアル事業を開始。「おとぎの国」の改修もその一環として実施。レッサーパンダやヤギ、ヒツジなど7種類約90匹を、改修前より約2.5倍広い2,600㎡のスペースに展示。ガラス越しに水中を泳ぐフンボルトペンギンを観察できるプールなども併設。また、天候に関わらずふれあえる「ふれあいルーム」では、テンジクネズミやウサギを実際に抱いたり、なでたりすることができる。同ルームの屋上部分は遊歩道となっていて、レッサーパンダが木に登る姿や、南側の琵琶湖疏水などを高い位置から見渡せるようにしている</p>
<p>京都府京都文化博物館【京都府京都市】2011.07</p> <p>本館改修工事を完了してリニューアルオープン。祇園祭の山鉦の懸装品などを展示した「総合展示室」(2・3階)や、174席を備える「フィルムシアター」(3階)を新設。開館から20年以上が経過して、展示設備やスペースの変更が必要になり、改修工事を実施。2階は京都の歴史を模型や映像で紹介する常設展示だったが、平安京の誕生から近代京都までの歩みを150インチのスクリーン4台で映像や資料を駆使して紹介する「京の歴史」、祇園祭の山鉦町が所有する名品を中心に紹介する「京のまつり」、空町時代の三管領として知られる細川家などのコレクションを公開する「京の至宝と文化」で構成。3階は113席だった映像ホールを、客席数を大幅に増やしたフィルムシアターに変更。大型スクリーンと最新の音響、映像機器を導入して京都府が所蔵する貴重なフィルムから古典や名作映画を紹介。1階エスカレーターの付け替えも実施</p>
<p>京都府立植物園【京都府京都市】2011.11</p> <p>「森のカフェ」がオープン。それまでの休憩所を建て替え、ヒノキなど京都府内産の木材を使って温かみのある空間に生まれ変わった。カフェは1万5千㎡の芝生広場にあり、広い窓から自然を眺めくつろげる</p>
<p>鳥津製作所創業記念資料館(旧:鳥津創業記念資料館)【京都府京都市】2011.04</p> <p>創業135周年記念事業の一環として改修工事を行い、館名を「鳥津製作所創業記念資料館」に改称してリニューアルオープン。創業期や事業の伸張などのテーマごとに史料や歴史的製菓を展示。「ものづくりスタート」コーナーでは、1882年に発刊した理化学器械カタログや器械を集めている。医療用エックス線装置のコーナーには、写真撮影に必要な高電圧を発生させる装置を設置</p>
<p>大阪・海遊館【大阪府大阪市】2012.02</p> <p>4階の「日本海溝」水槽内とその周辺通路をリニューアル。新たにミズゴケやイガグリガニ、オオグツクムシなどの深海生物の展示を行い、解説パネルや映像モニターなどを用いて深海の環境についても詳しく解説。「日本海溝」の水槽内を岩で仕切り、深海生物を追加展示。周辺通路にも4基の小型水槽を新設して深海生物を展示した</p>
<p>大阪科学技術館【大阪府大阪市】2011.07</p> <p>情報通信やエネルギーに関するブースを新たに追加してリニューアルオープン。「科学技術でひらこう、地球のあした」をテーマに、30ブースの7割を改装。光ファイバーの仕組みを解説するコーナーが新設されたほか、専用メガネを使わず裸眼で見える3D画像の体験コーナーや、節電で注目される発光ダイオード(LED)に関する展示が加わった。太陽光発電パネル、小惑星探査機「はやぶさ」に使われた機械部品に照らす展示も設置</p>
<p>大阪市立科学館(夢宙とときめき館)【大阪府大阪市】2011.12</p> <p>プラネタリウムがリニューアルオープン。ドーム状の大型スクリーン(直径26.5m)でより鮮やかな映像を楽しむことができる。老朽化していた6台のプロジェクターを取り換えたほか、映像を処理するコンピューター部品なども交換。映像の明るさと鮮明さはリニューアル前に比べて1.7倍に向上</p>
<p>きしわた自然資料館【大阪府岸和田市】2011.12</p> <p>2階常設展示室の地学コーナー・体験コーナーをリニューアル。大阪府南部で見つかったモサウルス化石をはじめとした数多々の標本とともに、最新の研究成果を取り入れた復元によるモサウルス全身骨格レプリカなどを新たに展示。岸和田周辺の大地の生い立ちや世界の古生物学研究について、楽しく、詳しく学べるように展示を改装。チリメンモンスターさがしの疑似体験コーナーも新設</p>
<p>キッズプラザ大阪【大阪府大阪市】2011.12・2012.01</p> <p>2011年12月、3階コンピューター工房をリニューアル。横幅5mと教育施設では国内最大級のタッチスクリーンを導入して、子どもたちが全身を使いながら、パソコン周辺の機器と遊んで学べる空間にリニューアル。2012年1月、5階文化コーナーの「せいかいの家」がリニューアル。ペルールの暮らす家やイタリアのとなりが帽子の家など、様々な素材でできた不思議な形の「家」と、そこに暮らす人々を表したジオラマや、日干しレングの家を作るコーナー、南アメリカのインデバ族の家の彩り豊かな壁絵を塗る体験などによって様々な「家」を探求することができる</p>
<p>国立民族学博物館【大阪府吹田市】2012.03</p> <p>ヨーロッパ展示場、インフォメーション・ゾーンを新構築・公開。本館2階の中央バリエオを囲む回廊がインフォメーション・ゾーンに生まれ変わった。同ゾーンは、展示資料の情報を検索して調べることのできる「リサーチデスク」、研究者が取り組んでいる調査を紹介する「研究の現場から」、展示資料を見てさざわたり理解する「世界をさわる」の3つのコーナーで構成。展示場で見た資料についてもっと知りたい、同館の研究者は何を調査しているの?、モノと身近に接してみたいという探究心を満たし、知識をさらに深める場として整備された。ヨーロッパ展示場もパンのコーナーなどを新たに設け、リニューアル。時間の流れに注目しながら、伝統的な生活様式と宗教、近代の産業化、現代の新しい動きが層をなしてヨーロッパをつくりあげていることを紹介</p>
<p>みさき公園 自然動物園【大阪府岬町】2012.03</p> <p>開園55周年を迎えるのを機に、南米に生息する動物をまとめて観察できる動物舎「南米の森」を新設。同園は、同じ地域に生息する動物を一体展示する「動物地理学的展示」方式を日本で初めて導入。近年は展示する動物が増え、動物舎が点在するようになっているため、節目の日を迎えて、動物舎の再編成に着手。ナマケモノ舎、リスザル舎、カピバラ舎を「南米の森」に集約し、アルマジロはナマケモノと同層するように再編成した</p>
<p>ミズノスポーツロジャーギャラリー【大阪府大阪市】2011.10</p> <p>大阪本社内に設置している「ミズノスポーツロジャーギャラリー」がリニューアルオープン。1992年の開館以来、過去、現在、未来にわたるスポーツ品の展示を中心に公開。今回のリニューアルでは、従来の展示品に加え、最新の技術やトップアスリートが使用する用具に触れることができる新コーナーを設置</p>
<p>カワサキワールド【兵庫県神戸市】2011.07</p> <p>開館5周年を迎え、展示を一部リニューアル。「地球環境コーナー」に超低床電池駆動路面電車「SWIMM@」の実物大模型(1.5両分)を追加。同コーナーには環境保護の取り組みを学ぶ壁面タッチパネルも設置。人間がエネルギーを使うことで二酸化炭素が発生し地球温暖化が進む中、「どうしたら地球を元気にできるか」を川崎重工株式会社の取り組みを交えて紹介。また、「船のシアター」を「ものづくりシアター」と改称して、新しく「新幹線が出るまで」の映像を追加</p>
<p>城崎ワールド【兵庫県豊岡市】2012.03</p> <p>新施設「Tube(チューブ)」がオープン。コンセプトは「海獣たちのアスレチックフィールド」。アクリル板で仕切られた水槽の中で、ドク、アザラシ、ペンギンなどが泳ぎ回る。コンクリート造りだった旧施設を全面改装。海獣たちの運動能力に合わせて設計した4つのプールを新たに設置。直径1.5m、長さ12mの円柱形水槽(スラムプール)では最速時速40kmで泳ぐと言われたアシカの横切り姿を見ることができ、ドムプールでは、せり出した高さ5mの岩場からトドが豪快にジャンプ(トドのダイビング)。アザラシプールでは最大傾斜45度の斜面を器用に登るアザラシのロッククライミングを見ることができ、ペンギンプールでは、泳ぐペンギンの姿を水中と陸上の両方から観察することができる</p>

<p>神戸市立須磨海浜水族園【兵庫県神戸市】2011.04・2012.03</p> <p>2011年4月、来園者がイルカとふれあうことのできる「イルカふれ愛」プール「ドルフィンピース」がオープン。直接触れる機会を設けることで、来園者にイルカをより身近に感じてもらうために、屋外に広さ約170㎡、深さ2.7mの新しいプールを造成。プールサイドに人が集まること、トレーナーの指示でバンドワイルカが寄ってきて、手を伸ばすと体に触れることができる。2012年3月、新施設「アザラシふれ愛」プール「シールピース」が完成。メーンプールのほか、トンネルや滑り台を備え、アザラシが悠々と泳いだり、活発に遊ぶ姿を観察することができる。最深部1.8mのメーンプールと小型のふれあいプールを備えている</p>
<p>神戸市立青少年科学館(「バンドー神戸青少年科学館」)【兵庫県神戸市】2012.03</p> <p>本館3階第2展示室に「SECURITY LABO～生体認証のいろいろ～」を開設。生体認証について理解を深め、情報化社会におけるセキュリティの重要性を意識するために新展示物を作成。展示コーナー全体を「研究所(ラボ)」に見立て、様々な認証方式を利用した展示を実現。展示は「年齢・性別推定」「音声認証」「指紋認証」「静脈認証」「虹彩認証」「顔認識・合成」で構成</p>
<p>多可町立和紙博物館【兵庫県多可町】2011.11</p> <p>和紙研究家である故・寿岳文章の蔵書を収蔵する「寿岳文庫」と、隣接する紙匠庵「でんでん」がリニューアルオープン。これからはボランティアが一体的に運営を行い、杉原紙研究所とともにPRを行う。寿岳文庫は2000年に和紙の博物館として旧加美町が開設。その2年後に住民グループが隣に杉原紙を使った商品などを販売する「でんでん」を設置した。今回、多可町が「でんでん」の建物寄贈を受け、寿岳文庫と通路をつぐことを計画。北播磨県民局より「地域の夢推進事業」の補助を受け、町負担分とあわせて財源で取り組んだ。2つの施設の間に通路を取り付けたほか「でんでん」の売り場を広げ、寿岳文庫の和室を展示場に改装した</p>
<p>姫路市立水族館【兵庫県姫路市】2011.07</p> <p>改修工事を終えてリニューアルオープン。本館は「播磨の里海」をテーマに、磯や干潟に生息する生き物など約12,000点を展示。カクツク屋上スペースの群泳や播磨の漁場で取れる魚のほか、初めてウーリアも展示した。以前プールだった屋上スペースには「ピトニア」やピトニアも遊べる「じゃぶじゃぶ小川」を設置。新館では、「半世紀前の播磨の里地」をモチーフにした田んぼやため池、河川の上流、中流、下流などをジオラマで再現し、オオサンショウウオや希少な淡水魚など100種・3,000点を展示。新館は、本館南にある手柄山交流ステーションの1・2階の一部に設けられ、本館と連絡橋で接続している</p>
<p>市立五條文化博物館(ごじょうばうむ)【奈良県五條市】2011.05</p> <p>2009年4月に休館した同館が2年ぶりに再オープン。子どもたちに郷土の自然や歴史、文化に親しんでもらうため、展示を一新。市内の登録文化財「藤岡家住宅」の管理・公開を手がけるNPO法人「うちの館」が五條市と交渉し、指定管理者になることで再開にこぎつけた。館内に「幻の五新鉄道」のジオラマを設置するとともに、新たに水槽を設置し、ウナギやカワムツなど吉野川に生息する約20種の淡水魚を飼育展示</p>
<p>奈良国立博物館【奈良県奈良市】2011.07</p> <p>明治時代の近代和風建築で、重要文化財に指定されている仏教美術資料研究センターが耐震工事を完了(同工事は2009年10月から2011年2月まで実施)。耐震補強とともに建物内部の歴史的・文化的価値を高めるために部分的な復原を実施。明治の開館当初の、中央楼から西翼部にかけての広々とした空間と、木製アーチや採光窓が甦った。また、センターとしての現代的な活用を期した改修を行い、閲覧室・研修室の整備、書庫の床組補強、集音書架の設置を図った。天井や壁の一部を外して、明るく開放的な空間に整備。同センターは、建築史学者で平城宮跡を調査した関野貞が設計</p>
<p>和歌山市立こども科学館【和歌山県和歌山市】2011.12・2012.02</p> <p>2011年12月、子どもたちが遊びの中で科学を学べる体験型展示コーナー「わくわくたいけんひろば」を開設。それまでは小学生以上を想定した展示を行っていたが、近年、小学生以下の幼児の館者が増える傾向が見られたため、同館2階に設置した。壁に設けられた鐘や金管をばちでたたいて音の違いを楽しんだり、発泡スチロールのボールを風圧で吹き飛ばす装置で物を感じる取ったりする遊びができる。2012年2月、遊びながら宇宙について学ぶことができる体験型展示コーナー「たんけん!宇宙ひろば」がオープン。以前はリニアモーターカーの模型が展示されていた1階入口正面に設置。宇宙空間を連想させる遊具やオブジェなど10の展示物で構成。2つの塔や滑り台を備えたメーンの「宇宙ステーション」では、子どもたちが中のトンネルにもぐったり、滑り台で遊んだり、望遠鏡のぞき込んで土星や火星の画像に見入ったりすることができ、「空ロケット」のコーナーでは、透明の筒の中にある発泡スチロール製のロケットを打ち上げることができる</p>
<p>上淀白鳳の丘展示館(旧:米子市淀江歴史民俗資料館)【鳥取県米子市】2011.04</p> <p>上淀廃寺跡(国史跡)のガイダンス施設「上淀白鳳の丘展示館」が完成。釈迦如来座像を安置した金堂内部を原寸大で復元。上淀寺は白鳳期(飛鳥時代後期)から平安時代中期にかけて実在した寺院。金堂は、同寺の最盛期だった奈良時代以降の券窓型を疑似体験できる空間になっている。天井には法隆寺の天井画を再現し、複製した釈迦説法図4面などを壁面にしている。釈迦如来座像はエポキシ樹脂で製作。台座を含む高さは3.8m。菩薩立像2体も製作した。いずれも上淀廃寺跡の発掘調査で判明した寺院の規模、出土した仏像の破片、国内最古級の彩色仏教壁画片などを参考に推定復元している</p>
<p>県立童謡館・鳥取世界おもちゃ館(わらべ館)【鳥取県鳥取市】2011.04</p> <p>館内リニューアルを実施。3階には「ゆうやけ広場」を新設。昭和レトロの街並みの中で昔遊びを体験でき、子供からお年寄りまでが楽しめる空間に整備。昭和30～40年代のレトロな街並みを再現した広場は、鳥取市街地の昔の写真などを参考にしている。広場入口には駄菓子屋を配置した。数十種類の駄菓子とともに、めんこ、こま、ビー玉、けん玉といった10種類ほどのおもちゃも置いている。昔遊びを知らない子どもたちのために説明書も用意。1階には、おもちゃの楽器を演奏できる「音遊び体験コーナー」がオープン。それまで十数曲しかなかった童謡、子ども約300曲に大幅に増やした。童謡・唱歌を通じた遊びの充実を図っている。2階は、子どもたちが自由に遊べるスペースをそれまでの2倍に広げ、木のおもちゃなどを増やした。展示の表記は、外国人観光客のために中国語とロシア語を加えている</p>
<p>鳥取県立むさびんだ史跡公園【鳥取県大山町】2011.04</p> <p>妻木晩田遺跡がある県立むさびんだ史跡公園に、約1800年前の集落を復元した施設が完成。同公園の妻木山地区約18,000㎡に竪穴住居8棟と高床倉庫4棟を復元。復元した遺構があった同じ場所に建てられた。当時の植物を育てて、住居内土器を置くことで集落の雰囲気や再現。また、弥生時代の竪穴住居跡の遺構を展示する遺構展示館も完成。遺構を丸ごと覆った施設で常時見学することができる。遺構の損傷を防ぐために、湿気を調整することができる換気設備を配備</p>
<p>水木しげる記念館【鳥取県境港市】2012.03</p> <p>館内の改装を実施。水木しげる氏の生活ぶりを伝える資料を増やしたほか、昭和レトロな「ゲゲゲの食卓」コーナーを新設するなど各所で改装を行った。ゲゲゲの食卓は、自宅で昭和40年代に使っていた白い食器棚と水木氏のカーディガンを持ち込み、当時の携帯電話やテーブルセットを置いて約40年前のダイニングを再現。向かい側には妻の布枝氏直筆の絵や子ども用の食卓いすなどを新たに展示。1階中央に新設した「妖怪ひろば」には、家に居る妖怪20体の人形を配置した古民家のジオラマを配置。47都道府県を代表する妖怪を紹介する日本地図も作った。2階は「水木しげる漫画ワールド」をテーマに展示替えを行い、ゲゲゲの鬼太郎の元になった「墓場鬼太郎」などの新旧30作品を壁に取り付けることで、一部は漫画本のように開いて楽しむことができる</p>
<p>奥出雲多根自然博物館【鳥取県奥出雲町】2011.04</p> <p>全館改装して、リニューアルオープン。今回のリニューアルは、理学博士で国立科学博物館名誉館長の小島節生氏が監修。太古の動植物の暮らしや進化の歴史を3D動画で学べる62インチの大型モニターのほか、松江発のプログラミング言語「Ruby(ルビー)」を使った情報検索端末を設置するなど、最先端の情報技術と太古の自然の両方を体験できる設備が整えられている</p>

鳥根県立しまね海洋館（アクアス）【鳥根県浜田市】2011.04
新しいシロイルカプールがオープン。新プールはペンギン館の西側に整備。メーンプールと二つの子備プールを備える。1階はガラス越しに水中のイルカを観察。2階のテラスではイルカが水面に顔を出して餌をもらう様子を楽しめる。屋上の展望デッキからは日本海を一望できる。プールは保護・繁殖施設として2009年に着工した
森鷗外記念館【鳥根県津和野町】2012.03
より幅広い層に鷗外に触れてもらうため、展示パネルなどを一新。第1展示室には、文学、医学、美学など鷗外の多岐にわたる著作物の表紙を印刷した大パネルを掲示。当時の出版物の多様なデザインや字体を楽しむことができる。鷗外を中心とした家系図も掲載範囲を拡大。津和野出身で森家とは親戚の啓蒙家・西周や、幕臣で明治の政治家・榎本武揚、作家の星新一の名も登場する。第2展示室では、没落した森家の再興への期待を一身に背負い、軍医として立身を目指したことなど、鷗外の人生をイラスト入りパネルで分かりやすく紹介。森家の場所などを示した江戸末期の津和野を描いた絵図のパネルも新たに設置
岡山市立オリエント美術館【岡山県岡山市】2011.04
館内改修工事を完了してリニューアルオープン。館内すべての空調設備と一部の展示ケースを改修。一部展示ケースは細部にまでこだわった最新のLED照明を導入。それまでの照明では困難だった作品の色彩や風合いを鑑賞することが可能となった
岡山天文博物館【岡山県津口市】2011.12
プラネタリウムをリニューアルオープン。従来の設備に加え、最新鋭のデジタル式投影機を増設。コンピューターグラフィックス（CG）を駆使した鮮明で迫力ある動画が楽しめるようになった。新たな設備はCGを使った動画展開が特徴で、地球からの視点だけでなく、宇宙空間を自由に動きながら星空を楽しむことができる。日食や月食、流星群などの自然現象も鮮明に再現。既存の機器と併用することで多彩な演出も可能となった
ワコミュージアム【岡山県笠岡市】2011.10
改修工事を行い、リニューアルオープン。笠岡市在住の洋画家で岡山大学名誉教授の川上洋一の展示コーナーを新設するなど内容を一新。南館3階に展示室を増設し、川上氏と郷土の洋画家の作品を展示。北館3階では、陶芸家で倉敷芸術科学大学教授の児島塊太郎氏のスペースをそれまでの2倍に拡張した。北館1階（市民顕彰ミュージアム）にはワコ文化賞を受賞した甲田琴（このう）村史跡顕彰会が調べた庄屋・吉岡家の古文書などを展示。今回のリニューアルによって展示面積は1,660㎡に拡大した
安芸高田市歴史民俗博物館（旧：安芸高田市吉田歴史民俗資料館）【広島県安芸高田市】2011.04
改築工事を終えてリニューアルオープン。本館に隣接した旧中国電力吉田営業所の建物（2階建て）の1階部分を改築（2階は、従来通り同市地域振興事業団などが利用）して第2・第3展示室を新設（別館として位置づけられた）。第2展示室は、テーマを「安芸高田の近現代」に設定。甲田郷土館から移設した昭和10年代の佃戸裏で昔の農家の生活ぶりを再現したり、同市内の無形民俗文化財を映像で紹介。第3展示室は、子供歌舞伎で使用する同市指定無形民俗文化財の「だんじり屋台」2台のうち、江戸時代からのものである「千歳山」を展示。マネキンを設置して子供歌舞伎の雰囲気伝える展示を展開
芸北民俗芸能保存伝承館【広島県北広島町】2011.04
全面的に展示を更新。稲作文化が息づく「農村の四季」をコンセプトに、花田植え、神楽といった伝統芸能や農閑期の手仕事などを紹介。映像や音声を駆使し、展示物や解説用パネルも充実させた。新たな展示では農村の営みを季節ごとに構成。春は世界無形文化遺産に登録された壬生の花田植えなどを紹介（登録はリニューアルオープン後の出来事）。金の花轎を背負った飾り牛の模型や早乙女の人形を据えて、花田植えの様子が放映する。夏は豊年を祈願した「花笠踊り」や害虫よけの行事「虫送り」などを取り上げている。実りの秋は神楽に焦点を当てた展示を展開。迫力ある大蛇を配し、昭和期以前に使われていた木彫り面や草木染の衣装も展示。農閑期の冬はわら細工や白ひきなどの手仕事を紹介。作業歌もパネルで解説している
広島市安佐動物公園【広島県広島市】2011.07
キリンの目と同じ高さで飼育スペースを見渡せる展望デッキ「キリンテラス」が開設。同テラスは高さ3m、幅16m、奥行き8m。アフリカの草原地帯を再現した「サバナ・アフリカゾーン」で、東端にあるキリン飼育舎近くに設置。幼い子どもにも配慮して前面の柵をガラス張りしている。外観は黒や茶を基調にして周囲の樹木と調和させた
福山市立動物園【広島県福山市】2011.04
新築した猛獣舎と小動物舎がオープン。アムールヒョウやビューマ、ライオンなど13種・59匹の猛獣や鳥類などを展示。おりの中に人工の岩山や樹木を配置して、猛獣がすみ密林やサバナに近い環境を再現。岩山に登ったり、餌の肉にかみつきたりする迫力ある猛獣の近現代のぞき窓や金網越しに観察することができる
下関市立豊北歴史民俗資料館（太初館）【山口県下関市】2011.11
山口県指定有形文化財・旧滝部小学校が全館補修改築を終えて「下関市立豊北歴史民俗資料館」としてリニューアルオープン。旧校舎は同市出身の実業家・中山太一が私財を投じて建てたもので、大正13年に完成。2007年度から2011年度の保存修理工事を経て、大正時代の創建当時の建物に復原された
山口県立山口博物館【山口県山口市】2012.03
開館100周年を迎え、全面改修を終えてリニューアルオープン。大規模な改修は、現在の建物を建てた1967年以来初めての取り組みで、天文や地学など7分野のうち6分野について改築を実施。それまではケースに入った展示品と解説パネルがメインだったが、恐竜の標本や古代を再現したジオラマのほか、力学や摩擦を体験することができる施設を新設するなど展示内容を大幅に刷新。今回の改修によって空間が明るくなり、古代の姿などがリアルに再現されている
阿波おどりミュージアム【徳島県徳島市】2012.03
最新機器を導入して阿波踊りの立体映像が楽しめる3Dシアターが開設。103インチのプラズマハイビジョン画面を、3.8m離れた視聴席から専用眼鏡で観覧。上映するのは、徳島市内の演舞場でシアター向けに撮影した約4分の映像。徳島藩の御用絵師・鈴木芙蓉翁の絵巻図「阿波踊絵巻」に描かれた人々が踊り出す場面から始まり、藍場浜や南内町演舞場で乱舞する有名な芝居踊りの様子を映し出す
とくしま動物園【徳島県徳島市】2011.04
魅力向上を図るために行われていた改修工事が完了。主な改修点は、カワウソウ舎へのアクリルプールの新設、レスラーパングの室内展示室の増設、老朽化したフライングケース内の展望塔や木製の橋の改修、保護動物取容施設の増築など。新しく完成したカワウソウの新プールの愛称は「すいすいプール」に決定
日和佐うみがめ博物館カレッタ【徳島県美波町】2011.04
大型水槽を備えた新施設「ただようみがめ館」がオープン。本館北側の飼育研究棟を改修して同館を設置。新たな水槽として、洞窟の中をイメージした水槽と繁殖研究に使用できる水槽を整備。前者は、通路の天井がガラス張りになっており、海の中に入ったような感覚を味わうことができる。水槽の内部に岩場を設けて、カメが潜む姿を観察できるほか、頭上を泳ぐウミガメを眺めることもできる。もう1基は幅5m、高さ1.8m、奥行き3.4mの水槽を整備。それまで屋外プールで見られなかった甲長が1m近い大型のウミガメ数匹を飼育展示
今治市大西藤山歴史資料館（妙見山古墳ミュージアム）【愛媛県今治市】2011.07
展示室を一新してリニューアルオープン。妙見山古墳が国史跡に指定されたことを受け、「妙見山古墳ミュージアム」という新たな通称を入口に掲げ、新規来館者の獲得をねらって改築を実施した。展示は1室から2室に増やし、従来の約1.4倍の約210㎡に拡張。解説パネルを60枚ほど新しく作り、ふりがな付きの大きな文字で分かりやすくした。被葬者を取める堅穴式石塚（せくく）は従来通り実物大で複製展示されている

愛媛県総合科学博物館【愛媛県新居浜市】2012.03
設備の更新工事のために休館していた自然館がリニューアルオープン。常設展示の目玉だった実物大の恐竜ロボットを一新して、滑らかに動く最新鋭の2体が設置された。キッズコーナーも新設。恐竜の化石に触ったり、音楽に合わせて恐竜と一緒に体操するプログラムも加わった。1994年の開館以来となる大規模改修は、恐竜ロボットの老朽化に伴い実施された。ニホンカワウソウやニホンオオカミなどの大規模な標本を集めた「愛媛のゾーン」の展示も充実を図った
愛媛県立とべ動物園【愛媛県砥部町】2011.04
カワウソウを観察できる専用施設が完成。カワウソウ舎は、360度どこからでも観察できる展示用プールや水深1.2mのプールなど、3種類のプールで構成。コウメカワウソウが泳ぐ姿や餌のドジョウを捕る様子を楽しめるほか、寝姿を観察できる「のぞき窓」なども設けている
松山市考古館【愛媛県松山市】2011.04
国史跡に指定された葉佐池古墳の2号石室の実物大模型が常設展示室に完成。測量図面を基に、石積み一つ一つまで忠実に再現しているため、石室内に入ってスケール感や雰囲気を感じることができる。2号石室は横穴式で幅約2.5m、奥行き約4.4m、高さ約2.7m。葉佐池古墳の中心的石室とされる。幼児を含む3人を埋葬しており、木棺とみられる大量の木片や副葬品の須恵器、馬具などが見つかった。模型では壁面や天井の石積みを再現したほか、床面に木片を印刷したカーペットを敷くなど、発見時の姿に近づけている。展示解説用に映像端末も設置
香美市立やなせたかし記念館 アンパンマンミュージアム【高知県香美市】2011.07・2011.10
2011年7月、開館15周年を迎え、リニューアルオープン。館内の地下1階「アンパンマンワールド」には、キャラクター人形が高速で回転し、動画のように見える装置を設置。1階テラスには、やなせさんのアクリル原画を再現したジオラマを製作。広場のプラコンや滑り台など、遊具も一新した。2011年10月、新たな収蔵庫が完成。開館から15年で収蔵スペースが限界に達し、増え続ける資料に対応できなくなったため建設。新収蔵庫は2階建て延床面積712㎡。4室ある倉庫には、室温20度・湿度50%台と文化財保護にも適した環境を保つ装置を取り付けている。屋上には太陽光発電パネルを取り付け、発光ダイオード（LED）照明を導入するなど、環境にも配慮している。西側正面玄関の壁一面には、タイトルで大きなアンパンマンの顔が描かれ、記念撮影スポットになっている
高知県立のいち動物公園【高知県高知市】2012.03
展示学習施設「どうぶつ科学館」がリニューアルオープン。図書コーナーや動物シアターなどは残し、身体を動かしながらゲーム感覚で動物を学ぶ体験型展示コーナーなどを新設。同館は、1991年の開園時から施設。展示物が古くなるなどしたため、開園20周年記念事業の一環で改修した。1階は「情報ゾーン」として、同園と地元の野市小学校が調査しているチョウ「アサギマダラ」の活動報告コーナーや、ペンギン、モルモットの繁殖から子育てまでを紹介する動画コーナーを新設。2階には「体験ゾーン」「観察ゾーン」などを設置。数メートルをダッシュして自分の速度を測り、時速60kmのシマウマと比べたり、キリンとリスの鼓動を手のひらで感じる装置や、小学2年生の教科書に登場するビーバーの暮らしを紹介するコーナーも設けられている
高知市立自由民権記念館【高知県高知市】2011.08
自由民権運動の指導者・植木枝盛が憲法草案「東洋大日本国憲案」を起草した旧邸の書斎を移築・復元して公開。旧邸は1877年頃、同市桜馬場建てられ、植木枝盛は15年ほど住んだという。その後は借家として使われてが、老朽化で倒壊の危険があったため解体し、市民団体の要望を受けた民が書斎部分を譲り受け、館内の展示物として修復。書斎（9畳）のふすまや障子は現物を使い、傷みのひどかった柱の一部は旧邸の別の材木を用いて再現した
ジョン万次郎資料館（旧：ジョン万ハウス）【高知県土佐清水市】2011.04
観光イベント「土佐・龍馬であい博」のサテライト会場を活用してリニューアルオープン。資料館は、1階が主にアメリカ時代の万次郎がテーマで、14歳の時に漁船で難破してから無人島で暮らした後、アメリカの捕鯨船に救われ、航海術などを学び、24歳で帰国するまでを模型で紹介。2階は帰国後がテーマとなっており、万次郎が書き残した英語の詩やアルファベット表のアメリカなどが展示されているほか、万次郎と長崎に同行した同郷の池道之助が描いたアメリカ人男性の服やクラレ漁の道具の絵なども展示されている
飯塚市歴史資料館【福岡県飯塚市】2011.06
山本作兵衛関連の展示コーナーを拡充。同資料館は、山本作兵衛の水彩画を26点所蔵。そのうち21点を常設展示室で入れ替わり展示していたが、今回のリニューアルを機に、21点をまとめて展示することにした。併せて、現在は取り壊されている田村市弓削町の自宅にあった弁当箱や花札、竹尺などの資料40点を初めて展示。市民から寄贈された飯塚市内の炭鉱の写真約70枚の展示スペースも新設した
ト津の森公園【福岡県北九州市】2011.04
「マダガスカルの世界」がオープン。新獣舎では、アフリカのマダガスカルに生息する絶滅危惧種の希少動物・エリマキキツネザルとワオキツネザルを展示。隣接するふれあい動物園（ふれま）休憩所の屋上から続くデッキを連結させることで、園路として新獣舎の2階部分に直接入れるようになり、エレベーターを備えた結果、バリアフリー化が更に促進された
福岡県青少年科学館【福岡県久留米市】2012.03
3階展示室に「先端科学技術」をテーマにした新コーナーがオープン。身近にある先端科学技術に触れてもらうため、ナノテクノロジーやバイオテクノロジー、映像技術を紹介する10の展示装置を導入。「フリアビジョン」（縦約4m、横約3m）は、床に映し出された映像の中でサッカーや虫探し、ビリヤードを楽しめる。天井の赤外線センサーが人影を感知して映像を動かす仕組みで、サッカーでは映像のボールが当たって弾み、虫探しでは踏んだ葉っぱの下から虫が出てくる。そのほか、自分で作ったクロワンの魚や人を群れの中から見つけ出す「クロウんタッチ」、葉に見立てたボールをウイルスに投げて退治する「ウイルスバスター」、カメラに映った顔の特徴から「笑顔度」を測定し、競い合う「スマイルウイン」などを設置した
福岡市動物園【福岡県福岡市】2011.09
チンパンジー舎を見学しやすいように改築。3匹のチンパンジーがテラスで休息したり、餌を食べたりする様子を、ガラス窓越しの間近から観察することができる。今回の改築は、2006年から始まった同園の全面リニューアル計画の一環。それまで来園者の見学場所はチンパンジー舎から4、5m離れたいたが、舎の内側と外側、高さ4mのテラスとガラス窓を新設。舎内のテラスには人工のアリ塚を置いて、チンパンジーが道具を使って穴から餌を取り出す様子を確認することができる
ロボットプラザ【福岡県北九州市】2011.08
株式会社安川電機の本社工場の見学施設「ロボットプラザ」が改装。同社の技術や製品を応用した展示装置を新たに設置した。施設は順次更新してきたが、ロボット技術の進展や産業観光ブームに合わせて、楽しみながらロボットに親しめるよう、改装を実施。ボールを使って運勢占いや「3D迷路占い」、ロボットと見学者が競う「モグラたたき」、写真を撮影してくれる「ロボット写真館」など、計5機が展示されている
佐賀県立宇宙科学館（ゆめぎんが）【佐賀県武雄市】2012.03
プラネタリウムをリニューアル。2台の高性能投影機を組み合わせたシステムを新たに導入。投影できる星の数が12,000個から26万個へ大幅に増大。「天の川」の星の一つひとつを再現し、直径18mのドームのスクリンに映し出すほか、対角魚眼レンズを使うことで、星の映像がドームのほぼ全体に広がるようにした。音響面では、スピーカーを6台設置して、それまでより臨場感のある音響を提供。また、スクリーンに星空に手書きの文字を加えるといった電子黒板の機能も取り入れた

雲仙岳災害記念館【がまだすドーム】[長崎県島原市] 2012.03
ジオパークの楽しみ方や見どころを紹介する「島原半島世界ジオパーク情報スペース」をリニューアルオープン。「ジオパーク国際ユネスコ会議」を前に内容の充実を図った。展示は「世界ジオパーク」「日本ジオパーク」「島原半島ジオパーク」「コース別ガイド」「観光・グルメ情報ゾーン」の5つで構成。目玉は、島原半島の地形が立体的に見える縦8m・横6mの「赤色立体地図」。航空機からのレーザー計測のデータを基に作成した画像を床に映し、普賢岳の周囲の溶岩ドームや同半島の断層がわかる仕組みになっている
西海国立公園九十九島動物園 森きらら(旧:佐世保市亜熱帯動物園) [長崎県佐世保市] 2011.04
開園50周年を迎え「西海国立公園九十九島動物園」に名称を変更してリニューアルオープン。国の天然記念物・ツシヤママネコの展示舎と、4種類のサルの行動展示を行う「モンキーゾーン」を新設した。ツシヤママネコ展示舎では、飼育している5匹のうち雄1匹を展示。約3,000㎡の芝生広場に造られたモンキーゾーンは4つのエリアで構成しているが、今回の改修では、ガラス越しにニホンザルの行動を見られる「ビューイングシェルター」と、ワオキツネザルの室内展示施設の2カ所をオープン
西望記念館「西望生誕之家」[長崎県南島原市] 2012.03
老朽化に伴い改修工事を実施。老朽箇所の改修や館内の展示スペースを一新したほか、2階に新たな展示スペースを設けて、魅力的で利用しやすい施設として整備
長崎ペンギン水族館【長崎県長崎市】2012.03
バーチャルシアターがリニューアルオープン。最新の3D映像技術を導入して鮮明で迫力ある映像が楽しめるようになった。同シアターは2001年の開館時に設置されたが、老朽化していたことから更新を行った。それまでは1面だったスクリーンが3面に増え、天井にも小さなスクリーンを設置。観覧スペースは従来の2.2倍の広さを確保し、40人が収容可能となった。最新技術によって、魚の自然動きが表現できるようになったほか、珊瑚などの背景もより立体的になった。人の動きに合わせて魚が寄ってくる演出も取り入れた。観覧者が塗り絵をした魚やペンギンがスクリーンに登場する「参加型モード」とペンギンが海の中を冒険する「ストーリー型モード」の2種類を楽しむことができる
熊本市水の科学館【熊本県熊本市】2012.03
新たに下水道の情報を加えるとともに、合併による対象エリアの拡大へ対応するため、展示フロアを中心にリニューアル。体験型の展示コーナーを増やしてオープン。下水道に関する展示を新設した。展示の更新と空調設備などの老朽化対策のために休館して改修工事を進めた。新しくなった館内には「空の国」や「地下の国」など、6つのゾーンで水の循環を解説。阿蘇山の模型から雨水を見立てたボールを転がして地下水涵養の必要性を学ぶコーナーや、浄化センターの施設を再現したトンネルをくぐりながら、汚水が微生物に分解されてきれいになるまでを理解する展示などを設置
玉名市立歴史博物館ころろピア【熊本県玉名市】2012.03
1994年の開館以来初となる大規模修復工事が完了し、リニューアルオープン。老朽化と展示室の狭さを理由に修復・改装。従来の展示室は吹き抜けの空間だったが、板張りのフロアで上下に区切ったことで、展示空間は180㎡拡張した。今回の事業で新たにできた地階は書庫として活用
福澤諭吉旧居・福澤記念館【大分県中津市】2011.04
増築・改修工事が完成し、リニューアルオープン。改修を機に展示構成を大幅に変更。1階の展示では、福澤の一生を時系列で振り返る。2階の展示では、福澤の様々な側面にスポットを当てて資料を紹介する。専ら義塾福澤研究所(東京)から借りた「学問のすゝめ」10編と「西洋事情」初編の版本など、貴重な資料10点を初めて展示。同記念館所蔵品の中からは、福澤が日常用いた質素な羽織も初めて展示する。増築部分には収蔵庫とエレベーターを新設したほか、事務室を移設。事務室だったスペースは視聴覚室に改装した。車椅子でも利用できる多目的トイレも設置
双葉の里(資料展示室・双葉山生家)【大分県宇佐市】2011.08
大横綱・双葉山の生誕100年を記念して、リニューアルオープン。双葉の里の資料展示室が、年表や名言集、手形・足形などに加え、わかりやすい空間に一新。体験コーナーなど、テーマごとに展示物を並べ替えることで回遊性を高めた
鹿児島市平川動物公園【鹿児島県鹿児島市】2011.11・2012.03
2011年11月、同年3月に一部オープンしていた「インドの森ゾーン」の整備工事を終え、リニューアルオープン。ゾウ舎に水浴び用プールを新設したほか、ガラス越しにゾウを観察できる「ガラスビュー」を設けた。2012年3月、「野生のイヌ・ネコゾーン」と「シカ展示場」のリニューアル工事が完了。猛獣をガラス越しに見学できる「ガラスビュー」や、猛獣を見上げることのできる施設も設けられ、来園者は動物たちの迫力ある姿を間近で楽しむことができるようになった。同園が2015年まで段階的に進めるリニューアル事業の一環として実施。「野生のイヌ・ネコゾーン」では、ライオンやジャガー、クロヒョウ、オオカミを展示。クロヒョウの運動場では、水遊び好きの習性を生かして、園内通路の真上に木を渡した展示スペースを設置。来園者の頭上をヒョウが歩くなど、人間との距離が近くのように工夫している。園路の勾配緩和や子どもも楽しめる色や大きさの違いなどを見比べることができるように整備した
鹿児島航空基地史料館【鹿児島県鹿屋市】2011.05
常設展エリアで「基地と大隅(まち)～その真実(こころ)」を公開。戦後すぐの鹿屋市街地の航空写真など約40点を追加。子どもにも見やすいように、展示する高さを下げたり、説明文に読み仮名を入れるなど工夫。常設展リニューアルは2010年4月に続いて2回目。市街地の航空写真は1947年に米軍が撮影したもので、街並みや基地滑走路がはっきり写っている。戦時の暮らしがわかるように、市民と特攻隊員が交流する様子や鹿屋高等女子学校のクラブ活動の写真を展示した
旧鹿児島紡績所技師館(鹿児島市異人館)【鹿児島県鹿児島市】2011.10
展示内容を一新。見学を有料化して展示を充実。世界遺産登録を見据え、異人館や周辺史跡の歴史的価値を前面に打ち出した。集成館事業をはじめ、日本が急速な近代化を遂げた経緯や同館の変遷ぶり、和洋折衷の構造などをパネルで解説。同時代の調度類で部屋を再現し、関わった7人の技師の暮らしを伝える内容
沈壽宮窯 沈壽宮家伝世品収蔵庫(旧:壽宮陶苑伝世品収蔵庫)【鹿児島県日置市】2011.04
伝世品収蔵庫がリニューアルオープン。初代から15代までの白薩摩など約60点と古文書類を展示。照明を工夫し、美しい見せ方にこだわった。美術館的役割も強化。「薩摩伝承館」(指宿市)の学芸員の協力で、新たに専門的な解説文を付けただけでなく、ハンブルグ、英語、日本語の音声ガイドも導入した。また、内装工事で耐震性を強化した
沖縄県平和祈念資料館【沖縄県糸満市】2011.10
ミュージアムショップがリニューアルオープン。利用者へのサービス向上と資料館の機能増進を目的としてリニューアルを実施。2010年度から開発を行ってきたオリジナル商品のテスト販売に合わせて、レイアウトを変更した
国営沖縄記念公園 海洋文化館【沖縄県本部町】2011.06
1億4千万個の恒星を投影できる世界最高峰の新プラネタリウムが完成。プラネタリウムは直径18mのドームスクリーンを有し、最頂部は14.3m。定員は、車椅子用の3席を含めた189人。星を映し出す光学プラネタリウムと、アニメーションなどを映すデジタルプラネタリウムを併用したもので、星空を細微にわたって再現することができる

●2012年度リニューアル博物館(2012年4月～2013年3月)

アイヌ民族博物館【北海道白老町】2013.02
常設展示「装う」コーナーをリニューアルオープン。アイヌの伝統的衣装「アトウシ」を中心に、多様な服飾文化を紹介するとともに、新たに女性の装身具や男性の「冠冠」といった精神文化を反映した展示構成とした。展示資料と現在の伝承活動をつなぐため、アツシ織りの映像コーナーを配置。公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構の助成を受けて実施
旭川市旭山動物園【北海道旭川市】2012.11
「北海道産動物舎」がオープン。道内に生息する動物を展示。北海道の森をイメージしてミズナラやカシワを植え、高さ10mの大型バードケージと小動物の展示ケージを一体化させた。ワシやタカが放たれた大型ケージの下を歩いて観察できるほか、小型ケージではフクロウ類やキツネツノ姿を楽しむことができる。以前の北海道産動物舎を取り壊した上で、同じ場所新たな施設を整備
井上靖記念館【北海道旭川市】2012.05
旭川生まれの作家・井上靖の書斎と応接間を東京都世田谷区の自宅から移築し、公開。移築された書斎と応接間は約75㎡。移築は遺族の希望によって実現した。遺族は蔵書9,052冊と美術品など92点を旭川市に寄贈。約2年をかけて、自宅の柱やはり解体して復元し、愛用の万年筆や調度品も展示している。「しろばんば」や「敦煌」「天平の甕」などの名作を執筆した当時の息遣いが感じられる空間を再現
エコミュージアムおさしまセンター Bikkyアトリエ3モア【北海道音威子府村】2012.04
開館10年目を機に内装を更新。作品の配置を一新し、老朽化した建物の壁や窓を補修。「風の回廊」では、作品を前後両方から一度に見るよう、展示ケースに鏡を設置。「アトリエ:午前3時の部屋」では、彫刻家・砂澤ビッキ愛用のノミやカンナなど、低い位置に展示していた資料を目線と同じ高さに移した。ギャラリーは、作品が効果的に見えるよう、企画展示コーナーとして照明配置を一新。カフェとショップを併設したバーカウンターのバックヤードを改装して、ビッキが愛読していた書籍やカメラを展示
北のアルプ美術館【北海道斜里町】2012.06
開館20周年を記念して、詩人・随筆家・哲学者の串田孫一の東京都小金井市にあった自宅書斎と居間の一部を復元して、「串田孫一の仕事部屋」として公開。管理棟部分を改装して設置。書斎は約8畳。実寸より50cmほど広いが、積み重ねた本や机の上の小物の並びまで忠実に再現した。居間は実際の3分の2ほどの約12畳で復元
札幌市円山動物園【北海道札幌市】2012.12
「わくわくアジアゾーン」がオープン。同ゾーンは「寒帯館」「高山館」「熱帯雨林館」の3つの建物で構成。地理や気候の違いなど、アジアの環境の多様性ととも、希少種の保存や生息環境保全の大切さを伝えることを目的としている。展示方法は、動物が生息している自然環境をできるだけ再現した「生息環境展示」を採用。屋内の観覧スペースを広く設け、屋内から外放飼場にいる動物を観覧することができる。「寒帯館」では、ユキヒョウが雪の降る岩場を動き回る姿などを見ることが出来る。「高山館」のレスラーバンドの展示場では、高さ約3mの渡り木を設置し、頭上でレスラーバンドが歩く姿を見ることが出来る。「熱帯雨林館」では、マレーグマやテナガザルなどが見られる。円山動物園では、展示エリアごとに伝えるべきメッセージを設けるゾーン化を進めている
札幌市民防災センター【北海道札幌市】2013.03
災害バーチャル体験コーナーと暴風体験コーナーを新設。地震体験コーナーの内容も更新した。災害バーチャル体験コーナーでは、津波災害、土砂災害、都市型水害の3つの映像コンテンツを体験。東日本大震災をモデルにした津波が迫ってくる3D(立体)映像や、客席の振動などを通して災害を体験。土石流や水害の映像も用意されている。暴風体験コーナーでは、看板やバットボールが飛んでくる3D映像に合わせて、風速30mの風が吹き付ける仕掛けを採用。地震体験コーナーでは、地震の発生とともに窓の外の風景が変化し、停電状態になるなど、緊張感のある演出により災害の恐怖を実感することができる
サンピアザ水族館【北海道札幌市】2013.03
開館30周年を記念して「回遊水槽」を改装。回遊水槽は幅15m、奥行最大6m、深さ2mと館内最大。約2カ月間をかけて擬岩やサンゴ礁を置いたり、LED照明に交換して青くライトアップするなど、装いをあらためた。「青い海」をテーマに設定して、沖繩から高知までの黒潮の海に生息する20種約1,500匹を展示。改装前の5種44匹から大幅に増やした
知里幸恵 銀のしずく記念館【北海道登別市】2013.03
知里幸恵の生誕110周年にあわせて、常設展示を大幅に更新。展示品をそれまでの2倍の約140点に増やした。2階の展示室2では、幸恵の弟で言語学者・知里真志保と、アイヌ文化伝承者・金成マツ、父・高吉にまつわる資料を新たに展示。知里家の資料を充実させた。1階の展示室1には、幸恵、真志保、マツの3人の年表(横3m、縦1.5m)などを追加。照明に発光ダイオード(LED)を使用し、省エネにも配慮した
月形樺戸博物館【北海道月形町】2012.04
展示内容を大幅にリニューアル。本庁舎内の2部屋と本館2階の展示物を大幅に入れ替えた(同館の建物は、樺戸集治監本庁舎、本館、農業研修館の3施設で構成)。リニューアルのテーマは「光と影」。新たに、道内初の刑務所として1881年(明治14年)に開設された樺戸集治監(刑務所の前身)の概要や歴史を解説するコンピューターグラフィックス(CG)映像を導入したほか、囚人が行った樺戸道路(現在の道道月形峰延線)開削の様子を模型で再現している
美幌博物館【北海道新美幌町】2012.04
第一展示室内に新しい展示を設置。江戸時代の松浦武四郎の記録をもとに、当時の移説の様子や、武四郎の探検の様子を、点滅式の調査ルート模型、ミニジオラマ、カラーコルトン画像、解説文などで紹介
青森県立郷土館【青森県青森市】2012.04
民俗展示室がリニューアルオープン。展示室は南部曲がり屋をイメージ。それまでの展示イメージを一新して、引き戸を開けて中に入ると、遊び心も取り入れた。曲がり屋の居間を再現したスペースも設置。開軒裏を囲みながら昔話を聞いたり、民具を間近で見ることが出来る。旧十和田湖町(現十和田市)の古民家にあった直径約1.2mのかまどの複製も展示。マルチタッチスクリーンを導入し、青森県の代表的な祭りや民俗芸能などの映像を楽しめるほか、デジタル画面で展示物の情報を確認できるようにするなど体験型の展示とした
青函連絡船メモリアルシップ八甲田丸【青森県青森市】2012.07
昭和30年代の青森駅周辺を再現した「青函ワールド」が新たにオープン。津軽海峡文化コーナーと右舷館展示スペースを改装して設置。「青函ワールド」は、2011年9月で「船の科学館」羊蹄丸(東京都)が展示。その後、愛媛県新居浜市の団体に移り、さらに青森市が譲り受けた。当時の青森駅前りんご市場や青函連絡船待合室などを、原寸大の人形や施設、物で忠実に再現
津軽三味線会館【青森県五所川原市】2013.03
「津軽三味線の神様」と呼ばれた初代白川軍八郎を紹介する展示コーナーを新設。生前愛用した三味線やばちのほか、軍八郎の楽器にまつわるエピソード、長年軍八郎の三味線を所有していた秋田県の秋元博氏など内弟子と軍八郎との思い出をつづったパネルを展示
石ノ森萬画館【宮城県石巻市】2012.11・2013.03
2012年11月、東日本大震災で被害を受け、休館していた同館が約1年8カ月ぶりに再開。1階エントランスホールは、「サイボーグ009」をモチーフにしたインフォメーションを中心に改装。「サイボーグ009」をイメージした赤色の受付カウンターやロボコンなどを新たに設置した。2013年3月、2階の「仮面ライダー」や「サイボーグ009」の常設展示を中心に行った改装が完了し、リニューアルオープン。「仮面ライダー」のコーナーには、変身を体験できる有料アトラクションや歴代のマスク12点を追加。研究所をイメージした「サイボーグ009」の展示室には、登場キャラクターを配置し、特殊能力を説明するモニターを設けた。ご当地ヒーロー「シージュッター海斗」の紹介を充実させ、2階に漫画のパネルや戦闘シーンの模型などを配したコーナーを新設。1階の映像ホールには実写化された映像が流された

<p>福島美術館 [宮城県仙台市] 2012.12</p> <p>東日本大震災で被害を受け、休館していた同館が約1年9カ月ぶりに再開。当初、修繕費を調達するめどが立たなかったが、全国から募金が寄せられ再開に至った(宮城県からの補助金とあわせて修復工事を実施)</p>
<p>秋田県男鹿水族館 (GAO) [秋田県男鹿市] 2012.04</p> <p>「ハタカ博物館」をリニューアルオープン。それまで別々の場所にあった水槽と資料コーナーを1カ所に集約。巡回コース中盤にあったハタハタの水槽を、コースの最後にある資料コーナーに移した。従来は資料コーナーを「ハタカ博物館」としたが、水槽と併せた一帯が「博物館」となった。新設の水槽では、深場と浅瀬の両方の生態を再現。資料コーナーでは、しょつるを透明のケースに展示し、熟成過程ごとの色や形態を見られるようにした。漁獲の歴史や、分布域の広がりなど新たなデータを盛り込んで内容を充実</p>
<p>秋田市大森動物園 [秋田県秋田市] 2012.07・2012.12・2013.03</p> <p>2012年7月、アムールトラとフラミンゴの展示場の一部を強化ガラスにした新しい観察スペースを設置。アムールトラの展示場は、周囲の花壇の一部を取り除き、金網だった部分をガラスにしたことで周囲に迫るトラを見学することができる。フラミンゴの展示場は、網の一部を強化ガラスに置き換えた。それまではフラミンゴを撮影する時は網も写っていたが、ガラスにしたことではっきり撮影できるようになった。2012年12月、新しいリス舎「リスの木」が完成。リスの展示場内に入ることができ、リスの様子を同じ空間で観察することができる。展示場の一部がガラス面になったことで外からも見やすくなった。リスが頭上を歩く「リスの通路」も整備。2013年3月、ふれあい広場のカメラ展示場リニューアル。暖房設備を備えたガラス展示場になった。改修は、同園の「にぎわい創出事業」の一環として実施</p>
<p>大潟村干拓博物館 [秋田県大潟村] 2013.02</p> <p>「八郎潟の生い立ち-大潟村地質コーナー」を新設。2011年、男鹿半島・大潟地域が日本ジオパークに登録されたことに伴い開設。干拓で村が誕生する前にあった八郎潟の形成過程を学ぶことができる地層の標本を常設展示</p>
<p>大館郷土博物館 [秋田県大館市] 2012.04</p> <p>先人顕彰コーナーを拡充して、リニューアルオープン。市民の要望を受け、パネルやゆかりの品の展示数をこれまでより大幅に増やし、わかりやすい解説を付けた。それまでの倍の25人の先人を紹介。ゆかりの品も3倍の20点に増やした</p>
<p>サイエンスパーク 能代市子ども館 [秋田県能代市] 2012.09</p> <p>開館25周年を迎え、1987年の開館以来はじめて展示室の改裝を実施。1階(自然科学館)は、「風の松原」の展示など、能代の自然環境の紹介をメインに配置。2階(宇宙館)は、宇宙航空研究開発機構(JAXA)から展示品の提供と監修を受け、M-3S型ロケットエンジンや人工衛星の模型、能代ロケット実験場の歴史など、宇宙関連の展示をメインとした</p>
<p>なまはげ館 [秋田県男鹿市] 2013.03</p> <p>「なまはげ勢ぞろいコーナー」を従来の2倍の約600㎡に拡大して、50体多い110体のなまはげを展示。若美地区など、それまでは展示していなかった地域を含め、市内はほぼ全域のなまはげを展示。面のみのなまはげを新たに40枚、展示に加えた。市内各地のなまはげ行事を学ぶことができるタッチパネルも新設。隣接地には、男鹿半島の伝統的な生活を体験できる「里暮らし体験室」を新たに建設した</p>
<p>月山ビクターセンター [山形県鶴岡市] 2012.12</p> <p>館内を全面改裝。メインの展示室であるガイダンスルームの中央に直径3mほどのジオラマを設置。ジオラマ周り2カ所に「三山廻りシミュレーション」の画像システムを配置。月山の各登山コースや羽黒山、湯殿山などの「参道・周遊コース」をガイダンスする。出羽三山の高山植物や鳥類、は乳類などを解説したパネルを設置。昆虫のオネジミが大きな葉を巻いて卵を生む様子が見える巻物「虫からのてがみ?」や、重りを入れた袋を持つとハクチョウなどの重さを実感できる展示も設けられた。映像ルームも新設</p>
<p>郡山市開成館 [福島県郡山市] 2012.11</p> <p>東日本大震災で被害を受け、休館していた同館が約1年8カ月ぶりに再開。「開成館」以外の建物等の復旧工事の終了に伴い、2012年8月から一部は再開していたが、2012年11月に全館で再開することができた</p>
<p>郡山市ふれあい科学館(スペースパーク) [福島県郡山市] 2012.04</p> <p>プラネタリウム「宇宙劇場」がリニューアルオープン。国内で最新のデジタルプラネタリウム機能を導入。スクリーン全体に映像を映し出す「全天ビデオシステム」を新たに取り入れ、二台に増設したビデオプロジェクターで明るく鮮明な映像投影を可能にした。観客席中央には多目的に利用することができるベンチ型の「ファミリシート」を設置</p>
<p>ふくしま海洋科学館(アクアマリンふくしま) [福島県いわき市] 2012.12・2013.03</p> <p>2012年12月、子ども漁業博物館「アクアマリンうおのぞき」が同市小名浜の「小名浜潮日交流館」2号棟に移転し、リニューアルオープン。小名浜漁港再開発計画に伴い、移転を実施。館内の砂場や、カッポ節削り体験コーナーなどを移設した。江戸時代の捕鯨の様子を描いた「磐城七浜捕鯨絵巻」や、東日本大震災で津波被災した岩手県の「山田町立鯨と海の博物館」から借り受けた捕鯨艇を新たに展示した。2013年3月、1階の展示室「シラカンスの世界」をリニューアルオープン。シラカンスのロボットやシラカンスに形態が似ている魚・タマカイを展示物に加えた。ロボットは、シラカンスのひれの動きを忠実に再現。同館がROV(自主式水中カメラ)で撮影に成功したシラカンスの動きを、金沢工業大と共同で分析し、開発した。タマカイは、体長が最大で3mにもなる大型の魚で、現在繁栄している魚類の中では最もシラカンスに似た形態や習性を持つとされている</p>
<p>鹿嶋市大野潮騒はまなす公園 郷土資料館・プラネタリウム・展望塔 [茨城県鹿嶋市] 2012.08</p> <p>プラネタリウムがリニューアルオープン。単眼式の全天周デジタル投影システムで、解像度はそれまでの光学式投影機の約1.5倍。星空に加え、地球から太陽系や銀河系を映して、137億光年のかたを体験することができる三次元宇宙シミュレーションを備えているのが特徴。臨場感のある音響設備のほか、独自に製作したコンピュータグラフィックスや動画なども投影することができる</p>
<p>つくばエクスセンター [茨城県つくば市] 2012.12</p> <p>プラネタリウムがリニューアルオープン。最新鋭のデジタルプロジェクター6基に更新して、明るさは3倍、解像度も1600万画素と4倍に向上。明るさや解像度の向上によって、映し出される星は約4000個から最大で約12万個に増えた。アメリカ自然史博物館が米航空宇宙局(NASA)の協力でつくった全宇宙の3次元地図データ「デジタル・ユニバース」を新たに用いて、それまで以上に天体の映像情報が正確で豊富になった</p>
<p>日立市かみね動物園 [茨城県日立市] 2012.04</p> <p>新しいクマ舎「クマのすみか」がオープン。従来に比べて10倍ほどの広さに拡大。旧クマ舎は築50年以上が経過し老朽化したため、国道6号側から山側の斜面に移転新築された。エゾヒグマとヒノクマの2種を比較展示。水深3mのプールが設けられていて、泳ぐ姿を間近で見ることができ。新小獣舎「カピバラエテイクハウス」もオープン。東日本大震災罹災のため使用できなくなった小獣舎を再建。カピバラやプレーリードッグなど6種類の動物を展示</p>
<p>ミュージアムパーク茨城県自然博物館 [茨城県坂東市] 2013.03</p> <p>第3展示室、第5展示室、ディスカバー・プレイスの一部がリニューアル。第3展示室には新たな展示コーナー「シラカンスの謎」を設置。現在生息しているシラカンスの一種「ラティミア・カムナス」の複製の幼体標本とともに、実物大の化石などを展示。インドネシアの海域でシラカンスが泳ぐ姿を撮影された映像も流れる。第5展示室には展示コーナー「自然環境と絶滅危惧種」を設置。生きものたちの姿を複製やレプリカなどの資料とデジタルコンテンツを組み合わせて展示。ディスカバー・プレイスには「標本は語る～自然の「蔵」としての博物館～」を合わせ、「標本」「博物館」「収蔵庫」をテーマに、標本やその製作過程、博物館の役割、収蔵庫の機能について紹介。同コーナーは、自然史研究がはじまった頃の研究室をイメージした木目調でトロトロに仕上がっている</p>

<p>栃木市おひろ歴史民俗資料館・おひろ郷土資料館(白石戸長屋敷) [栃木県栃木市] 2012.04</p> <p>無料休憩所がオープン。収蔵品整理によって生み出された屋外収蔵庫を活用して設置。小物作りなどのワークショップ「くらふと楽」を併設。無料休憩所の新設と「くらふと楽」の移設によって、団体客の受け入れを容易にし、地域住民が利用できるスペースを確保した</p>
<p>那須どうぶつ園 [栃木県那須町] 2012.07</p> <p>開園15周年を記念して新たに整備した「カピバラの森」がオープン。広さ約1,000㎡の「カピバラの森」には、池を中心に、温泉露天風呂、打たせ湯、側面がガラス張りして水中を泳ぐ姿を見ることが出来るプール、池を一周するカピバラの触れ合いの道が整備された。来園者は、道を歩きながら放し飼いの状態のカピバラに接近したり、露天風呂の外側に設置した天然温泉「五峰の湯」を掛け流しして使用する足湯に入りながら、カピバラをガラス越しに間近に観察することができる</p>
<p>那須とりっくあーとびあ [栃木県那須町] 2012.04</p> <p>2号館「トリックアート迷宮?館」がリニューアル。同館のシンボルである「六角塔」の壁画と大床絵を新たに制作して「天界へのローズスパイラル」を設置。吹き抜けになっている建物の1階と2階をつなぐ階段を「バラのらせん階段」にして、1階の床には直径約10mの床絵を施した</p>
<p>濱田庄司記念益子参考館 [栃木県益子町] 2013.03</p> <p>東日本大震災で被害を受けた同館が復旧工事を完了して、全面オープン。再建には国内外から多くの寄付が集まり、大正時代の工法を用いるとともに、鉄筋を使って耐久性を高めたり、発光ダイオード(LED)を導入したりと、様々な工夫を施した。復旧工事は、同館を一部開館しながら実施。濱田庄司の作品と収蔵品を公開する展示館や濱田庄司が使った登り窯など、館内全10棟のうち9棟で屋根や壁面の補修などを行った。リニューアルオープン後は、被災前と同様、長屋門の1号館で企画展示、二つの石蔵展示館で西洋と東洋の工芸展示などが行われている</p>
<p>伊香保 おもちゃと人形自動車博物館 [群馬県吉岡町] 2012.07</p> <p>人気漫画「頭文字(イニシャル)D」の実写映画版に登場する豆腐店と「スプラントレノAE86(ハチロク)」を自動車博物館内に再現。同映画で主人公の美家として使用された渋川市の豆腐店が閉店・解体後に、親族が保管していた店舗看板や外装、備品などの寄贈を受け、再現。主人公の愛車・AE86も漫画の設定通りに製作した上で展示</p>
<p>桐生織物記念館 [群馬県桐生市] 2012.08・2013.01</p> <p>2012年8月、2階に「織物資料展示室」を新設。大広間だった約100坪を改修。約1300年前から始まる町と織物に関する年表や生糸や繭、明治時代から使用されてきた織機各種、明治天皇の肖像の写真織りなどを展示。桐生織物協同組合が所有していた資料を展示した。2011年の市制施行90周年を機に、郷土資料展示施設の整備の声が上がって、開設が実現した。1階の「桐生織物販売場」もそれまでの2倍近くに拡大した。2013年1月、特別展示室を設置。織物資料展示室を設けた2階の一部屋を活用</p>
<p>おがの化石館 [埼玉県小鹿野町] 2012.04</p> <p>館内の改裝を実施。壁を木の板で飾り、温かみのある雰囲気にするともに、日本版ジオパークに認定された埼玉県秩父地方の紹介コーナーなどを新設。新設したジオパークのコーナーでは、同館近くにある新生代の地層「よばけ」など、特徴的な地形を写真パネルなどで伝えている</p>
<p>ECO-Zoo子ども動物自然公園 [埼玉県東松山市] 2013.02</p> <p>ECO-Zoo第1建物として「カピバラ温泉」のエコリニューアルを実現。カピバラ飼育舎の屋根に太陽熱温水器を設置。また、観察小屋の前にカピバラ用の「太陽熱床暖房」を設置し、カピバラを近くで観察できるように工夫。同園の環境教育機能を高めるため、今後も設備等のエコリニューアルに取り組み予定</p>
<p>埼玉県生活科学センター(影の国くらしプラザ) [埼玉県川口市] 2012.04</p> <p>「消費生活」にテーマを絞った改裝を実施。悪質商法の被害から身を守る方法や、金銭感覚など身に身につくという内容。9分野に分かれた体験型の「くらしスクール」では、チラシを見ながら時間内に安く、いいモノを買い物というゲームや、悪質な訪問販売員が訪れた際の断り方を学ぶブースなどが設けられている</p>
<p>埼玉県立自然の博物館 [埼玉県長瀨町] 2012.10</p> <p>改修工事を実施。リフレッシュオープンにあわせてオリエンテーションホールに、「ディスカバー・コーナー」などを新設。「ディスカバー・コーナー」では、引き出しや棚に様々な化石や骨、植物の標本など同館の資料や模型を配置。動物、植物、化石、岩石・鉱物などの参考図書も置いた。「カエデコーナー」には、カエデをはじめとした植物などの資料の観察ができるテーブルと座ってくつろげるベンチを設置。以前より人気があった「触れる剥製コーナー」では、剥製の数を改修前より増やし、イシヤキギ、キツネなど約15点を展示。同ホールにはジオパーク秩父を解説する展示も追加した。敷地内には「カエデの森」も新たに整備。秩父地方の自然環境を紹介する展示を強化した</p>
<p>さいたま水族館 [埼玉県羽生市] 2013.03</p> <p>チョウザメ池とカメ・ザリガニふれあいコーナーを改修。チョウザメ池とカメ・ザリガニふれあいコーナーには観察窓が設置され、間近で観察できるようになった</p>
<p>鉄道博物館 [埼玉県さいたま市] 2012.07</p> <p>子供たちが鉄道について楽しく学ぶ、親子のふれあいスペースとして、ノースウィングにて「てっぽく図書室」をオープン。てっぽく図書室では、小学生までの子どもを対象とした鉄道に関する絵本などを用意。実際に使われていた特急や新幹線の座席が並び、親子で旅行気分を味わいながら読書を楽しむことができた</p>
<p>犬伏灯台資料展示館 [千葉県銚子市] 2013.03</p> <p>福岡県宗像市沖の離島「沖ノ島灯台」で使われてきた国産第1号の灯台用大型一等レンズが、海上保安庁から同館(銚子市)に譲与され、新たに公開。実際に点灯・回転する展示は全国初。レンズだけで高さ2.53mで重さ2.65トン、装置全体では高さ5.15m、総重量13トンの国内最大級の灯台用大型レンズ。それまで資料展示館に設置されていた、フランス製の犬伏灯台初代レンズは霧笛倉に移転(公開)</p>
<p>国立歴史民俗博物館 [千葉県佐倉市] 2013.03</p> <p>第4展示室を一新。同展示室は、1985年から2010年までの「日本人の民俗世界」をテーマに展示を行っていた。しかし、最新の民俗学研究成果や社会の変化を反映させるために、約2年がかりで大規模改裝を実施。新展示室は、現代の民俗文化を紹介する「民俗」へのまなざし、神や妖怪、死などとの向き合い方を扱う「おそれと祈り」、人々の生活や知恵に焦点をあてた「くらしと技」の3ゾーンで構成</p>
<p>市川房枝記念展示室 [東京都渋谷区] 2012.12</p> <p>展示室を改裝。展示資料を総入れ替えてオープン。女性参政権獲得運動や選挙浄化運動に関わる貴重な資料を展示。市川房枝が参議院議員として活躍した戦後資料を充実させた。視聴覚コーナーでは、市川房枝の記録映画や生前にテレビ出演した際の映像、女性参政権運動に関わる視聴覚資料などを見ることが出来る</p>
<p>科学技術館 [東京都千代田区] 2012.07・2012.10・2013.02</p> <p>2012年7月、5階 FORESTの一部である展示室「ゲノム」を部分リニューアル。独立行政法人理化学研究所の「今」を展示する「リアル」としてオープン。2012年10月、独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)による4階展示「NEDO - Future Scope」がリニューアル。NEDOが研究開発を主導しているスマートコミュニティとロボットにテーマを絞って部分的にリニューアルを実施。2013年2月、2階日立スペース「Nature Contact」がリニューアル。「快適で安心・便利な暮らしを続けながら、地球の自然環境とも調和できる街」をテーマにしている。体験型のエデュテイメントコンテンツをさらに充実させた</p>
<p>1階でテーマ別にガスの科学館 [東京都江東区] 2013.03</p> <p>ガスの展示をリニューアル。コージェネレーションシステムや再生可能エネルギー、それらを手前に組み合わせて街全体でエネルギーを融通し合うスマートエネルギーネットワークをわかりやすく紹介。シールガスを含む頁岩や、建設中の扇島工場の4号LNG地下タンク内部に使用されているメンブレンの実物の一部も展示</p>

国立科学博物館【東京都台東区】2012.04・2012.11
筑波研究施設の敷地内に、新たに総合研究棟(2011年4月完成)と自然史標本棟(2011年3月完成)が完成したことを受け、2012年4月、同館の新宿分館と産業技術史資料情報センターが筑波地区に移転。新宿分館から動物の標本や複製、鉱物など約240万点が引っ越した。2012年11月、自然史標本棟の1階「見学スペース」(一般市民向け)を公開。全長12mのセミクジラなど大型動物50点の骨格標本を見ることができ
五島美術館【東京都世田谷区】2012.10
2010年11月から増改修工事のため休館していた同館が新装オープン。開館当初の姿を可能な限り留めながら館内設備を刷新。時代に即した展示機能の拡充と館全体の機能更新をテーマにリノベーションに取り組んだ。既存の展示室は展示機能を刷新。重要文化財の展示に防災対策を施した。寝殿展示は、寝殿での展覧を望む開放的な旧集会室の特徴を生かして、自然光を入れることも可能な新たな伝統美術の展示空間に整備。以前トイレや応接室だったスペースはミュージアムショップや休憩コーナーに改修した。開館50周年を記念して、本館の増改築、別館の改修、茶室の耐震工事、庭園の改修を行った
昭和館【東京都千代田区】2013.01
常設展示をリニューアル。「昭和20年8月15日」コーナーでは、昭和天皇による「玉音放送」を聴くことができる。「体験ひろば」コーナーには昔ながらの手押し井戸ポンプで水をくみ体験できるコーナーが登場。「移りゆく世相」コーナーはそれぞれ昭和30年までだったのを昭和40年代までに延長(更新)。米国公文書館所蔵の映像で当時を伝える「終戦直後の日本」映像コーナーや、当時の世相を学べる昭和館収蔵資料データベースを追加(「調べてみよう!」コーナー)するなど、ライブラリー機能を強化
セイコーミュージアム(旧:セイコー時計資料館)【東京都墨田区】2012.04
セイコーホールディングスの時計資料館が「セイコーミュージアム」としてリニューアルオープン。歴代のセイコーの名品のほか、日時計、水時計、燃焼時計といった時計の進化の歴史を見ることができ。リニューアルを機に、16世紀の西洋の時計を日本の「不定時表」に合わせて作り替えた「和時計」約30点を新たに展示。また、水泳競技用のタッチボードを使ってスポーツ計時体験できるコーナーやミュージアムショップも整備
多摩六都科学館【東京都西東京市】2012.07・2013.03
2012年7月、プラネタリウムドームを改修。スタードーム、デジタル全天周投影システム、スクリーン、コンソール、シート等、ドーム内を全て一新。大型機種としては初の高輝度LED光源の光学式投影機は世界最多の星数(1億4千万個)を投影。4Kプロジェクター4台によるデュアルプロジェクション方式のデジタル映像を採用。2013年3月、「Do Science 1=「科学する」をテーマに体験型展示で人気の5つの展示室をリニューアル。「チャレンジの部屋」「からだの部屋」「しくみの部屋」「自然の部屋」「地球の部屋」と名称を変更。実験や工作、観察のできる「ラボ」(実験室)を4カ所設置(「からだラボ」「しくみラボ」「しぜんラボ」「ちきゅうラボ」。企業や地域と連携した「つながるスポット」、低年齢から楽しめるコーナーも充実
東京国立近代美術館【東京都千代田区】2012.10
開館60周年を記念して、本館2~4階の所蔵品ギャラリーをリニューアル。特集展示の拡充、解説の拡充、導線の整理、多言語化対応、休憩スペースの拡充を実施。展示室で過ごす時間をより快適にして、じっくり作品に向き合うことのできる環境を整えることを目指した。館内サインや解説文などには読みやすさを考慮したデザインを採用し、利用者に必要な情報がよく伝わるように改良した。1室「ハイランド」及び10室「日本画」の床や壁は、色や質感を変更することによって展示ケースへの映り込みを低減。休憩のためのスペース「眺めの良い部屋」は、眺望を取り込んだ明るい内装にしている
東京国立博物館【東京都台東区】2013.01・2013.03
2013年1月、アジア文化コレクションを紹介する東洋館がリニューアルオープン。3年半にわたる改修の主目的は耐震補強工事だったが、展示ケースや照明も一新した。同館地下1階には、凸版印刷株式会社と共同制作した超高精細映像を上映するシアターを開設(資料館に設けられたシアターを規模を拡充して移設。映像を増やして、それまでは限定公開しかできなかった「ケムル(カンゾウ)の彫刻」や「インドの細密画」、「アジアの民族文化」、「清時代の工芸」専用の展示コーナーを設置した。中央の吹き抜けには新たにエレベーターを設置して、車椅子の来館者も目当ての展示室にすぐに行けるように改善した。展示室の案内表示や、作品名称などは4言語表記(日、英、中、韓)とした。2013年3月、ミュージアムショップが本館1階にリニューアルオープン。本館地下1階から移転。それまで本館1階20室だった空間を改修
東京都神代植物公園【東京都調布市】2012.04
都内の絶滅危惧種の情報を集めた「植物多様性センター」が完成。2006年に同公園が植物多様性保全拠点に指定されたのを受け、駐車場に隣接する展示施設をセンターに改築した。センターは、一般には公開されない絶滅危惧種の保護増殖のための栽培温室のほか、展示室などを設けた情報館、武蔵野や奥多摩、伊豆諸島の植物種とその生育環境を再現した学習館で構成。情報館は、都内の植生分布図や、人間と植物のかかわりを紹介するパネルなどを展示
東京都美術館【東京都台東区】2012.04
大規模改修工事のため、2010年4月から全面休館していた同館がリニューアルオープン。既存の躯体を残したうえで全面改修を実施。設備の全面更新に加え、ユニバーサルデザイン(UD)の整備、来館者の鑑賞空間の質的向上や利用者の利便性向上を図った。また、外壁の打ち込みパネルを当時の技術を参考に作り直すことで、設計者である前川國男の設計思想を生かした。企画棟の地上部分は新たに建て直され、中央棟は階層を増やし、増床。中央棟の増床部分には、見晴らしのよいレストラン「ミュージアムテラス」、ロビー階の増床部分には開口が広く明るい採光の差し込む「ミュージアムショップ」を配置した。UD面では新たにエレベーターやエスカレーターを設け、子どもや障がい者が気軽に来館できるように配慮。省エネ化のために、共用部分の照明をLED(発光ダイオード)に切り替えるとともに、20kwの太陽光発電も設置した
東京農工大学科学博物館【東京都小金井市】2012.10
歴史ある織機関係コレクションを中心とした科学博物館としてリニューアルオープン。耐震補強工事と機能改善のための改修を実施。1階西側へ大学の「現在」を伝える企画展示室と教育・研究展示室を設置。2階には同大学の「歴史」を伝える展示室を配置。織機博物館から受け継いだ織機関連の展示や蚕織錦絵・生糸標本のコレクション展示のほか、内務省勲業寮内藤新宿出張所から始まる歴史を紹介する学術展示室と遠藤章特別名誉教授の業績展示(遠藤章特別名誉教授顕彰記念室)を新たに追加した。また、同館友の会サークルによる実演ブースも設置した
東武博物館【東京都墨田区】2012.08
8000系8111号編成(6両)の動態保存を実施。8000系は、1962(昭和38)年に就役し、以後20年間にわたり、輸送力向上と旅客サービスの向上に貢献した。8111号編成は、車両前面など8000系の原形を留める唯一の車両であり、動態保存にあたっては製造当初のカラーの再現や上部灯の復活など、可能な限り製造当時の状態に復元し、営業線を走行できるように修繕した
日本科学未来館【東京都江東区】2012.12・2013.03
2012年12月、5階に常設展示「はくとみんなとそしてきみー未来をつくりだすからー」を設置。脳科学、量子力学、認知科学などの多様な視点から明らかになってきた「生物としての人間」の性質を知り、私たちの未来社会について考える展示。巨大な映像を用いた4冊の仕掛け絵本で空間を構成。2013年3月、「つながり」プロジェクトの一環としての新規コンテンツを公開。「ジオ・コスモス」の新しい上映プログラム「軌跡〜The Movements」は、「人間の活動と地球観の変遷」をテーマに「移動」にまつわる様々なデータから歴史の中で歩んできた軌跡を紹介。また、ジェフ・ミルズ氏が宇宙、地球、人々のつながりをコンセプトに「ジオ・コスモス」を取り囲む空間に流れる音楽を制作
目黒寄虫館【東京都目黒区】2012.07
2階展示室を大幅に改装。常設展示パネル25枚をリニューアル。新パネルの完成によって約30点の動物標本がLEDによって照らし出され、より体が見やすくなった。また、最新の解説情報を取り入れたり、イラストを用いることで、より詳しく寄虫を知らない人にも分かりやすい展示を目指した。ミツクジラに寄生したアサギキスと、ツチクジラに寄生したクラシカウダの標本を幅15cmのアクリルケースに密着して新たに展示。室内は「人体寄生虫」と「人間共寄虫室(線虫・吸虫・糸虫)」のブロックに分けた

神奈川県立生命の星・地球博物館【神奈川小田原市】2013.03
1階展示室(エンタランスホール)、地球を考える展示室、生命を考える展示室)において取り組んだ「展示をよりすぐる工事」を完了。図表や写真、資料パネルなどを見やすく一新。また新たに、携帯電話やスマートフォンを用いる「展示音声ガイド」を導入。解説対応エリアは1階のみ。日本語は音声と文字で、英語は文字による解説を実施
川崎市青少年科学館(かわさき宙(そら)と緑の科学館)【神奈川県川崎市】2012.04
全館を改築してリニューアルオープン。1971年に開館したプラネタリウム館が老朽化したため、新たな施設を整備。新設した自然科学棟と、旧本館を改修した研究管理棟の二つからなる新たな科学館を整備。最新の研究成果をもとに体験型展示を多用。自然や科学に対する興味や関心を喚起する展示を随所に配置した。リニューアルと同時に通称名も新たに採用した
シルク博物館【神奈川県横浜】2012.04
展示室の改修工事を実施。2・3階にわたる展示構成を見直し、来館者にわかりやすい構成や展示方法を整備。講習会や体験学習に対応できる空間を確保したほか、未来志向の展示を新たに追加した。展示照明器具には、省エネルギー化と資料保護のためにLEDを採用して明るさを確保し、効果的な照明の整備を行った。館内の色調についても見直し、2階は床タイルや壁面などに柔らかな色調を配した楽しい空間に、3階は来館者が展示を立ち回った雰囲気や鑑賞できるような黒を基調とした。年間を通して蚕の飼育展示、衣食住にかかわる絹製品、絹の洋装品などができる過程や蚕糸業の歴史、アジアを中心とした世界の民族衣装、日本の復元時代風俗衣装人形、時代衣装、掛紙紗、蚕織錦絵など、様々なシルクに関する展示を展開
新江ノ島水族館【神奈川県藤沢市】2012.04・2012.07
2012年4月、新たにタッチプールを設置。イルカショースタジアムサブプール地階をタッチプールにリニューアル。2012年7月、「深海1」(旧名称「深海コーナー」)を更新。深海生物の長期飼育技術開発の研究の様子を公開しながら、深海の世界をより楽しくわかりやすく紹介。「深海1〜しんかい2000〜」では、1982年から20年以上にわたって潜行を行い、数々の研究成果をもたらした、深海研究の飛躍的な発展に貢献した日本初の本格的な有人潜水調査船「しんかい2000」を深海調査研究の歴史とともに展示
箱根町立箱根園所資料館【神奈川県箱根町】2013.03
資料館の展示を一新。今まで以上に関所のことを知ってもらうため、テーマ別のコーナーを設けて、よりわかりやすい展示に改装。関所の移り変わりや通行手形、女改め、関所めぐりなど13のテーマについて、資料やパネルで紹介。新しい関所の発掘調査や復元工事の様相を紹介する「甕つた箱根関所」では、当時の役人が使った陶磁器などを新たに展示
三菱みなとみらい技術館【神奈川県横浜】2013.02
「環境・エネルギー」を全面リニューアル。「エネルギーの多様性」をテーマに、三菱重工業株式会社が手掛ける各種の発電方式について、映像や実物・模型展示で詳しく取り上げている。環境を配慮したエネルギー効率の高い技術や再生可能エネルギーを利用する最先端事例のほか、世界のエネルギー事情や資源分布なども紹介。子どもから大人まで、便利なくらしを支えるエネルギーについて楽しくわかりやすく学べる展示を実施
横浜大世界 トリックアート・ミュージアム【神奈川県横浜】2013.03
同ミュージアムを4フロアから5フロア(横浜中華街のエンターテインメント施設・横浜大世界の4~8階)に拡張して、リニューアルオープン。身体を使って錯覚を楽しむ「体験体感コーナー」フロアが新たに誕生
横浜・八景島 シーパラダイス【神奈川県横浜】2013.03
新施設「うみファーム」がオープン。自然の海とつながり、海とともに成長していく「海育」がコンセプト。自然の海を生かし、体験プログラムなどを通じて環境保全の大切さも学べる施設となっている。アクアミュージアム、ドルフィンファンタジー、ふれあいラウンジに続く、4つ目の水族館施設。生態系回復を図る取り組みを進める「オーシャンラボ(大いけずーん)」と、魚釣りなどで海の食育体験を行う「食育ゾーン」の2カ所に大きく分かれている。オーシャンラボでは、海中にネットや魚籠などを設置。付着するイガイやカキによる水質浄化で環境を改善し、多様な生き物が生活する本来の海の姿に戻していくことを目指す。海中観覧船からは、人工漁礁の周りを泳ぐ魚などが観察でき、プランクトンやクラゲを水槽にすくって見ることができ、プログラムも用意された。食育ゾーンでは、魚釣りや魚の手づかみ体験を有料で実施。アジア季節の魚を捕まえて、その場で調理し食べることができる
上越科学館【新潟県上越市】2013.03
常設展「Gゾーン」を改装。ゾーンタイトルを「生命の進化と環境」と改め、動く大型恐竜ロボットを設置。生命の進化・環境・エネルギーについて理解を深める場となるよう各所に工夫
諸橋敏次記念館【新潟県三条市】2012.04
展示改築を実施。特別展示コーナーを新設して、解説パネルのイラストや情報量を増やし、「大漢和辞典」を編集した諸橋博士の業績をよりわかりやすく伝えている。映像や音を頼りに漢字の成り立ちを学べる新コーナーなどを整備して、子どもたちに親しみやすい施設づくりを目指した。開館から20年が経過したことなどから、展示内容の充実を図るリニューアルを実施
魚津水族館【富山県魚津市】2013.03
改修工事を行い、リニューアルオープン。新たに両生類や虫類を加えた約300種1万点を展示。新装した水族館は「富山の自然の豊かさ」「世界の環境」「水櫃施設の舞台裏見学」の3点をテーマにしている。「世界の環境」では、ジャングルコーナーを設け、カメレオンを展示した。サンゴも展示し、波に揺られる昼の様子や触手を伸ばす夜の神秘的な姿を観察できる。「舞台裏見学」では、富山湾大水槽の3階部分に床が透ける機橋を新設し、水槽の上からの眺めや潜水に向かうダイバーの様子を見ることができ。富山の河川コーナーは6種類の淡水魚が泳ぎ、植物育成コーナーで生きた植物の栽培にも挑戦。田んぼの生物コーナーでは素掘りの用水や水田を設け、タニシやアカハライモリなどを展示している
高岡市鑄物資料館【富山県高岡市】2013.03
有料の第1展示室と無料の第2・第3展示室に分かれている同館が、第2展示室を石畳の通りと直結させてリニューアルオープン。鑄物の製作道具の配置を変更し、鉄を溶かすために使われていた足踏式道具「たたら」を、来館者の目に触れやすいように入口近くに設置した。高岡鑄物を紹介する展示モニターのほか、壁にガラス張りした展示ボックスに新たに設けた。第1展示室では重要無形文化財保持者(人間国宝)の彫金家、故・金森映井智の作業場を再現し、用具などを展示。高岡市の鑄金家で人間国宝の大澤光民氏作品も展示した。各展示室をつなぐ屋外通路に屋根を設けたほか、館内に防犯カメラ4台を設置した
富山県埋蔵文化財センター【富山県富山市】2012.04
施設内に収蔵展示室を新設。貝塚の実物や触れることのできる土器などを新たに展示し、児童の学習に役立つ機能を向上させた。同県の「子育て支援臨時特例基金」の採択を受け、出土品の倉庫に展示機能を加えて収蔵展示室とした。小竹貝塚(富山市)からはぎ取った貝塚を壁の側面に展示。縄文、弥生時代の生活の様子を再現したジオラマや、古代の貴族と庶民の食生活を比較した模型も展示した
富山市ファミリーパーク【富山県富山市】2013.03
新たに「ふんばんアパート」と2カ所目となる「ムササビ村」を設置。「ふんばんアパート」は直径3~30mmの竹筒880本を束ね、オオフクロバタのすみかとする。「ムササビ村」は、ライクメラでムササビの巣の中を映す設備。「ムササビ村二丁目」と名付けたモニター小屋を設けている
水見川自然博物館【富山県水見川】2013.03
常設展示室の一部をリニューアル。国の重要無形民俗文化財に指定された竹と藤の皮で作る農具「藤篋」と「そうけ」の保存技術を紹介するコーナーをリニューアル。大小の藤篋6点、そうけ7点を展示し、製作方法を紹介した解説パネルを設置した。馬餅・牛餅のコーナーもリニューアルを行い、牛馬に引かせる鞆など4点を展示した。漁具コーナーでは、新たに船大工・番匠光昭さんが製作した定置網漁の網こしに使う作業船「テント」の模型を展示
石川県白山自然保護センター 中宮展示館【石川県白山市】2012.05
改修を進めてきた白山国立公園の中宮温泉ビジターセンター(県中宮展示館)が、同国立公園開設50周年の「石川キックオフイベント」に合わせてリニューアルオープン。白山の歴史や自然を紹介する映像展示を更新。外国人観光客の増加に対応するため、英語、中国語の簡体字と繁体字、韓国語の解説パネルを設置

いしかわ子ども交流センター【石川県金沢市】2012.04
最新鋭デジタルプラネタリウムを公開。この公開を機に、宇宙をイメージしたロビーも整備された。星が見える窓や宇宙船風のハッチ付きドアなどで「宇宙空間」を演出。ロビーの天井には国際宇宙ステーション「きぼう」やスペースシャトル、ソユーズ宇宙船、小惑星探査機「はやぶさ」が10分の1のスケールで描かれ、床は光り輝く素材で星をちりばめた様子を表現した。プラネタリウムは最新鋭の3次元デジタル動画システムで、360度隅々にダイナミックなCG映像を映すことができる。
いしかわ動物園【石川県能美市】2012.04
コビトカバの一般公開を開始。世界三大珍獣とされるコビトカバを間近で観察できるよう、旧バ舎を改修。コビトカバは1歳5カ月の雌でオランダ・オフェル園動物園から借り受けた。日本海側での公開は初めて。施設改修では、将来の繁殖のため、雄と雌それぞれの生活スペースを確保している。
金沢能楽美術館【石川県金沢市】2012.09
館内を改装して、リニューアルオープン。1階を大幅に改装。能や狂言の面のほか、ヒノキ材や型紙、彫刻刀などを並べ、能面の制作過程がわかる展示を設置。北陸新幹線金沢開業によって外国人観光客が増えることを見込んで、説明パネルの英語表記を充実させた。2階には、能や狂言などを題材とした絵本約20冊が並ぶ「絵本コーナー」を設けた。
永井豪記念館【石川県輪島市】2012.06
開館3周年と人気作品「マジンガーZ」「デビルマン」の誕生40周年を祝いイベントに合わせて、リニューアルオープン。玩具メーカーの株式会社バンダイから発売された「スーパーロボット超合金マジンガーZ デビルマンカラー」に合わせてリニューアル(デザイン)された館内では、原画展示コーナーの更新、永井豪氏書き下ろしイラストを使用した新春看板の設置、同館のために製作された等身大デビルマンの展示、小型フィギュアの追加展示が行われた。
のどま臨海公園水族館(のどま水族館)【石川県七尾市】2012.04・2012.07
2012年4月、「アザラシプール」がオープン。「海の自然生態館」隣接地の屋外に整備。ゴマフアザラシとのふれあい体験ができる「ふれあいステージ」も設置。2012年7月、新演出「クラゲの光アート」がオープン。色とりどりの光の中、円柱形の水槽にクラゲが漂う演出を実施。天井や壁面を泳ぐクラゲの姿が楽しめる「トンネル水槽」のほか、床から天井までを貫く高さ約2.8m、直径約80cmの「円柱水槽」を4本設置。青やピンクに変化するLED照明。水槽を照らし、さらに周囲に配置した鏡で光を反射させて、非日常的な空間を作り出している。水槽の中には、クラゲを計9種・約1,000匹展示
前田土佐守家資料館【石川県金沢市】2013.03
展示スペースを従来の約1.4倍のスペースに拡大してリニューアルオープン。藩政期のすどころ「大型甲冑双六」の体験コーナーを新たに設置した。ミュージアムショップの充実を図るとともに、館内の案内サインを一新。さらに、今回、金沢工業大学の中村研究室とのコラボレーションで作成した「Cubeかっちゅう」による「前田土佐守家資料館紹介動画」も公開
越前松島水族館【福井県坂井市】2013.03
日本海の深海に生息するユニークな魚・コンベイトウの形に似せた「こんべいとうハウス」がオープン。半球形のハウスやドームハウス内に展示されているコンベイトウの赤ちゃんなどを見ることができ、ハウスは断熱性に優れた発泡ポリレンタムを使用し、胴体部と本製の尾ビレ部があり、胴体の上には背ビレも付けている。コンベイトウを中心に、冷たい海にすむ生き物を展示
人道の港 敦賀メセウム【福井県敦賀市】2012.07
2011年4月から進めていた一連の施設リニューアルが完了。展示資料の内容を6カ国語で案内するタブレット端末を導入し、運用を開始。タブレット端末は、外国人観光客の誘客を図るため、貸し出し用として10台を配置。端末は英語、中国語、韓国語、ロシア語、ポランド語、ヘブライ語の文字と音声で、大戦中に原爆干渉り中国領事代理が発給した「命のビザ」で教習に上陸したユダヤ人の足跡など、11のエピソードを案内。資料館入口には「自由への扉」と記した案内板も設置した。リニューアル事業は、第三セクター「港都つるが」が敦賀市の補助を受け実施。ユダヤ人難民のドキュメンタリー映像などを放映する50インチディスプレイの整備や展示コーナーの充実を図った
福井県立恐竜博物館【福井県勝山市】2013.03
カマラサウルスの実物全身骨格を公開。約3年半にわたって進めてきた「プロジェクト・カマラサウルス」のクライマックス事業。「プロジェクト・カマラサウルス」では、アメリカで発見された、全身の9割も骨が残る貴重なカマラサウルスの化石をクリーニングし、補修、複製、全身骨格の組み立てまでを一貫して行った。このカマラサウルスは同館42体目の全身骨格(実物化石による全身骨格としては7体目)として、常設展示室で公開
福井市文化財保護センター【福井県福井市】2012.11
福井市内の15遺跡で発掘された文化財を一室に集めた常設展示室を新たにオープン。「触れ合える文化財」をコンセプトに、資料を覆うガラスケースを原則なくし(「オープン展示」)、縄文から江戸時代までの土器、祭祀の道具、装飾品など約500点を展示。発掘調査の成果に合わせて展示品を随時更新する
めがねミュージアム【福井県鯖江市】2012.06
めがね会館内にある、めがねミュージアムが改装。来館者が長時間滞在でき、眼鏡産地への理解を深めてもらう施設を目指して改装を実施。利用者からの声をもとに、くつろげる場所を設置した。改装した1・2階の内装は白色で統一。1階カフェでは、鯖江市内のメーカーによる焼き菓子をはじめ、土産品約15種類を販売。計20席ある「MUSEUM CAFE」では、地元の若手洋菓子職人の手作りケーキを週替わりで提供
若狭三方縄文博物館【福井県若狭町】2013.03
展示改装などを行い、リニューアルオープン。それまでに蓄積された情報(調査成果など)をもとに改装。ラムサール条約に登録されている三方五湖の一つ、水月湖の湖底堆積物の編み機「年縞」の実物や調査概要を記したパネルなどを新たに展示。年縞のできる過程などを映像やパネルでわかりやすく解説。ユリ遺跡から出土した丸木舟の実物を2隻追加し、計5隻を展示。杉の木を切り倒し、丸木舟を造る工程も壁一面の大きなイラストで紹介。同遺跡から2011年に見つかった平地住居跡の様子などは立体映像で見ることができ、環境保全に関するコーナーも新設されて、町内に飛来したコウノトリの写真などを展示して、自然との共生の大切さを訴えている。入口のバリアフリー化を図るとともに、身障者用トイレを新設した
甲斐黄金村・湯之奥金山博物館【山梨県身延町】2012.04
映像展示の内容をリニューアル。資料展示室のモニターでは、それまで同町の毛無山山中にある金山山道跡に関する資料映像を主に流していたが、2009～2010年にかけて行われた調査結果を反映して、同遺跡と並んで「湯之奥三金山」と称される内山金山道跡、小野真金山道跡の資料映像を新たに追加。毛無山の空撮映像を交えながら、調査風景、出土品の写真などをスライドショーで紹介。英語字幕を入れて外国人観光客にも対応した。また、金山業の日常を再現したVTRをプロジェクターで映し出しているジオラマ展示室も新たな映像に更新した。そのほか、資料展示室の一角に設けたタッチパネル式の機器を新機種に交換。画面もイラスト入りの見やすいデザインに更新して、金に関する豆知識などをクイズ形式で学べる内容にした
飯田市立動物園【長野県飯田市】2012.04・2012.08・2012.10
2012年4月、イベントなどに利用できる「ちびっこランド」がリニューアルオープン。動物を身近に眺めることのできる「ふれあい広場」を新たに完成。今回の改修のために、園内を走る「豆汽車」の乗り場を移動した。「ふれあい広場」には、リクガメとインコの飼育舎を新設。2012年8月、ペンギン舎をリニューアルオープン。水槽は、来園者が動物を見学するのはなく、視線が同じ高さになるように深さを約2mにした。また、フンボルトペンギンの生息地・南米の海岸をイメージして、草の生えた岩場やコンクリート製の巣穴などを設置した。野生に近い状態を見せる「生息環境展示」を実施。2012年10月、アンデスコンドル舎がリニューアルオープン。南米アンデス山脈をイメージした環境を整備するとともに、コンドルを飛ばせるために高さ4mの飛翔台を設置。面積は従来の5倍に拡大した

麻績村立聖博物館【長野県麻績村】2012.04
展示を改修してリニューアルオープン。村内を通る善光寺街道に焦点を当て、道と未知をかけがみちのちから」をテーマに展示を一新。行灯や膳、旅装束など従来から展示していた資料についてもテーマに沿って配置を変え、それぞれ新たな説明を加えた。2011年に同村内で見つかった江戸時代の絵図「焼畑山十三景図」を模刻した明治期の作と見られる版画を新たに展示。国の重要文化財の麻績神明宮の建物5棟、福満寺の薬師如来像など仏像5体は写真で紹介している
市立大町山岳博物館【長野県大町市】2012.04
館内に、全国でも珍しい「山岳図書資料館」が完成。山に関する書籍や、高校・大学の山岳部の会報、登攀記録など25,000点を収蔵。2011年に設立50周年記念を迎えた長野県山岳協会が全面的に協力。1階には同協会から寄贈された本を、2階では博物館にあった資料を閉架式書庫に納めた。建設費の約3分の1も、同協会などが寄付を行った。収蔵資料は、山に関する小説や随筆、様々な登山雑誌のバックナンバーから、山を題材にした切手、山小屋のマッチ箱コレクションまで幅広い
諏訪市美術館【長野県諏訪市】2013.02
展示室を中心に館内を改装。1943(昭和18)年に建てられ、築70年を迎えた同館の建物内部は、経年劣化に伴う汚れや傷みが見られたため、改修に着手。柱や天井の傷んだ部分はバテで埋めた後に塗料で美しく仕上げ、作品を展示する壁面のクロスは新しいものに貼り替えを実施
関ヶ原町歴史民俗資料館【岐阜県関ヶ原町】2013.03
常設展示を13年ぶりに一新。それまで関ヶ原合戦の資料は1・2階に分散されていたが、3年がかりで約1万点の古文書をはじめとした資料を整理し、統一した展示内容に改めた。1階に関ヶ原合戦の資料を集め、時系列で流れを追える展示にするとともに、2階では中山道関ヶ原宿と今須宿に関する古文書など約50点を展示した。また、2階の展示の一部にはスマートフォンをかざすと、より詳細な情報を知ることができるAR(拡張現実)画像認識機能を利用した展示資料や、動画閲覧コーナーを設置した
藤橋楼(西美濃プラネタリウム)【岐阜県揖斐川町】2012.04
プラネタリウムの投映機などを最新型に更新。投映機は、光学式とデジタル式の複合式となり、映し出せる星の数が約3,500個から約1千万個へ増加したため、天の川の星の一つ一つまで鮮明に表現することができ、ハイビジョン映像のコンピュータグラフィックス(CG)で、地球や太陽系の惑星などを映し出し、過去や未来の星空、日食などの天文現象も映写することができる。座席を、同心円状の3列86席から2列60席に減らしたことで、ゆったりと快適に映像を観賞することができ、どの席でも良い音で聞こえるように無指向性スピーカーを採用した
静岡県立日本平動物園【静岡県静岡市】2012.04・2012.10
2012年4月、再整備計画が進む同園のエントランスゲートが完成。1969年の開園以来初めてエントランスゲートを改装した。チケット売り場のほか、事務所、売店、屋外トイレを併設。事務所には教室や授乳室を新設し、売店には動物の縫いぐるみや菓子などの土産物を揃えた。それまでゲート上にあった動物のレリーフは屋外トイレの外側に移した。新しく完成した「レッサーパンダ館」「ペンギン館」「ビジターセンター」の3施設も同時にオープン。レッサーパンダ館は従来の9倍ほどのスペースに拡張整備。17羽が入ったペンギン館はプールを含めて旧来の展示場の2倍近くに整備した。2007年から取り組み始めた同園の再整備事業の一環。どの施設も動物の動きや息づかいを様々な角度から体感できるよう、構造などに工夫を凝らしている。ビジターセンターは、展示や映像で動物園の役割などを伝える情報発信スペース。再整備事業は2013年4月に完了予定
浜松科学館【静岡県浜松市】2012.11
2階の「音のコーナー」をリニューアル。新しい展示物「響きの変わる部屋」と「楽器の断面模型」を設置。地元の楽器メーカーであるヤマハ株式会社が寄贈した。「響きの変わる部屋」は、音響信号処理技術を使った展示。プースの中で音を出す「劇場」「山びこ」「洞窟」「教会」の4つの場所の音の響きを体験することができる。リコーダーやギター、ドラムなど、8種類の管弦打楽器の断面模型は、楽器の構造を観察することができる
犬山市文化史料館(城とまちミュージアム)【愛知県犬山市】2012.10
「城とまちミュージアム」の愛称となってリニューアルオープン。老朽化などを理由に改修を実施。展示内容も従来は犬山祭中心であったが、再開後は「江戸時代の犬山城と城下町」が新たなテーマとなった。メーン展示物は、江戸時代末期の犬山城と城下町を再現したジオラマ。縦6.5m、横3.9mと大きく、犬山祭に車山(やま)が町を練り歩き、人々が練り出している様子を再現。現在の城下町や城の歴史を紹介する映像も整備した
蒲郡市竹島水族館【愛知県蒲郡市】2012.11
開館50周年(現在の場所に移転新築してから50周年)を機にリニューアル。熱帯魚やサンゴの水槽を並べた展示室「まったりうむ」を開設。まったりうむは「まったりと和む」と「アクアリウム(水族館)」を合わせた造語。クジラの骨などを展示していた標本室を改装し、熱帯魚、サンゴのほか、淡水魚や水草、カメレオンを展示する15の水槽とベンチを配置した。照明を抑え「大人も癒やされる空間」を演出している
下水道科学館【愛知県名古屋市】2012.11
名古屋下水道道の供用開始100周年にあわせてリニューアルオープン。「ガイダンスシアター」「下水道チャレンジイズ」「下水道バーチャルアドベンチャー」「水槽コーナーくらべてみよう木曾川の生きもの」を新たに設置。キッズコーナーも一新
東亜同文書院大学記念センター【愛知県豊橋市】2013.03
隣接する建物の会議室を改装し、貴重な歴史資料を保管する収蔵庫を新設。湿度を一定に保つパネルや耐火性能に優れた扉と壁を採用し、良い環境で資料を保存できるようにした。文部科学省の「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に採択され、1908年建設の記念センターの外壁を修繕し、展示室を増設した
名古屋科学館【愛知県名古屋市】2012.06・2013.03
天文館5階の展示「デジタルタイムカプセル」を更新。「デジタルタイムカプセル」は、新館整備前の科学館の様子や来館者へのインタビュー映像などの過去の記録をデジタル映像化し、見学者が関心のある映像を選択して視聴することができる展示。内容を一部更新して、名古屋出身の映画監督である堤幸彦氏の発案によるGAYAIT(ガイアイト)システムを導入。同システムは、ばらばらに話す約50名分の映像をモニターに同時に表示して、見学者の操作によって1人の話を映像・音的に浮かび上げることができるシステム。2013年3月、生命館5階の展示をリニューアル。生命館5階は2011～2014年度にエリア別に改装を行っている
名古屋市東山動物園【愛知県名古屋市】2012.04・2012.11
2012年4月、オオアライク、ヤブズメの獣舎をリニューアル。柵で囲われたオリから屋外で公開する方式に変更。アメリカ大陸コーナーではオオカミ舎をリニューアルオープン。ガラス越し、金網越しにオオカミと対面できる横欄100m以上の長い運動場を設置することで、来園者と動物との距離を近づけた。走る姿だけでなくオオカミの行動も観察しやすくなった。2012年11月、市民が地域文化の発展を願って寄付した茶室「宗節庵」がオープン。来園者が茶会や句会、音楽コンサートなどに利用することができる。モミジなど50種類の植物が植えられた日本庭園「也有園」の中に入り、季節の風景を楽しむことができる。軸部に金属を使っていない、伝統的な耐震構造の建物
新美南吉記念館【愛知県半田市】2013.01
半田市出身の童話作家・新美南吉の生誕100年を記念してリニューアルオープン。「南吉童話の世界を体感でき、南吉の息づかいを感じることができる空間」をテーマに改装を実施。同テーマに沿って、代表作「ごんぎつね」の肉筆原稿や手紙などを見ることのできるモニター装置を配置。画面に直接触ると、実際に本のページをめくるように資料を閲覧することができる。作品の名場面は模型などで再現。名作「手袋を買いに」では、ギツネが手袋を買った帽子屋の入口をつくり、ギツネの模型を置いた。「おじいさんのランプ」では、高さ4.4mの模型の木を設けて枝に20個のランプを吊り下げた。南吉が学生時代に住んでいた東京の三畳間の下宿部屋も再現された

<p>野外国族博物館リトルワールド [愛知県大山市] 2012.04・2013.03</p> <p>2012年4月、カフェと土産物店からなる新店舗「ワールドバザール」がオープン。従来の「リトルワールドレストラン」と土産物店「ワールドプラザ」に代わる店舗として、各国の軽食が楽しめる、世界の雑貨や酒を並べた土産物コーナーを整備。子ども向け商品も強化した。2013年3月、新しい展示建物「トルコ インスタンプルの街」が開業。開館30周年を記念した事業。新規の展示建物は15年ぶりで、23カ国32番目の建物となった。ユネスコの世界遺産に登録されているイスタンブール歴史地区にあるイスタンブール学院と民家をモデルに2棟を復元した。日本の大学に相当するイスタンブール学院にはトルコ料理店や土産物店が入っている。民家棟にはトルコの王などの衣装体験コーナーが配置されている</p>	<p>姫路市立美術館 [兵庫県姫路市] 2012.04</p> <p>改修工を終えて、リニューアルオープン。企画・常設展示室の床・壁の貼り替えや多目的トイレへの改修などを実施。美術品の管理に重要な温湿度を調節しやすくするため、常設展示室前に風除け用のドアを設置。作品が引き立つように、カーベットの色もグレーから深みのある茶色に変えた。作者や展示品について解説するビデオコーナーも新設。展示室内の一角には美術品の保管庫も設置した</p>
<p>津市香良洲歴史資料館(若桜会館) [三重県津市] 2012.04</p> <p>「戦争と平和」をテーマにした施設としてリニューアルオープン。同館は、耐震工事やバリアフリーに向けた設備工事のため、2011年9月から休館していた。以前から戦争に関する資料を展示していたが、今回のリニューアルで戦争を考える施設に特化し、展示品は全て戦時中の資料となった。「赤紙」と呼ばれた召集令状をはじめ、爆弾の破片や戦死者の遺品、航空隊員の日記など約400点を展示</p>	<p>兵庫県立人と自然の博物館 [兵庫県三田市] 2012.10</p> <p>開館20周年を記念してリニューアル。2階(階)はひとくく多様なフロア～魅惑する収蔵庫ドライブ～のコーナーを新設。20年の間に寄贈を受けたら、同館職員が収集するなどで集積した標本の一部を、来館者に見てもらうため、工夫しながら配置。兵庫県を代表するコウノトリなどを、昆虫や魚などの標本を見て楽しむことができる。アカミミガメとスッポンの甲羅を手にとると、両者の進化の違いを実感し、様々な化石に触れることで重さや表面の違いなどを体験することができる</p>
<p>大津市科学館 [滋賀県大津市] 2013.03</p> <p>全面的なリニューアル工を終えてオープン。デジタル映像で、球体に1千万分の1の地球を映し出し、触れることで地球を自由に回転させられる「触れる地球」などを常設展示。体感しながら科学の面白さを学べる施設を整備した。触れる地球は直径約1.2mで、緯度や経度などの基本的なデータに加え、過去10年の有感地震の発生地、リアルタイムの昼夜の状況など約60種類の情報を表示することができる。手で地球の表面を強く押すと、押した方向に地球の映像が回転し、世界中の様々な情報を見ることができ、「琵琶湖シアター」では、床と壁面の大型スクリーンに四季の風景や自然環境に関するデータが表示される。床の画像は人の動きに応じて変化。また、壁面に書かれた「慣性」「回転力」など法則や原理の解説に沿って各所に装置が設けられ、来館者が体験して学べるように工夫されている</p>	<p>葛城の道歴史文化館 [奈良県御所市] 2012.06</p> <p>改装工を実施。施設が老朽化したため、補修を行い、エアコンを新設。展示の充実化も行った。展示室の床には御所市全体の航空写真を貼り付けた。同市税務課が保有している航空写真を基に、「葛城の道」「巨勢の道」などの散策ルートや主要道路、主なポイントの標高を書き込んだ。そのほか、散策ルートの紹介や施設周辺の案内マップなどの新設。同市の鴨都波遺跡から出土した土器の展示も充実させた</p>
<p>アサヒビール大山崎山荘美術館 [京都府大山崎町] 2012.05</p> <p>建築家・安藤忠雄氏の設計による新棟・山手館「夢の箱」が完成。「夢の箱」は、本館北側の睡蓮池のほとりに建設。それまで展示できなかった芸術品や美術品の展示が可能になり、シンボリックやセリナーなども開催できる多目的ホールとして新設された。四角型の構造で延床面積約300㎡の建物。内部にはホールを兼ねた展示室などが配置され、同館の延床面積は全体で約1,500㎡に拡大した</p>	<p>寧楽美術館 [奈良県奈良市] 2012.06</p> <p>改修工を実施。展示室の照明に、赤、緑、青、白4色の濃度を自由に調整できる最新の発光ダイオード(LED)12基を設置。自然に近い色合いに調整できるため、作品本来の色合いや細かな部分をゆっくりに鑑賞してもらえるようになった</p>
<p>京都府動物園 [京都府京都市] 2012.04</p> <p>新展示エリア「もうじゅうワールド」が完成。2009年策定の新動物園構想に基づく全面改装の一環。猛獣舎の一新は約20年ぶりで、屋外展示場を含む床面積の合計は従来の1.5倍に拡張した。フェルトラエリアは3つの屋外展示場を空中通路3本でつないでいる。それまでの猛獣舎にはフェンスから1.5mの間隔を空けて、鉄柱の立ち入り防止策が設けられていた。新しいトラとゾウガの屋外展示場には、従来の網と、人の指が入らない細かな目のフェンス2枚を接合して立てる設計を採用。動物と入園者の距離を大幅に縮めた。ライオンとゾウがガラスやフェンス沿いで過ごす時間が増えるように、床暖房が入る一画と冷気の送風口を設置した。新「バク舎」も同時に開設。動物舎内のブラジルバクの様子を観望できるようにガラス窓を設置。水辺の湿地に生息するブラジルバクに配慮して、グラウンドに砂を敷き詰め、足への負担を軽減し、水浴用のプールを設置している</p>	<p>世界遺産熊野本宮館 [和歌山県田辺市] 2013.01</p> <p>2011年9月の紀伊半島豪雨で大きな被害を受けた同館の修復工事が完了し、再開。傾いた建物を水平に戻し、再び浸水被害に遭わないように基礎ごと約1.5mかさ上げを行った。館内には、修復を終えたパネル約50枚が展示され、熊野古道の魅力などを紹介。和歌山県内の民話や道普請などの取り組みを視覚的に伝えるために、2台のモニターを新設した。中央には、60インチのモニター3台を使った大型映像を楽しむコーナーも設置</p>
<p>京都府立植物園 [京都府京都市] 2012.06</p> <p>旧宿根草・有用植物園をリニューアル。宿根草を中心にハスや水生植物、有用植物などを1,000種類・2,000株植栽。車椅子の来園者の視線に合わせて花壇を造成。比較的暑さに弱い小型の宿根草を植栽したユニバーサルガーデンなどを整備</p>	<p>大地町立くじらの博物館 [和歌山県大地町] 2012.04</p> <p>2階に新しい展示が完成。最新の研究成果に基づいて、かつて陸上生活を受けたクジラの祖先が水に生活に適応していった様子をジオラマで紹介。そのほか、子どもの背丈に合わせて引き出し式のパネルを取り付けるなどの工夫を図った</p>
<p>京都府立植物園 [京都府京都市] 2012.06</p> <p>旧宿根草・有用植物園をリニューアル。宿根草を中心にハスや水生植物、有用植物などを1,000種類・2,000株植栽。車椅子の来園者の視線に合わせて花壇を造成。比較的暑さに弱い小型の宿根草を植栽したユニバーサルガーデンなどを整備</p>	<p>たたら資料館・根雨茶舎 [鳥取県日野町] 2013.03</p> <p>同茶舎が入っていた町公舎の老朽化が進んだため、改修工を実施。暮末から明治、大正にかけて、中国地方有数の鉄山師であった根雨・近藤家の歴代当主や、製鉄の一連の流れなどを紹介</p>
<p>大阪・海遊館 [大阪府大阪市] 2013.03</p> <p>開館以来最大規模の増設と新たな「新・体感エリア」をオープン。「水族館＝見るだけ」という概念を覆し、アクリルパネルを極限まで減らすことで、生き物との距離を大幅に近づけ、いきいきと暮らす多様なたちの海の世界に入り込んだかような体験をすることができ。展示コンセプトは「生物多様性＝生命と環境」。【北極圏】「フォークランド諸島」「モルディブ諸島」の3つのゾーンで構成。同エリアのオープンによって同館の展示スペースは拡大。体感型の展示を積極的に導入した。新しい体感エリアは、同館に隣接するエントランスビルの3・4階に増設し、新設のブリッジで同館と連結した。既存の「ふあふあクラゲ館(海遊館3階、現在の最終コーナー)」を観望後、水が浮かぶ海中景観を模した新設のブリッジで海中散歩を楽しむながら「北極圏」ゾーンに進む構造</p>	<p>鳥取県立まきばんだ史跡公園 [鳥取県大山町] 2012.04</p> <p>「鳥取県立まきばんだ史跡公園」がグランドオープン。それまで未公開地区であった墳墓群の広がる仙谷地区が公開され、「弥生の森」「発掘体感ひろば」が新たに整備された。国内最大の屋外型発掘体験施設「発掘体感ひろば」は、実際の発掘現場を基に再現されたエリアで、発掘作業の臨場感を味わうことができる。堅穴住居跡の発掘を難易度別に疑似体験できる砂場が3カ所に設けられたほか、発掘調査の過程を4段階に分けて見学できる施設も備えている。砂場には復元した土器や土器片、銅鏡のレプリカなどが埋められ、スタッフの指導を受けたながらスコップで掘り出す。1カ所は掘りやすいよう、砂の代わりに柔らかく軽い「樹脂ペレット」が敷き詰められ、幼児でも発掘体験を味わうことができる。公園内には弥生時代の樹木林を再現した「弥生の森」も整備された。弥生人の木製道具の素材となる木を集めた「道具の森」「木の実の森」など4種のテーマ林が整備された</p>
<p>大正産業大学商業史博物館 [大阪府東大阪市] 2012.04</p> <p>1年に及んだ大学建物の耐震工事が完了。新たに企画展示室を設置。企画展示室は2階の収蔵庫を改装して整備した</p>	<p>石見銀山世界遺産センター [鳥根県大田市] 2012.04</p> <p>古民家を改装して石見銀山遺跡の紹介施設「納箱(ともかん)」を開業。石見銀山世界遺産センターのサテライト施設として公開。世界遺産「石見銀山遺跡」の一部である納箱浦の港や街道を解説案内するために整備された。大田市内に寄贈された江戸末期から明治初期の木造民家(母屋、納屋)を2年がかりで復原。館内では、復原時期にこの地域で使われていたかまどや水がめなどの設備を再現しているほか、納屋を解説展示室に活用して、納箱浦の歴史などを解説している</p>
<p>キッズプラザ大阪 [大阪府大阪市] 2013.03</p> <p>5階科学コーナーに「からだの科学」「ボールの科学」がオープン。世界で初めて生きた人間の動きを3Dモーショングラフィックで再現した解剖学書「teamLabBody」が博物館展示として初登場。骨格の高精度な形態やモーションを自らの動きに合わせて確認することができる。展示コンセプトは「初体験型展示」「血管ズーム」や「はねはねスキャン」など、血液の動きが観察できるいたり、体内の臓器の仕組みがわかる展示を設置。従来から展示されていたボールを転がす人気展示「レースウェイ」もバージョンアップした</p>	<p>竹島資料室 [鳥根県松江市] 2012.11</p> <p>2011年8月の李明博韓国大統領の竹島上陸以降の動きを説明したパネルなどを展示に加え、リニューアルオープン。同資料室は、2007年4月に鳥根県庁分庁舎に開設され、書籍や文書、地図など資料約1,200点を所蔵。耐震改修工事のため、2012年6月から同じ分庁舎内の別の場所に仮移転していた。今回のリニューアルに伴い、展示面積をそれまでの60㎡から80㎡に拡大し、整備した</p>
<p>国立民族学博物館 [大阪府吹田市] 2013.03</p> <p>「日本の文化展示」の内容を刷新。「祭り」と芸能。「日々の暮らし」の展示を新構築・公開。「祭り」と芸能コーナーでは、熊本県山鹿町の八幡祭で使われる「大造り物」のうち、高さ5.5mの大きな漆塗の仁王像や、富山県高岡市の「胡弓つりりもんまつり野菜一式飾り」の「蘭殿王」(高さ2.5m)、鳥根県出雲市の「平田一式飾り」の「牛若丸と弁慶」を新たに展示。「日々の暮らし」のコーナーでは、「里」「海」「まち」「山」「東北地方」の5つに分けて、近代から現代までの地域の農具や漁具などを展示。東日本大震災に際して同館が行った支援活動も紹介</p>	<p>池田動物園 [岡山県岡山市] 2013.03</p> <p>北米に生息するブレイリードッグと南アフリカに生息するミーアキャットの新しい飼育舎「プレミア」がオープン。円形の飼育舎は、中央をアクリル板で区切り、ブレイリードッグとミーアキャットを飼育。ともに地中に巣穴を掘って生活するのが特徴。その様子がよくわかるように、飼育舎の一角に巣穴の模型を設置</p>
<p>伊丹市立こども文化科学館 [兵庫県伊丹市] 2013.03</p> <p>プラネタリウムがリニューアルオープン。天の川の星々も映し出すことができる最新型のプラネタリウム投影機を導入。約500万個の星を投影することができ。新たに導入した投影機では最大1千万個の星を投影できるが、500万個に絞って興行きのある星空を再現した。LEDを使用しているため、消費電力は30分の1に低減。新型機の導入後も、地元の夜空を学芸員が解説するアウトホームな同館のスタイルはそのまま継続されている</p>	<p>岡山シティミュージアム(旧:岡山市デジタルミュージアム) [岡山県岡山市] 2012.10</p> <p>「岡山シティミュージアム」に改称してリニューアルオープン。5階フロアに、岡山空襲の悲惨さや平和の尊さを次世代に伝える拠点として、常設展示室「岡山空襲展示室」を新設。同展示室は、約200㎡のスペースに、投下された焼夷弾や戦時中の雑誌、犠牲者の死亡届など資料約110点や、空襲直後の岡山市内をとらえた航空写真など写真パネル約40点を展示。約200ワットの電球を黒い布で覆い、灯火管制を再現した和室や、生存者の体験談を紹介したコーナーも設置された。それらの資料の一部は、戦災資料を保存してきた岡山空襲平和資料館の丸山竜雄氏が寄贈</p>
<p>カワサキワールド [兵庫県神戸市] 2012.07</p> <p>パフォーマンロボットの展示をリニューアル。新たに、川崎重工株式会社産業用ロボット(汎用ロボット、ピッキングロボット、クリーンロボット)を展示。人型ロボットがそれぞれロボットの特徴や技術を紹介する「パフォーマンス」を実施</p>	<p>庄原市比和自然科学博物館 [広島県庄原市] 2012.07</p> <p>庄原市比和自然科2階を改装して、比和自然科学博物館地学分館がオープン。化石展示室と岩石と鉱物の展示室で構成。同市内で発掘されたクジラの化石など、772点の資料をテーマごとに2室に分けて展示。化石展示室では、中国大陸が海だった頃、回遊していた4種類のクジラ化石を展示。岩石と鉱物の展示室では、世界の様々な種類の岩石や鉱物、三葉虫、アンモナイトなどを手にとって観察することができ、化石クリーニング作業の体験コーナーも設置</p>
<p>神戸市立須磨海浜水族園 [兵庫県神戸市] 2012.07</p> <p>学習展示エリア「悠ちゃんコスモス」をオープン。サメに襲われて前肢を失ったアカミミガメ「悠ちゃん」の視点で世界の海を学習できるスペース。同園のリニューアル25周年を記念して企画。魚の標本を展示していた「水族園おもしろ教室」を改装して、5つの展示コーナーを設置。入口には、悠ちゃんを襲ったサメにちなみ、古生代のサメ「カルカロクレス・メガロドン」のあご歯のレプリカを展示。悠ちゃんが海岸や砂地、外洋で出会ったであろう様々な海の生き物を紹介して、悠ちゃんが見た海の世界を体感できるようにしている。そのほか、同園の研究員が講義で使う実験台や顕微鏡、生き物の進化の歴史を学ぶパネル、図書などを配置</p>	<p>広島市安佐動物公園 [広島県広島市] 2012.04・2013.03</p> <p>2012年4月、チンパンジー舎を改装オープン。1971年の開園時から設けられていた園舎は平らなスペースが50㎡しかなく、チンパンジーが自由に動き回ることができなかった。また、来園者は観望用の堀(幅5m)を隔てて、やや遠くからチンパンジーを見ていた。そこで、もっと生き生きとした姿を見てもらうと、同園は2011年12月から、堀をなくして園舎を網で囲む工事を開始。約290㎡の地上スペースがある新園舎が完成した。一部に強化ガラスはめ、動くチンパンジーを間近で見られるように工夫されている。2013年3月、新設されたチーター舎がオープン。新しいチーター舎は、ガラス越しに見学できる室内展示舎や大きな石で開けた洞穴などがあるサブパナをイメージした放牧場、寝室などで構成。チーターは寒さに弱いため、寝室や洞穴には暖房設備を設置</p>
<p>姫路科学館 アトム館 [兵庫県姫路市] 2013.03</p> <p>開館20周年を機にプラネタリウムをリニューアル。映像システムの更新、光学式プラネタリウムのLED化、付帯設備の改修を実施した。以前は地上から見た星空しか映し出せなかったが、最新のデジタル映像システムの導入により、観客が地球を飛び出し、宇宙空間を360度自在に眺めているかのような体験ができる。投影できる恒星の数は2万6千個から35万個に増え、光源をLEDに変えて1.5倍明るくなった。投影レンズなど従来システムの基幹部分そのまま活用しながら、内部を改良することで新しい機構へのバージョンアップを図った。車椅子利用者のスムーズな移動をサポートする可搬型電動階段昇降機を導入するとともに、聴覚障がい者向けの赤外線補聴システムも採用。ベンチシート型の「親子席」10席を新たに設け、グループでプラネタリウム観賞を楽しむ工夫を図った</p>	<p>秋吉台自然動物公園(サファリランド) [山口県美祿市] 2012.08</p> <p>レストランがリニューアルオープン。食事をしながらレッサーパンダが見られるように改装。レストランの窓の外側にはレッサーパンダ展示場を新設。木登りや餌に手を伸ばす仕草を窓越しに観察できる</p>

山口県立美術館 [山口県山口市] 2012.04 開館から30年以上が経過したことによる施設の老朽化に伴い、大規模改修工事を実施。入口をガラス張りにして、自然光を取り入れることで、ロビーをより開放的な空間に整備。日本画の鑑賞に特化した展示室には、畳(24畳)のスペースを設置し、靴を脱いで畳に上がり、ゆったりと鑑賞できるようにした。所蔵作品の状態を保つための空調整備は最新式のものに替え、鑑賞するための照明はLEDを導入。そのほか、ミュージアムショップの拡充、講座室や敷地内遊歩道の整備も実施
阿波木偶資料館 [徳島県徳島市] 2012.10 1993年の開館以来初となる大規模リニューアルを実施。農村舞台や農村舞台の楽屋裏をイメージした展示コーナーを設置。ガラスケースの中に木偶が並び、従来の展示様式を一新した。2つに分けられた展示室の1室「農村舞台の楽屋裏(楽屋)」は、通常では入ることが難しい農村舞台の楽屋の様子を再現。もう1室「阿波人形浄瑠璃の世界(夜の農村舞台)」は農村舞台の舞台前面を想定し、襖からくりや人形浄瑠璃の映像を流すスクリーンを配置。展示室の中央には同館のイメージキャラクターの恵比寿が展示され、周囲の展示スペースには、様々な木偶が種類別・外題別に展示されている。資料を体系的に網羅し配置する展示ではなく、ストーリー性を持たせて資料を配置する展示を展開
海陽町立博物館 [徳島県海陽町] 2012.04 開館15年目を機にリニューアルオープン。玄関ロビーに60インチの大映像スクリーンを設置。町指定天然記念物のハッチョウトボや大里八幡神社のたんじりなど、同町の自然や伝統行事など31の見どころを映像で紹介。海部川展示コーナーにも縦1.2m、横2.1mのスクリーンを新設
徳島県立博物館 [徳島県徳島市] 2012.04 遊びながら自然や歴史について学べる体験型教材を並べた「キッズチャレンジコーナー」を設置。弥生土器などの組み立てパズルのほか、お手玉やモノなど、昔遊びも楽しめる。それまでは常設展示室の一角に体験型教材が置かれていたが、利用者アンケートで同教材の増加を望む意見が多かったため、大幅に拡充し専用コーナーとして整備
徳島大学ガレリア新館 [徳島県徳島市] 2012.04 展示室の内装を一新。照明や展示ケースの位置を変えたほか、テレビモニターを新たに設置。徳島大学の沿革や理念・目標、学部を紹介する常設展示は和英2カ国語で表記。常設展示とともに、教育・研究など、同大学の様々な活動を取り上げた企画展示を実施
とくしま動物園 [徳島県徳島市] 2012.04 ペンギンプールがリニューアルオープン。改修工事は2011年11月に着工。水深約1.2mだったプールをさらに約1.3m掘り下げて、前面に透明度の高いアクリル板を張った。周囲には約100人収容の観客席を設け、プールボートペンギン10羽が水中深く潜ったり、餌を食べたりする姿をアクリル板越しに間近で見ることができる
絵画蔵 [高知県香南市] 2012.06・2013.03 2012年6月、第2展示室を改修。それまでは、作品が傷まないようにレプリカを中心に展示していたが、年間を通じて実物を展示するために、湿度を一定に保つなどの機能を備えたエアタイトケースを導入。2013年3月、取蔵庫の津波防災改修を終えてリニューアルオープン。絵屏風などを保管する1階取蔵庫扉を最大6mの浸水に耐える構造に改修
北九州市環境ミュージアム [福岡県北九州市] 2012.05 開館10周年を機にリニューアルオープン。第3ゾーンは「地球環境とわたしたち」にコーナータイトルを変更して、人類が直面している環境問題について楽しく学べる体験型のトラクションに全面改修。小・中学生により親しみやすい内容に一新した。市民や企業の環境活動を紹介するコーナーも新設。館内の展示室の照明にはLEDを導入。映像機器も全て液晶テレビに変更した
北九州市立自然史・歴史博物館(いのちのたび博物館) [福岡県北九州市] 2013.03 市制50周年・開館10周年を記念してリニューアルオープン。「スー」の愛称で知られる肉食恐竜ティラノサウルスの世界最大の全身骨格レプリカ(全長12.8m)など、4体の骨格標本を加えたほか、アースモールの壁面に、生きて動き回った恐竜や翼竜の様子を体感できる360インチの巨大な映像演出を新設。太古の北九州市を再現した「エンパイラマ館」では、最新の学説を反映した羽毛恐竜のロボットを配置。「生命の多様性館」横スロープ通路では「いのちのみち」に見立てた映像・照明演出を設置した。そのほかにも、戸畑・小倉・黒崎の「三大祇園」の山車や山笠を一堂に展示したり、北九州の近現代の展示スペースや「オープンギャラリー」も拡張した
福岡市動物園 [福岡県福岡市] 2012.10 オランウータンとシロテナガザルを一緒に飼育する展示エリアなど、本来の生態系に合わせて見せ方を工夫した「アジア熱帯複合展示施設」が完成。敷地面積約1,800㎡のエリアに、エレベーターやスロープを整備し、高齢者などに配慮した設計にしている。熱帯アジアのジャングルを模した施設では、計9種類の動物を見ることができた。オランウータンとシロテナガザルがいるエリアには、高さ15mの金属タワー3本を設置し、タワー間にはロープを張り巡らして模擬森林を形成した。タワーに上ったり、ロープを渡ったりする迫力ある様子が見られるようになった。また、コツメカワウソがいる水槽では、元気に泳ぐ様子を観察できるように壁面をガラス張りにし、ジャコウネコ的一种・ピントロングのおりは、真下から見上げられる構造にするなど、多くの工夫が行われている
福岡市博物館 [福岡県福岡市] 2012.04・2013.03 2012年4月、「ユニバーサルミュージアム」の観点から改修工事を行い、リニューアルオープン。設備の老朽化に伴い、取蔵庫が傷むことがないよう、年間を通して一定の温湿度を保つための空調機器を整備。体験学習室(現・みたいけんラボ)を2階から1階に移して拡充したほか、授乳室、多目的研修室、情報検索コーナーを新設。さらに、屋外西側の庭をオープンテラスに改修。2013年3月、世界各地の服や楽器、盤ゲームなどに触れる無料の体験学習室「みたいけんラボ」の名称でリニューアルオープン。親や障がい者からの意見をもちに、照明の明るさや床のバリアフリーに配慮。室内は「装う」「演じる」「奏でる」「知る」のコーナーで構成。体験学習資料はリニューアル前より倍増した
福岡市民防災センター [福岡県福岡市] 2012.11 全国初の「水害バーチャル体験施設」を開館。豪雨で冠水した地下室や車内の状況を疑似体験できる。ドアに押し寄せる濁流の脅威をコンピュータグラフィックス(CG)で表現。CGで水がドアに到達すると、油圧でドアが開きにくくなる仕組み
佐賀市徐福長寿館・業用植物園 [佐賀県佐賀市] 2012.06 遊歩道などを整備してリニューアルオープン。1995年の開園時には、約5万本の葉草が植えられていたが、枯れたり、イノシシなどに食べられたりしたため、葉草約2,500株を植え直したほか、遊歩道のバリアフリー化やインシシよけの柵を新たに設置した。滋養強壮、ストレス、婦人病などの効用別に葉草を並べたスペースも整備

吉野ヶ里歴史公園 [佐賀県吉野ヶ里町] 2013.03 弥生時代の森などを再現した「古代の森」がオープン。同公園に新しいエリアが完成したのは、2008年2月の「北壇丘墓」以来約5年ぶり。公園北側の11haにあたる「古代の森」は、弥生人の暮らしを体験できる場として整備された。シヤクノキなど100種の樹木を植えている1.3haは、佐賀市の嘉瀬川ダム建設の際、水没予定地内の森を地面ごと切り取る「生態移植工法」で移植。発掘調査によって甕棺約470基が出土した長さ約300mの「甕棺墓列」では、甕棺を埋めたことを示すために盛ったとされる「土饅頭」約430基を再現し、甕棺のレプリカを約40基も設置した。さらに「古代植物館」を新設して、弥生時代の木製のほしごなど約160点を常設展示。同公園の国営部分の整備はおおむね完成
西海国立公園九十九島動物園 森きさら(旧:佐世保市亜熱帯動物園) [長崎県佐世保市] 2012.11 サルのような行動が楽しめるモンキーゾーンの全面供用が開始。モンキーゾーンは2011年の開園50周年記念事業で整備。一部は既に運用していたが、新たにクモザルやテナガザルの展示施設を整備して全面供用に至った
長崎歴史文化博物館 [長崎県長崎市] 2012.04 常設展示室がリニューアルオープン。暮末・維新期の展示スペースを約2倍に拡張し、古写真など実物資料の展示を増加。また、「体感」をテーマに、縦2.5m、横9mの大映像スクリーンを設置して、坂本龍馬や天正遣欧使節など、5つのストーリーを放映するミニシアター「長崎交流歴史伝」を新設した。そのほかにも、江戸期の貿易品などに触れることができる参加体験型の展示や、大きくて読みやすい解説パネルを設置した。さらに、詳しいデータを必要に応じて引き出すことができる最新のタブレット型情報端末も導入
金魚の館 [熊本県長洲町] 2012.05 館内の改修工事を行い、リニューアルオープン。従来は展示だけの施設であったが、憩い、イベント開催、情報発信などの機能を加えた施設として整備した。展示する金魚は、体長40cm余りの「ジャンボシガシラ」を始めとした10種・30匹。金魚みこしや生産者も紹介している
熊本県立美術館 [熊本県熊本市] 2012.04 本館2階に細川家ゆかりの美術工芸品などを所蔵する公益財団法人水青文庫の「細川コレクション常設展示室」がオープン。2008年に「細川コレクション常設展示室」を別棟に開設しているが、さらに多くの所蔵品を見もらうために本館2階展示室の第1室を改装して整備した。照明設備には、紫外線や赤外線が少なく、展示品の損傷を抑えることができるLEDを使用し、展示ケースには低反射ガラスを採用した
熊本県動物園 [熊本県熊本市] 2013.03 フンボルトペンギンとカピバラの展示エリアの改修工事が完了。動物本来の行動や習性を観察できるように生息環境を再現。ペンギンエリアは、以前の2倍以上の約255㎡に拡大。フンボルトペンギンの生息地であるバールの海岸をイメージして岩場などを整備し、プール側面に設置されたアクリル板からは水中で泳ぐ姿を観察できる。カピバラエリア(約438㎡)は、南米アマゾン川流域の湿地帯や草原を再現。カピバラは暑い時に体を冷やしたり、排せつする際には水中に入らため、それまではなかったプールを3カ所に設置した
別府市美術館 [大分県別府市] 2012.09 展示内容の変更を行い、リニューアルオープン。1984年に現在の場所に移動開館して以来初の本格的な展示替えを実施。絵画など美術部門の展示室をそれまでの4室から7室に増やし、生活文化・歴史資料を2つの展示室に構成変更。絵画など美術作品の展示点数は88点から125点に増加。別府現代絵画展や別府アジアビエンナーレ入賞作品の展示室を新設。竹工芸品の展示室は1階から2階に移し、新たに書の内容を同じ部屋に展示することで和の雰囲気演出した
旭化成延岡展示センター [宮崎県延岡市] 2012.07 改装工事を行い、リニューアルオープン。仮想のリビングルームやモデルカーを配置するなど、同社の製品が実際に使用されている場面がわかるように展示を改装。また、次世代を担う子どもたちに、理科や科学に関心を持ってもらうために様々な実験ブースを設置。延岡市を活動拠点とする旭化成株式会社の上陸競技部・柔道部の活動PRコーナーも新設した
宮崎県農業科学公園(ルビンスパーク) 農業科学館 [宮崎県高鍋町] 2012.08 2階に「口蹄疫メモリアルセンター」がオープン。宮崎県で2010年に発生した家畜伝染病・口蹄疫の記憶の風化を防ぎ、教訓を生かすための情報発信拠点施設として整備。発生状況の記録や防疫対策の啓発資料を展示。パネルや映像で口蹄疫について解説し、牛や豚約30万頭を殺処分した影響に関するデータなどを紹介するほか、全国から届いた寄せ書きや千羽鶴なども展示した。子ども向けに防疫対策を啓発するコーナーも設置
鹿児島市平川動物公園 [鹿児島県鹿児島市] 2012.04 「南アメリカの自然ゾーン」がリニューアルオープン。南アメリカに生息する動物をテーマに展示。フラインググーゼでは、約50羽の群れを周囲から観察することができる。バク・カピバラ展示場では、同動物公園に泉源をもつ温泉を活用したプールを設置。多目的トイレを設置するなど、来園者の利便性の向上に配慮した整備を実施
鹿児島市立科学館 [鹿児島県鹿児島市] 2013.03 2003年度以来、2回目となる展示の全面リニューアルを実施。新しいテーマは「もっと科学がおもしろくなる、もっと鹿児島が好きになる」に設定。展示場は「地球の科学」「宇宙の科学」「サイエンスラボ」の3つのゾーンで構成。「地球の科学」では桜島に関する展示を充実。高さ約180cmほどの桜島の模型で地形や内部構造について学べる「桜島ウォークスル」や、人力飛行機で上空から桜島を観察した気分が味わえる「桜島スカイサイクル」を新設。「宇宙の科学」には直径2mのドーム型映像装置「さわれる太陽」を設置。手で触れることで太陽系に関する情報が次々と表示される。拡充した「サイエンスラボ」には科学劇場を新設。実験ショーが毎日開催されるほか、科学工作が自由に楽しめる「だれでも工房」など、参加体験型の展示設備を充実させた
境界町歴史民俗資料室 [鹿児島県境界町] 2012.12 展示レイアウトを一新してリニューアルオープン。取蔵庫の分類とリスト化を図り、分野ごとの体系的な展示に改装。新館1・2階と、隣接する旧館2階に計約470㎡の展示スペースを確保。新館1階には約25㎡の畳敷きのコーナーを設け、鳥唄を中心に約100曲を試聴できるようにした。同2階では農具、漁具、生活用品を主に展示。同町出身の民謡研究者・久保けんお氏の直筆原稿や楽譜、大正琴など貴重な資料も展示した。旧館2階には、同町指定文化財を中心に、大鳥川の神具、大鳥川の道具類を展示
那覇市伝統工芸館 [沖縄県那覇市] 2013.03 開館20周年を記念して特別展示室をリニューアルオープン。施設の面積は、従来の1.3倍の約400㎡に拡張。特別展示室は、工芸に特化した展示会場として、新たに企画ギャラリーを併設。作品発表や展示販売会などに活用する。企画ギャラリーは、若手制作者が活用することを念頭に置いて整備した。両面染め紅型着物(人間国宝・玉那覇有公民制作)の表裏に染め上げられた柄を見ることのできる両面ガラス張りの展示も用意した

開設博物館、リニューアル博物館に関するデータの集計・分析では、各館の開設、リニューアル当時のデータに基づいて集計を行いました。2011・2012年度の開設博物館情報、リニューアル博物館情報について、調査もれ、記載間違いなどがある場合は、ご教示いただければ幸いです。(石川・福岡)



ミュージアム・データ No.79 2015年2月2日発行

発行:(株)丹青研究所 〒110-0005 東京都台東区上野5-2-2

http://www.museum.or.jp/tanseiken/

企画・編集:文化空間情報部 ☎03-3836-7598

©Tansei INSTITUTE